



令和8年度（2026年度）

履修の手引き

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科



目 次

はじめに	2
ディプロマポリシー (DP)・カリキュラムポリシー (CP) について	3

第1章 履修に関すること

【博士前期課程】

(1) 授業科目と修了要件について	4
(2) 履修願・履修登録手続について	5
(3) 入学時期(4月・10月)別にみた特別ゼミナール等の履修順序	6
(4) 開講科目一覧表、履修登録コード一覧表	7
(5) 特別ゼミナール関係履修登録コード一覧表	11
(6) 履修モデル(カリキュラムマップ)について	21
(7) カリキュラムマトリクスについて	22
(8) オープン大学院(先端医療工学研究所)開講科目について	24
(9) コミュニティ・プランナー (CP) 共通科目について	24
(10) 一級建築士実務経験認定コース	24
(11) 専修免許状取得について	24

【博士後期課程】

(1) 授業科目と修了要件について	25
(2) 履修願・履修登録手続について	25
(3) 博士後期課程学生の単位認定時期	26
(4) 博士後期課程の授業科目、履修コード及び単位数	26
(5) 履修登録コード一覧	27

【博士前期課程及び博士後期課程共通事項】

(1) 修了時期について	28
(2) 長期履修について	28
(3) 論文発表会・公聴会等について	28
(4) 休学について	29
(5) 退学について	29

第2章 授業・休講・試験及び成績に関すること

(1) 授業について	30
(2) 休講について	30
(3) 試験及び成績について	30
(4) 成績に対する確認及び不服申立てに関する要綱	31
(5) 試験の不正行為に対する処置規程	37

第3章 指導教員別研究指導の概要

(1) 博士前期課程(研究指導のねらい)	38
(2) 博士後期課程(特別演習・研究指導の概要)	45
(3) 博士後期課程(特別研究)	49

第4章 関係規程等

(1) 兵庫県立大学環境人間学研究科規程	50
(1) 兵庫県立大学長期履修規程	58
(2) 兵庫県立大学環境人間学研究科長期履修規程	60

第5章 その他

(1) 学年暦	61
---------	----

はじめに

学生の皆様へ

学生は、履修に関する決まりごとに従って、計画的に履修し、所定の単位を修得しなければなりません。

もし、履修の方法や順序を誤ると、修了出来ない場合もあります。

履修に関する決まりごととして、学則、研究科規則等(学生便覧第4章及び第5章参照)を定めていますので、折に触れて読み返し、理解を深めてください。

なお、この冊子に記載されている事項のほか、学務課からのお知らせは、すべてメールにより行いますので、日々のメールチェックを習慣付けてください。

履修の手引きに記載している内容及びメール配信で周知した内容は、学生が読み、承知したものとみなしますので、これらを確認していなかったからと言って、事後に異議等を申し立てることは出来ません。

なお、履修に関する疑問や相談したいことがある場合は、早めに学務課へ問い合わせてください。

令和8年4月

学務課

【学務課連絡先】

〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12
兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課
TEL:079-292-1513 FAX:079-292-1530
E-mail:gakumu@shse.u-hyogo.ac.jp

【窓口対応時間】

月曜日～金曜日(祝日を除く)
9:00～11:30及び12:30～17:00

※時間外の対応は行っておりません。

ディプロマポリシー(DP)・カリキュラムポリシー(CP)について

1. 卒業認定・学位授与方針(ディプロマポリシー)

【博士前期課程】

- (1) 諸専門の知識や情報を組織して問題解決に向かう研究態度を身につけている
- (2) 社会のニーズに応える高度の専門知識と総合的、実践的な問題発見・解決能力を身につけている

【博士後期課程】

- (1) 環境人間学の学理と方法論をさらに深く科学的に考究できる能力を身につけている
- (2) 環境と人間のあり方を正しく理解し、環境に関する諸問題に対して総合的、創造的な視点から対処しうる高度の研究能力を身につけている

2. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

- (1) 博士前期・後期課程ともに、環境創造を担う高度な識見と、環境に関する諸問題を体系的・総合的に分析・解明できる研究力を身につけるために、指導教員による少人数指導を通じた綿密、かつ独創的な研究指導を実施する
- (2) 博士前期課程の1・2年次には、人間環境・社会環境・共生博物の各部門の専門科目を通じて、従来の学問領域の枠にとらわれない幅広い知識について学ぶために、リサーチトレーニング特論、および人間環境・社会環境・共生博物の各部門の専門科目を提供する
- (3) 博士前期課程の1年次には、専門とする研究領域の基礎的知識、およびその研究方法論について指導教員より学ぶために、特別ゼミナールⅠ(前期)、特別ゼミナールⅠ(後期)、特別ゼミナールⅡ(前期)、特別ゼミナールⅡ(後期)、特別実験(前期)、特別実験(後期)、健康スポーツ科学課題演習ⅠⅡ、特別フィールド研究Ⅰを提供する
- (4) 博士前期課程の2年次には、専門とする研究領域の応用的知識、およびその研究方法論について指導教員より学ぶために、特別研究(前期)、特別研究(後期)、特別フィールド研究Ⅱ、特別フィールド研究Ⅲを提供する
- (5) 博士後期課程では、次世代における環境学、人間学分野における指導的人材にとって必要な専門的知識、およびその研究方法論について指導教員より学ぶために、環境人間学特別演習、環境人間学特別研究、産学連携実践講義を提供する
- (6) 博士前期・後期の両課程を通じて、姫路環境人間キャンパス、自然・環境科学研究所をベースとして、県全体を学習の場とする新たな学問的知見について学べる機会と場を設置する
- (7) 学修成果の評価は、試験、レポート、参加度、発表内容、論文の審査結果等により、学修目標に即して多面的な方法で行う

第1章 履修に関すること

【博士前期課程】

(1) 授業科目と修了要件について

環境人間学研究科博士前期課程において開講する授業科目は、7～10ページの「開講科目一覧表」等のとおりです。

各授業科目の講義内容は、学内LANを利用したWEB履修登録システム「ユニバーサルパスポート」または兵庫県立大学HP (<https://www.u-hyogo.ac.jp/campuslife/syllabus/>) に掲載されているシラバスより確認してください。

博士前期課程ゼミナール関係については、11～20ページにより確認してください。

修了要件は、以下のとおりです。

【修了要件】※P6を参照

本研究科博士前期課程に2年以上在学し、次の1～6または1～7の要件を満たすこと。

【一般学生・社会人学生共通】※社会人学生については、特別フィールド研究を選択しない場合

1. 30単位以上(授業科目から14単位以上)を修得すること。
2. 1年次に特別ゼミナール(前期)Ⅰ・(後期)Ⅰを修得すること(必修)。
3. 1年次に特別ゼミナール(前期)Ⅱ・(後期)Ⅱ、または特別実験(前期)・(後期)、または健康スポーツ科学課題演習ⅠⅡを修得すること(選択必修)。
4. 2年次に特別研究(前期)・(後期)を修得すること(必修)。
5. 修士論文中間発表を終えていること(8月及び2月頃開催予定)。
6. 必要な研究指導を受けた上で、定められた期限までに修士論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。

【特別フィールド研究を選択する社会人学生の場合】※特別フィールド研究は社会人学生のみ選択可能

1. 30単位以上(授業科目から12単位以上)を修得すること。
2. 1年次に特別ゼミナール(前期)Ⅰ・(後期)Ⅰを修得すること(必修)。
3. 1年次に特別ゼミナール(前期)Ⅱ・(後期)Ⅱ、または特別実験(前期)・(後期)、または健康スポーツ科学課題演習ⅠⅡを修得すること(選択必修)。
4. 1年次の後期に特別フィールド研究Ⅰ(10月入学の場合はⅡ)を修得すること(必修)。
5. 2年次に特別フィールド研究Ⅱ・Ⅲ(10月入学の場合はⅠ・Ⅲ)を修得すること(必修)。
6. 修士論文中間発表を終えていること(8月及び2月頃開催予定)。
7. 必要な研究指導を受けた上で、定められた期限までに修士論文を提出し、審査と最終試験に合格すること。

【注意点】

1. 特別フィールド研究(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)は、社会人学生のみ選択可。※条件等は6ページ参照
2. 産学連携実践講義については、修了所要単位数(30単位)に含まないので、注意すること。
3. オープン大学院(先端医療工学研究所)で開講される科目のうち、修了所要単位数に含まれる科目は決まっているため、必ず開講科目一覧表を確認すること。(原則オンライン配信であるが、履修登録をする前に授業形態を確認すること)
4. 所定の手続きのうえ、許可された場合は、他研究科開講科目から6単位までを修得することができる。希望する場合は事前に学務課に申し出ること。
5. 履修の順序については、6ページの「入学時期(4月・10月)別にみた特別ゼミナール等の履修順序」を参考にすること。
特に、10月入学生は、前期・後期と書かれた科目の履修順序が逆になることがあるので、よく確認すること。
6. 不明な点があれば、速やかに学務課に問い合わせること。問い合わせや確認なく、履修登録期間後になってから登録できなかった、等の異議を申し立てることは出来ないので、注意すること。

(2) 履修願・履修登録手続きについて

履修登録、修正、削除、論文発表会その他の連絡は、メールにて通知しますので、必ず登録のうえ、定期的に確認してください。

なお、下記記載内容は令和8年4月1日現在のもので、登録内容や様式等に変更があった場合も、メールにて通知しますので、メールの内容をよく確認して下さい。

履修登録については、開講科目一覧表、時間割、シラバス等を見てよく検討し、指導教員に相談し、承認と押印を受けた科目を、マニュアルに従ってユニバーサルパスポートへ登録すると同時に、履修登録シートを学務課に提出してください。

【履修の注意点】

- ①新規履修登録は、年1回、4月上旬の所定期間内 (10月入学生は年度をまたぐため、半期ごとに年2回、新規登録が必要)に行ってください。
- ②登録期間及び登録方法は、4月及び10月初旬頃の登録日開始前にメールへの通知(提出様式もメールに添付)によりお知らせします。
- ③履修登録は、「ユニバーサルパスポート」によるシステムへの登録及び、「WEB履修登録シート」の学務課への提出の両方を必ず行って下さい。
- ④履修登録終了後は、各自「時間割表」を出力して確認をし、変更したい場合は、再度システムから変更処理をしてください。履修登録期間内であれば何度でも登録内容の変更は可能です。
- ⑤システムに登録した全科目が反映されているか、紙で提出した履修登録シートと内容が同じか等を、必ず履修登録期間内に再確認してください。システムエラーや入力ミス等により登録内容に問題があったとしても、登録期間後の変更は原則として認めていません。
※システムでの履修登録が困難な場合は、必ず登録期限までに学務課に相談してください。
- ⑥「WEB履修登録シート」を学務課に提出してください。
※登録シートは、履修登録案内通知メールに添付しています。両面印刷して、前期・後期分同時に記載し、指導教員の承認と押印を受けてから学務課に提出してください。
- ⑦4月に前期・後期分を同時に登録しますが、後期分については、10月にも修正・削除が可能です。
※10月入学生は、4月及び10月それぞれで新規登録する必要があり、1年分を同時に登録出来ません。
- ⑧4月及び9月頃に修正期間及び提出様式をメールで通知しますので、履修内容を修正する場合は、期間内にシステムによる修正登録すると同時に、学務課へ履修登録シートを提出してください。
- ⑨5月頃及び11月頃に履修登録の削除(のみ)が可能な期間があります。期間前にメールにて通知(提出様式もメールに添付)します。
なお、履修登録した科目の削除については、ユニバーサルパスポートからのシステムによる取消は必要ありません。学務課への「履修登録シート(削除)」用紙の提出のみで受け付けます。

【学務課への提出書類】

提出書類	提出時期(目安)	備考
履修登録シート (新規登録) <u>※両面印刷</u>	4月入学者…4月 10月入学者…10月及び4月	・4月に前期・後期分の授業 <u>両方を登録・提出</u> する。 ・10月入学者は、半期分ずつ <u>年2回の登録・提出が必要</u> 。 ・ユニバーサルパスポートにも登録する。
履修登録シート (履修内容修正)	4月入学者…4月及び10月 10月入学者…10月及び4月	・後期分については、10月にも修正期間あり。 ・10月入学者は前期・後期分とも毎回修正が必要。 ・ユニバーサルパスポートでの修正不可。紙提出のみ。
履修登録シート (履修内容削除)	4月入学者…5月及び11月 10月入学者…11月及び5月	・後期分については、11月にも削除期間あり。 ・10月入学者は、登録した半期分のみ削除すること。 ・ユニバーサルパスポートでの削除不可。紙提出のみ。
指導教員届(M-9)	入学時	・届出提出後、指導教員が変更になる場合は、すぐに学務課に相談のうえ、指導教員変更届を提出する。
研究指導計画書 (M-2)	4月入学者…4月 10月入学者…10月	・4月入学者は4月、10月入学者は10月に、学務課から案内及び様式配付をする。

※履修登録だけでなく、入学時、2年目当初に提出が必要な書類があります。

メールにて通知しますので、確認のうえ、必ず期間内に提出してください。

※提出時期、提出方法等はあくまで現時点での目安であり、変更する場合がありますので、詳細については必ずメールを確認すること。

(3) 入学時期(4月・10月)別にみた特別ゼミナール等の履修順序

【博士前期課程】

1. 一般の学生及び特別研究を選択した社会人学生

4月入学	区分		必修(4単位)	選択必修(12単位)	授業科目(選択) 14単位以上 (P7~P9)
	1年目	4月	特別ゼミナール(前期) I (2単位)	特別ゼミナール(前期) II (2単位) または 特別実験(前期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 I (2単位)	
		10月	特別ゼミナール(後期) I (2単位)	特別ゼミナール(後期) II (2単位) または 特別実験(後期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 II (2単位)	
	2年目	4月		特別研究(前期)(4単位)	
10月			特別研究(後期)(4単位)		

10月入学	区分		必修(4単位)	選択必修(12単位)	授業科目(選択) 14単位以上 (P7~P9)
	1年目	10月	特別ゼミナール(後期) I (2単位)	特別ゼミナール(後期) II (2単位) または 特別実験(後期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 II (2単位)	
		4月	特別ゼミナール(前期) I (2単位)	特別ゼミナール(前期) II (2単位) または 特別実験(前期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 I (2単位)	
	2年目	10月		特別研究(後期)(4単位)	
4月			特別研究(前期)(4単位)		

2. 特別フィールド研究を選択した社会人学生

4月入学	区分		必修(4単位)	特別フィールド研究選択(14単位)	授業科目(選択) 12単位以上 (P7~P9)
	1年目	4月	特別ゼミナール(前期) I (2単位)	特別ゼミナール(前期) II (2単位) または 特別実験(前期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 I (2単位)	
		10月	特別ゼミナール(後期) I (2単位)	特別ゼミナール(後期) II (2単位) または 特別実験(後期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 II (2単位) 特別フィールド研究 I (3単位)	
	2年目	4月		特別フィールド研究 II (3単位)	
10月			特別フィールド研究 III(B)(4単位)		

10月入学	学生		必修(4単位)	特別フィールド研究選択(14単位)	授業科目(選択) 12単位以上 (P7~P9)
	1年目	10月	特別ゼミナール(後期) I (2単位)	特別ゼミナール(後期) II (2単位) または 特別実験(後期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 II (2単位)	
		4月	特別ゼミナール(前期) I (2単位)	特別ゼミナール(前期) II (2単位) または 特別実験(前期)(2単位) またはスポーツ科学課題演習 I (2単位) 特別フィールド研究 II (3単位)	
	2年目	10月		特別フィールド研究 I (3単位)	
4月			特別フィールド研究 III(A)(4単位)		

特別フィールド研究の選択について

- (※) 特別フィールド研究は、社会人学生等が職場等における研究課題を修士論文のテーマとする場合に適用される。
特別研究あるいは特別フィールド研究のどちらを履修するかは、指導教員と相談のうえ決定すること。
- (※) 社会人学生で、特別フィールド研究を選択した場合は、1年目後期に特別ゼミナールまたは特別実験と同時に、特別フィールド研究 I (10月入学の場合は II) も履修登録すること。

(4) 博士前期課程 開講科目一覧表、履修登録コード一覧表

令和8年度(9年度) 環境人間学研究所 開講科目一覧表

※開講日時、教室が変更される場合があるので注意し、教員の指示に従うこと。(特に、令和9年度)

※社会人向けの遠隔授業については、備考欄に「遠隔」と記載。履修を希望する場合は、シラバスをよく確認するとともに、履修登録前に受講を希望する授業担当教員に連絡を取り、注意事項等を事前確認すること。

※10月入学生は、ゼミ系科目等について一覧表の記載内容と配当年次・期が異なるので、P6の履修の順序をよく確認して履修登録を間違えないように注意すること。

※対象学生については、主たる対象学生を示しており、区分に関わらず本研究科の全学生が履修可能です。
(例えば、対象学生が「社会人」となっている場合、社会人学生だけでなく一般学生も履修することができます。)

部門	授業コード	授業科目	担当教員 (授業代表教員 を太字で先頭 に記載)	単位数		配当年次	毎年 隔年	開講 年度	対象 学生	開講時間 (6限及び土日)	備考
				前期	後期						
人間 環境 部門	460236	トレーニング特論	野村 健		2	1・2	隔年	R9	一般		
				2		1・2	隔年	R8	社会人	土日集中	
	460237	健康発達特論	内田 勇人	2		1・2	毎年	-	社会人	平日6限	遠隔
	460264	環境英語表現特別演習	寺西 雅之		2	1・2	隔年	R9	一般		
					2	1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	遠隔
	460152	多文化共生教育特論	乾 美紀		2	1・2	毎年	-	一般		
	460252			2		1・2	隔年	R9	社会人	土日集中	
	460144	臨床心理学特論	井上 靖子		2	1・2	隔年	R8	一般		
					2	1・2	隔年	R9	社会人	土日集中	
	460160	食品科学特論	吉村 美紀 坂本 薫 村上 明 石坂 朱里		2	1・2	隔年	R9	一般		
					2	1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	一部対面あり
	460161	生命環境特論	加藤 陽二 有満 秀幸 金子 一郎 小村 智美	2		1・2	隔年	R9	一般		
				2		1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	
	460999	ライフステージ栄養学特論	永井 成美 島田 良子 半澤 史聡	2		1・2	隔年	R8	一般		
				2		1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	遠隔
	460162	実践栄養学特論	伊藤 美紀子 吉田 優 中出 麻紀子 田中 更沙		2	1・2	隔年	R8	一般		
					2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	遠隔
	460245	地域教育政策特論	尾崎 公子	2		1・2	隔年	R8	一般		
				2		1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	遠隔
	460297	人間学特論	西村 洋平	2		1・2	毎年	-	一般		
	460397			2		1・2	隔年	R9	社会人	土曜集中	遠隔
	460179	言語学特論	藤原 敬介		2	1・2	隔年	R8	一般		
					2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	
	460180	生涯スポーツ教育特論	森 寿仁	2		1・2	隔年	R8	一般		
2					1・2	隔年	R9	社会人	平日6限		
460993	アメリカ研究特論	高橋 綾子	2		1・2		R8	一般			
			2		1・2	隔年	R8	社会人	平日6限		
460995	教育原論特論	山口 裕毅		2	1・2	隔年	R9	一般			
				2	1・2	隔年	R8	社会人	土曜集中		
460996	英語圏文化研究特論	柳楽 有里	2		1・2	隔年	R9	一般			
				2	1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	遠隔	
460194	比較言語・文化特論	鄭 成	2		1・2	隔年	R8	一般			
			2		1・2	隔年	R9	社会人	平日6限		
460196	生涯発達心理学特論	保坂 裕子		2	1・2	隔年	R8	一般			
				2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	遠隔	
460000	生徒指導実践特論	竹内 和雄		2	1・2	隔年	R8	一般			
				2	1・2	隔年	R9	社会人	土日集中		

部門	授業コード	授業科目	担当教員 (授業代表教員 を太字で先頭 に記載)	単位数		配当年次	毎年 隔年	開講 年度	対象 学生	開講時間 (6限及び土日)	備考
				前期	後期						
社会環境部門	460149	生態情報学特論	中桐 斉之	2		1・2	毎年	-	一般		
	460349			2		1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	
	460142	環境社会学特論	井関 崇博		2	1・2	隔年	R9	一般		
					2	1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	
	460150	言語社会分析特論	糟屋 美千子	2		1・2	隔年	R8	一般		
				2		1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	
	460145	防災心理・教育学特論	木村 玲欧	2		1・2	隔年	R8	一般		
				2		1・2	隔年	R9	社会人	土日集中	遠隔
	460212	都市計画特論	太田 尚孝		2	1・2	隔年	R9	一般		
					2	1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	
	460147	建築意匠特論	三田村 哲哉	2		1・2	隔年	R9	一般		
				2		1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	
	460118	地域コミュニティ特論	杉山 武志		2	1・2	隔年	R8	一般		
					2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	遠隔
	460214	農村計画特論	三宅 康成	2		1・2	隔年	R9	一般		
				2		1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	
	460164	環境経済・政策特論	中嶋 一憲 増原 直樹	2		1・2	毎年	-	一般		
	460464			2		1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	遠隔
	460591	大気科学特論	奥 勇一郎	2		1・2	隔年	R9	一般		
				2		1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	
	460211	住環境学特論	金 政一		2	1・2	隔年	R9	一般		
	460247	住宅計画特論	宇高 雄志	2		1・2	隔年	R9	一般		
					2	1・2	隔年	R8	社会人	日曜他集中	
	460292	建築・インテリア設計特論	水上 優		2	1・2	隔年	R8	一般		
				2		1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	
	460151	建築計画特論	安枝 英俊		2	1・2	隔年	R9	一般		
					2	1・2	隔年	R8	社会人	平日6限	
	460126	福祉社会学特論	竹端 寛		2	1・2	隔年	R9	一般		
				2		1・2	隔年	R8	社会人	土日集中	遠隔
	460125	水圏環境学特論	風間 健宏		2	1・2	隔年	R8	一般		
					2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	
	460265	森林生態学特論	大橋 瑞江		2	1・2	隔年	R9	一般		
				2	1・2	隔年	R8	社会人	土日集中		
460177	環境画像解析特論	木村 敏文		2	1・2	毎年	-	一般			
460277				2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限		
460195	環境動態解析学特論	宇野 康司		2	1・2	隔年	R9	一般			
				2	1・2	隔年	R8	社会人	土日集中		
460396	建築防災学特論	荘所 直哉		2	1・2	隔年	R8	一般			
				2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限		
460167	地域プロジェクト特論	内平 隆之	2		1・2	隔年	R9	一般			
			2		1・2	隔年	R8	社会人	土日集中		
460188	生態工学特論	山瀬 敬太郎	2		1・2	隔年	R9	一般	土日集中		
			2		1・2	隔年	R8	社会人	土日集中		
460323	公法学特論	檜垣 宏太	2		1・2	隔年	R9	一般			
460320	建築耐震設計特論	中川 肇		2	1・2	隔年	R9	一般			
460321	土地利用情報学特論	飯塚 浩太郎		2	1・2	隔年	R9	一般	土日集中		
460322	建築環境工学特論	源城 かほり		2	1・2	隔年	R8	一般			
				2	1・2	隔年	R9	社会人	平日6限	遠隔	
460985	建築設計インターンシップⅠ	三田村 哲哉	毎年	-	1	毎年	-	一般	集中	シラバスをよく確認すること	
460986	建築設計インターンシップⅡ	三田村 哲哉		4	2	毎年	-	一般	集中	シラバスをよく確認すること	

部門	授業コード	授業科目	担当教員 (授業代表教員を太字で先頭に記載)	単位数		配当年次	毎年 隔年	開講 年度	備考
				前期	後期				
共生 博物 部門	460275	ランドスケープ計画特論	赤澤 宏樹	2		1・2	隔年	R8	
	460171	進化生態学特論	高橋 鉄美	2		1・2	隔年	R9	
	460174	個体群生態学特論	栗山 武夫 高木 俊	2		1・2	毎年	-	
	460176	古生物学特論	池田 忠広		2	1・2	隔年	R9	
	460258	ワイルドライフマネジメント特論	山端 直人 横山 真弓	2		1・2	毎年	-	
	460155	植物生態学特論	黒田 有寿茂		2	1・2	隔年	R8	
	460276	植生学特別演習	石田 弘明		2	1・2	隔年	R8	
	460299	保全生態学特論	藤木 大介 森光 由樹	2		1・2	毎年	-	
	460178	野生動物管理フィールド特別演習	山端 直人 横山 真弓		2	1・2	毎年	-	
	460384	ランドスケープ保全特論	大平 和弘	2		1・2	隔年	R8	
	460991	国土空間学特論	高田 知紀	2		1・2	隔年	R9	
	460170	海洋生物生態学特論	頼末 武史	2		1・2	隔年	R9	
	460390	種生物学特論	山崎 健史		2	1・2	隔年	R8	
	461004	地球環境進化学特論	廣瀬 孝太郎	2		1・2	隔年	R8	
	460001	植物分類学特論	高野 温子		2	1・2	隔年	R9	
	460002	基礎昆虫学特論	山田 量崇		2	1・2	隔年	R9	
460173	古脊椎動物学特論	田中 公教		2	1・2	隔年	R8		
RT 科目	460127	リサーチトレーニング特論	研究科教員	2		1・2	毎年	-	
先端 医療 工学 研究 所 共 通 科 目	341906	医療健康工学概論	小橋 昌司他	2		1・2			オープン大学院開講科目(10単位を上限として修了所要単位に含まれる) ※遠隔
	460997	人間健康科学特論	内田 勇人他		2	1・2			
	460998	臨床食環境栄養特論	伊藤 美紀子他	2		1・2			
	270021	看護と保健政策	撫養 真紀子他		2	1・2			
	ISMH000101	病院情報システム特論	竹村 匡正 畑 豊		2	1・2			
	341910	デジタルヘルス	藤田 孝之		2	1・2			
設 共 科 通 目 開	172120	スポーツマネジメント研究	高松 祥平		2	1・2			修了所要単位に含む 社会科学部 対面授業 修了所要単位に含む 工学部 対面授業
	342526	バイオメカニクス	比嘉 昌	2(R8)		1・2			
CP 科目	460101	コミュニティ・プランナー方法論	内平 隆之	2		1・2			
	460102	コミュニティ・プランナー方法論実践	内平 隆之		2	1・2			
	460386	産学連携実践講義	キャリアセンター長	2		1・2	毎年	-	修了所要単位に含めない

部門	授業コード	授業科目	担当教員 (授業代表教員を太字で先頭に記載)	単位数		配当年次	毎年 隔年	開講 年度	備考
				前期	後期				
ゼミ系科目 (共通)	別紙参照	特別ゼミナール(前期) I	担当指導教員	2(必修)		1			必修
	別紙参照	特別ゼミナール(後期) I	担当指導教員		2(必修)	1			
	別紙参照	特別ゼミナール(前期) II	担当指導教員	2(選択必修)		1			特別ゼミナール(前期) II、(後期) IIもしくは、特別実験(前期)、(後期)もしくは、健康スポーツ科学課題演習 I、II のどれかを選択すること
	別紙参照	特別ゼミナール(後期) II	担当指導教員		2(選択必修)	1			
	別紙参照	特別実験(前期)	担当指導教員	2(選択必修)		1			
	別紙参照	特別実験(後期)	担当指導教員		2(選択必修)	1			
	別紙参照	健康スポーツ科学課題演習 I	担当指導教員	2(選択必修)		1・2			
	別紙参照	健康スポーツ科学課題演習 II	担当指導教員		2(選択必修)	1・2			
	別紙参照	特別研究(前期)	担当指導教員	4(選択必修)		2			一般の院生は特別研究、社会人院生のうち、職場等における研究課題をもった学生は特別フィールド研究を選択すること (※登録前に指導教員によく確認してください。)
	別紙参照	特別研究(後期)	担当指導教員		4(選択必修)	2			
	別紙参照	特別フィールド研究 I	担当指導教員		3(選択必修)	1後又は2前			
	別紙参照	特別フィールド研究 II	担当指導教員	3(選択必修)		1後又は2前			
	別紙参照	特別フィールド研究 III	担当指導教員		4(選択必修)	2			

(5)博士前期課程 特別ゼミナール関係履修登録コード一覧表

※開講日時、教室が変更される場合があるので注意し、教員の指示に従って履修すること。

※10月入学生は、4月入学生と配当年次・期が異なるので、P6の履修順序を確認すること。

授業コード	講義名	担当教員	単位数		配当年次	備考
			前期	後期		
461003	特別ゼミナール(前期) I	内田 勇人	2		1	指導教員ゼミ必修
461006	特別ゼミナール(前期) I	尾崎 公子	2		1	指導教員ゼミ必修
461009	特別ゼミナール(前期) I	井上 靖子	2		1	指導教員ゼミ必修
461012	特別ゼミナール(前期) I	太田 尚孝	2		1	指導教員ゼミ必修
461013	特別ゼミナール(前期) I	吉村 美紀	2		1	指導教員ゼミ必修
461014	特別ゼミナール(前期) I	糟屋 美千子	2		1	指導教員ゼミ必修
461015	特別ゼミナール(前期) I	伊藤 美紀子	2		1	指導教員ゼミ必修
461017	特別ゼミナール(前期) I	寺西 雅之	2		1	指導教員ゼミ必修
461018	特別ゼミナール(前期) I	永井 成美	2		1	指導教員ゼミ必修
461020	特別ゼミナール(前期) I	高橋 鉄美	2		1	指導教員ゼミ必修
461021	特別ゼミナール(前期) I	加藤 陽二	2		1	指導教員ゼミ必修
461023	特別ゼミナール(前期) I	森光 由樹	2		1	指導教員ゼミ必修
461025	特別ゼミナール(前期) I	横山 真弓	2		1	指導教員ゼミ必修
461030	特別ゼミナール(前期) I	奥 勇一郎	2		1	指導教員ゼミ必修
461031	特別ゼミナール(前期) I	三宅 康成	2		1	指導教員ゼミ必修
461032	特別ゼミナール(前期) I	乾 美紀	2		1	指導教員ゼミ必修
461033	特別ゼミナール(前期) I	井関 崇博	2		1	指導教員ゼミ必修
461034	特別ゼミナール(前期) I	宇高 雄志	2		1	指導教員ゼミ必修
461035	特別ゼミナール(前期) I	大橋 瑞江	2		1	指導教員ゼミ必修
461036	特別ゼミナール(前期) I	木村 玲欧	2		1	指導教員ゼミ必修
461047	特別ゼミナール(前期) I	石田 弘明	2		1	指導教員ゼミ必修
461048	特別ゼミナール(前期) I	安枝 英俊	2		1	指導教員ゼミ必修
461051	特別ゼミナール(前期) I	赤澤 宏樹	2		1	指導教員ゼミ必修
461053	特別ゼミナール(前期) I	三田村 哲哉	2		1	指導教員ゼミ必修
461054	特別ゼミナール(前期) I	水上 優	2		1	指導教員ゼミ必修
461055	特別ゼミナール(前期) I	村上 明	2		1	指導教員ゼミ必修
461056	特別ゼミナール(前期) I	中寫 一憲	2		1	指導教員ゼミ必修
461057	特別ゼミナール(前期) I	藤木 大介	2		1	指導教員ゼミ必修
461058	特別ゼミナール(前期) I	杉山 武志	2		1	指導教員ゼミ必修
461059	特別ゼミナール(前期) I	有満 秀幸	2		1	指導教員ゼミ必修
461061	特別ゼミナール(前期) I	中出 麻紀子	2		1	指導教員ゼミ必修
461062	特別ゼミナール(前期) I	山端 直人	2		1	指導教員ゼミ必修
461063	特別ゼミナール(前期) I	黒田 有寿茂	2		1	指導教員ゼミ必修
461064	特別ゼミナール(前期) I	高木 俊	2		1	指導教員ゼミ必修
461065	特別ゼミナール(前期) I	栗山 武夫	2		1	指導教員ゼミ必修
461066	特別ゼミナール(前期) I	吉田 優	2		1	指導教員ゼミ必修
461068	特別ゼミナール(前期) I	中桐 斉之	2		1	指導教員ゼミ必修
461069	特別ゼミナール(前期) I	大平 和弘	2		1	指導教員ゼミ必修
461070	特別ゼミナール(前期) I	中瀆 直之	2		1	指導教員ゼミ必修
461071	特別ゼミナール(前期) I	高橋 綾子	2		1	指導教員ゼミ必修
461072	特別ゼミナール(前期) I	森 寿仁	2		1	指導教員ゼミ必修
461073	特別ゼミナール(前期) I	木村 敏文	2		1	指導教員ゼミ必修
461074	特別ゼミナール(前期) I	鄭 成	2		1	指導教員ゼミ必修
461075	特別ゼミナール(前期) I	宇野 康司	2		1	指導教員ゼミ必修
461076	特別ゼミナール(前期) I	金子 一郎	2		1	指導教員ゼミ必修
461077	特別ゼミナール(前期) I	竹内 和雄	2		1	指導教員ゼミ必修
461078	特別ゼミナール(前期) I	竹端 寛	2		1	指導教員ゼミ必修
461079	特別ゼミナール(前期) I	高田 知紀	2		1	指導教員ゼミ必修
461080	特別ゼミナール(前期) I	高野 温子	2		1	指導教員ゼミ必修
461082	特別ゼミナール(前期) I	山田 量崇	2		1	指導教員ゼミ必修
461083	特別ゼミナール(前期) I	山崎 健史	2		1	指導教員ゼミ必修
461084	特別ゼミナール(前期) I	廣瀬 孝太郎	2		1	指導教員ゼミ必修
461085	特別ゼミナール(前期) I	野村 健	2		1	指導教員ゼミ必修
461086	特別ゼミナール(前期) I	池田 忠広	2		1	指導教員ゼミ必修
461087	特別ゼミナール(前期) I	頼末 武史	2		1	指導教員ゼミ必修
461088	特別ゼミナール(前期) I	内平 隆之	2		1	指導教員ゼミ必修
461089	特別ゼミナール(前期) I	藤原 敬介	2		1	指導教員ゼミ必修
461090	特別ゼミナール(前期) I	山瀬 敬太郎	2		1	指導教員ゼミ必修
461091	特別ゼミナール(前期) I	増原 直樹	2		1	指導教員ゼミ必修
461092	特別ゼミナール(前期) I	飯塚 浩太郎	2		1	指導教員ゼミ必修
461093	特別ゼミナール(前期) I	源城 かほり	2		1	指導教員ゼミ必修
461094	特別ゼミナール(前期) I	中川 肇	2		1	指導教員ゼミ必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
461103	特別ゼミナール(後期) I	内田 勇人		2	1	指導教員ゼミ必修
461106	特別ゼミナール(後期) I	尾崎 公子		2	1	指導教員ゼミ必修
461109	特別ゼミナール(後期) I	井上 靖子		2	1	指導教員ゼミ必修
461112	特別ゼミナール(後期) I	太田 尚孝		2	1	指導教員ゼミ必修
461113	特別ゼミナール(後期) I	吉村 美紀		2	1	指導教員ゼミ必修
461114	特別ゼミナール(後期) I	糟屋 美千子		2	1	指導教員ゼミ必修
461115	特別ゼミナール(後期) I	伊藤 美紀子		2	1	指導教員ゼミ必修
461117	特別ゼミナール(後期) I	寺西 雅之		2	1	指導教員ゼミ必修
461118	特別ゼミナール(後期) I	永井 成美		2	1	指導教員ゼミ必修
461120	特別ゼミナール(後期) I	高橋 鉄美		2	1	指導教員ゼミ必修
461121	特別ゼミナール(後期) I	加藤 陽二		2	1	指導教員ゼミ必修
461123	特別ゼミナール(後期) I	森光 由樹		2	1	指導教員ゼミ必修
461125	特別ゼミナール(後期) I	横山 真弓		2	1	指導教員ゼミ必修
461130	特別ゼミナール(後期) I	奥 勇一郎		2	1	指導教員ゼミ必修
461131	特別ゼミナール(後期) I	三宅 康成		2	1	指導教員ゼミ必修
461132	特別ゼミナール(後期) I	乾 美紀		2	1	指導教員ゼミ必修
461133	特別ゼミナール(後期) I	井関 崇博		2	1	指導教員ゼミ必修
461134	特別ゼミナール(後期) I	宇高 雄志		2	1	指導教員ゼミ必修
461135	特別ゼミナール(後期) I	大橋 瑞江		2	1	指導教員ゼミ必修
461136	特別ゼミナール(後期) I	木村 玲欧		2	1	指導教員ゼミ必修
461147	特別ゼミナール(後期) I	石田 弘明		2	1	指導教員ゼミ必修
461148	特別ゼミナール(後期) I	安枝 英俊		2	1	指導教員ゼミ必修
461151	特別ゼミナール(後期) I	赤澤 宏樹		2	1	指導教員ゼミ必修
461153	特別ゼミナール(後期) I	三田村 哲哉		2	1	指導教員ゼミ必修
461154	特別ゼミナール(後期) I	水上 優		2	1	指導教員ゼミ必修
461155	特別ゼミナール(後期) I	村上 明		2	1	指導教員ゼミ必修
461156	特別ゼミナール(後期) I	中篤 一憲		2	1	指導教員ゼミ必修
461157	特別ゼミナール(後期) I	藤木 大介		2	1	指導教員ゼミ必修
461158	特別ゼミナール(後期) I	杉山 武志		2	1	指導教員ゼミ必修
461159	特別ゼミナール(後期) I	有満 秀幸		2	1	指導教員ゼミ必修
461161	特別ゼミナール(後期) I	中出 麻紀子		2	1	指導教員ゼミ必修
461162	特別ゼミナール(後期) I	山端 直人		2	1	指導教員ゼミ必修
461163	特別ゼミナール(後期) I	黒田 有寿茂		2	1	指導教員ゼミ必修
461164	特別ゼミナール(後期) I	高木 俊		2	1	指導教員ゼミ必修
461165	特別ゼミナール(後期) I	栗山 武夫		2	1	指導教員ゼミ必修
461166	特別ゼミナール(後期) I	吉田 優		2	1	指導教員ゼミ必修
461168	特別ゼミナール(後期) I	中桐 斉之		2	1	指導教員ゼミ必修
461169	特別ゼミナール(後期) I	大平 和弘		2	1	指導教員ゼミ必修
461170	特別ゼミナール(後期) I	中濱 直之		2	1	指導教員ゼミ必修
461171	特別ゼミナール(後期) I	高橋 綾子		2	1	指導教員ゼミ必修
461172	特別ゼミナール(後期) I	森 寿仁		2	1	指導教員ゼミ必修
461173	特別ゼミナール(後期) I	木村 敏文		2	1	指導教員ゼミ必修
461174	特別ゼミナール(後期) I	鄭 成		2	1	指導教員ゼミ必修
461175	特別ゼミナール(後期) I	宇野 康司		2	1	指導教員ゼミ必修
461176	特別ゼミナール(後期) I	金子 一郎		2	1	指導教員ゼミ必修
461177	特別ゼミナール(後期) I	竹内 和雄		2	1	指導教員ゼミ必修
461178	特別ゼミナール(後期) I	竹端 寛		2	1	指導教員ゼミ必修
461179	特別ゼミナール(後期) I	高田 知紀		2	1	指導教員ゼミ必修
461180	特別ゼミナール(後期) I	高野 温子		2	1	指導教員ゼミ必修
461182	特別ゼミナール(後期) I	山田 量崇		2	1	指導教員ゼミ必修
461183	特別ゼミナール(後期) I	山崎 健史		2	1	指導教員ゼミ必修
461184	特別ゼミナール(後期) I	廣瀬 孝太郎		2	1	指導教員ゼミ必修
461185	特別ゼミナール(後期) I	野村 健		2	1	指導教員ゼミ必修
461186	特別ゼミナール(後期) I	池田 忠広		2	1	指導教員ゼミ必修
461187	特別ゼミナール(後期) I	頼末 武史		2	1	指導教員ゼミ必修
461188	特別ゼミナール(後期) I	内平 隆之		2	1	指導教員ゼミ必修
461189	特別ゼミナール(後期) I	藤原 敬介		2	1	指導教員ゼミ必修
461190	特別ゼミナール(後期) I	山瀬 敬太郎		2	1	指導教員ゼミ必修
461191	特別ゼミナール(後期) I	増原 直樹		2	1	指導教員ゼミ必修
461192	特別ゼミナール(後期) I	飯塚 浩太郎		2	1	指導教員ゼミ必修
461193	特別ゼミナール(後期) I	源城 かほり		2	1	指導教員ゼミ必修
461194	特別ゼミナール(後期) I	中川 肇		2	1	指導教員ゼミ必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
461205	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	尾崎 公子	2		1	指導教員ゼミ必修
461206	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	井上 靖子	2		1	指導教員ゼミ必修
461208	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	寺西 雅之	2		1	指導教員ゼミ必修
461211	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	糟屋 美千子	2		1	指導教員ゼミ必修
461216	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	三宅 康成	2		1	指導教員ゼミ必修
461218	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	井関 崇博	2		1	指導教員ゼミ必修
461219	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	宇高 雄志	2		1	指導教員ゼミ必修
461220	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	木村 玲欧	2		1	指導教員ゼミ必修
461223	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	高橋 鉄美	2		1	指導教員ゼミ必修
461229	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	森光 由樹	2		1	指導教員ゼミ必修
461230	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	石田 弘明	2		1	指導教員ゼミ必修
461231	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	安枝 英俊	2		1	指導教員ゼミ必修
461232	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	横山 真弓	2		1	指導教員ゼミ必修
461234	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	赤澤 宏樹	2		1	指導教員ゼミ必修
461236	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	三田村 哲哉	2		1	指導教員ゼミ必修
461237	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	水上 優	2		1	指導教員ゼミ必修
461239	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	中寫 一憲	2		1	指導教員ゼミ必修
461240	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	藤木 大介	2		1	指導教員ゼミ必修
461241	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	乾 美紀	2		1	指導教員ゼミ必修
461246	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	太田 尚孝	2		1	指導教員ゼミ必修
461250	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	杉山 武志	2		1	指導教員ゼミ必修
461251	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	山端 直人	2		1	指導教員ゼミ必修
461252	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	黒田 有寿茂	2		1	指導教員ゼミ必修
461253	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	高木 俊	2		1	指導教員ゼミ必修
461254	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	栗山 武夫	2		1	指導教員ゼミ必修
461256	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	大平 和弘	2		1	指導教員ゼミ必修
461257	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	中濱 直之	2		1	指導教員ゼミ必修
461258	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	高橋 綾子	2		1	指導教員ゼミ必修
461259	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	鄭 成	2		1	指導教員ゼミ必修
461260	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	竹内 和雄	2		1	指導教員ゼミ必修
461261	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	竹端 寛	2		1	指導教員ゼミ必修
461262	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	高田 知紀	2		1	指導教員ゼミ必修
461263	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	高野 温子	2		1	指導教員ゼミ必修
461265	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	山田 量崇	2		1	指導教員ゼミ必修
461266	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	山崎 健史	2		1	指導教員ゼミ必修
461267	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	廣瀬 孝太郎	2		1	指導教員ゼミ必修
461269	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	池田 忠広	2		1	指導教員ゼミ必修
461270	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	頼末 武史	2		1	指導教員ゼミ必修
461271	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	内平 隆之	2		1	指導教員ゼミ必修
461272	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	藤原 敬介	2		1	指導教員ゼミ必修
461273	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	増原 直樹	2		1	指導教員ゼミ必修
461274	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	飯塚 浩太郎	2		1	指導教員ゼミ必修
461275	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	源城 かほり	2		1	指導教員ゼミ必修
461276	特別ゼミナール(前期)Ⅱ	中川 肇	2		1	指導教員ゼミ必修
461305	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	尾崎 公子		2	1	指導教員ゼミ必修
461306	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	井上 靖子		2	1	指導教員ゼミ必修
461308	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	寺西 雅之		2	1	指導教員ゼミ必修
461311	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	糟屋 美千子		2	1	指導教員ゼミ必修
461316	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	三宅 康成		2	1	指導教員ゼミ必修
461318	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	井関 崇博		2	1	指導教員ゼミ必修
461319	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	宇高 雄志		2	1	指導教員ゼミ必修
461320	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	木村 玲欧		2	1	指導教員ゼミ必修
461323	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	高橋 鉄美		2	1	指導教員ゼミ必修
461329	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	森光 由樹		2	1	指導教員ゼミ必修
461330	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	石田 弘明		2	1	指導教員ゼミ必修
461331	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	安枝 英俊		2	1	指導教員ゼミ必修
461332	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	横山 真弓		2	1	指導教員ゼミ必修
461334	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	赤澤 宏樹		2	1	指導教員ゼミ必修
461336	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	三田村 哲哉		2	1	指導教員ゼミ必修
461337	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	水上 優		2	1	指導教員ゼミ必修
461339	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	中寫 一憲		2	1	指導教員ゼミ必修
461340	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	藤木 大介		2	1	指導教員ゼミ必修
461345	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	乾 美紀		2	1	指導教員ゼミ必修
461346	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	太田 尚孝		2	1	指導教員ゼミ必修
461350	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	杉山 武志		2	1	指導教員ゼミ必修
461351	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	山端 直人		2	1	指導教員ゼミ必修
461352	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	黒田 有寿茂		2	1	指導教員ゼミ必修
461353	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	高木 俊		2	1	指導教員ゼミ必修
461354	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	栗山 武夫		2	1	指導教員ゼミ必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
461356	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	大平 和弘		2	1	指導教員ゼミ必修
461358	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	高橋 綾子		2	1	指導教員ゼミ必修
461359	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	鄭 成		2	1	指導教員ゼミ必修
461360	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	竹内 和雄		2	1	指導教員ゼミ必修
461361	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	竹端 寛		2	1	指導教員ゼミ必修
461362	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	高田 知紀		2	1	指導教員ゼミ必修
461363	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	高野 温子		2	1	指導教員ゼミ必修
461365	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	山田 量崇		2	1	指導教員ゼミ必修
461366	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	山崎 健史		2	1	指導教員ゼミ必修
461367	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	廣瀬 孝太郎		2	1	指導教員ゼミ必修
461369	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	池田 忠広		2	1	指導教員ゼミ必修
461370	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	頼末 武史		2	1	指導教員ゼミ必修
461371	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	内平 隆之		2	1	指導教員ゼミ必修
461372	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	藤原 敬介		2	1	指導教員ゼミ必修
461373	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	増原 直樹		2	1	指導教員ゼミ必修
461374	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	飯塚 浩太郎		2	1	指導教員ゼミ必修
461375	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	源城 かほり		2	1	指導教員ゼミ必修
461376	特別ゼミナール(後期)Ⅱ	中川 肇		2	1	指導教員ゼミ必修
461407	特別実験(前期)	吉村 美紀	2		1	指導教員実験必修
461409	特別実験(前期)	伊藤 美紀子	2		1	指導教員実験必修
461410	特別実験(前期)	永井 成美	2		1	指導教員実験必修
461413	特別実験(前期)	加藤 陽二	2		1	指導教員実験必修
461416	特別実験(前期)	大橋 瑞江	2		1	指導教員実験必修
461418	特別実験(前期)	村上 明	2		1	指導教員実験必修
461419	特別実験(前期)	奥 勇一郎	2		1	指導教員実験必修
461420	特別実験(前期)	有満 秀幸	2		1	指導教員実験必修
461422	特別実験(前期)	中出 麻紀子	2		1	指導教員実験必修
461423	特別実験(前期)	吉田 優	2		1	指導教員実験必修
461424	特別実験(前期)	中桐 斉之	2		1	指導教員実験必修
461426	特別実験(前期)	木村 敏文	2		1	指導教員実験必修
461427	特別実験(前期)	宇野 康司	2		1	指導教員実験必修
461428	特別実験(前期)	金子 一郎	2		1	指導教員実験必修
461429	特別実験(前期)	山瀬 敬太郎	2		1	指導教員実験必修
461430	特別実験(前期)	源城 かほり	2		1	指導教員実験必修
461507	特別実験(後期)	吉村 美紀		2	1	指導教員実験必修
461509	特別実験(後期)	伊藤 美紀子	2		1	指導教員実験必修
461510	特別実験(後期)	永井 成美		2	1	指導教員実験必修
461513	特別実験(後期)	加藤 陽二		2	1	指導教員実験必修
461516	特別実験(後期)	大橋 瑞江		2	1	指導教員実験必修
461518	特別実験(後期)	村上 明		2	1	指導教員実験必修
461519	特別実験(後期)	奥 勇一郎		2	1	指導教員実験必修
461520	特別実験(後期)	有満 秀幸		2	1	指導教員実験必修
461522	特別実験(後期)	中出 麻紀子		2	1	指導教員実験必修
461523	特別実験(後期)	吉田 優		2	1	指導教員実験必修
461524	特別実験(後期)	中桐 斉之		2	1	指導教員実験必修
461526	特別実験(後期)	木村 敏文		2	1	指導教員実験必修
461527	特別実験(後期)	宇野 康司		2	1	指導教員実験必修
461528	特別実験(後期)	金子 一郎		2	1	指導教員実験必修
461529	特別実験(後期)	山瀬 敬太郎		2	1	指導教員実験必修
461530	特別実験(後期)	源城 かほり		2	1	指導教員実験必修
461481	健康スポーツ科学課題演習Ⅰ	内田 勇人	2		1	指導教員実験必修
461482	健康スポーツ科学課題演習Ⅰ	野村 健	2		1	指導教員実験必修
461483	健康スポーツ科学課題演習Ⅰ	森 寿仁	2		1	指導教員実験必修
461581	健康スポーツ科学課題演習Ⅱ	内田 勇人		2	1	指導教員実験必修
461582	健康スポーツ科学課題演習Ⅱ	野村 健		2	1	指導教員実験必修
461583	健康スポーツ科学課題演習Ⅱ	森 寿仁		2	1	指導教員実験必修
461603	特別研究(前期)	内田 勇人	4		2	指導教員修論必修
461606	特別研究(前期)	尾崎 公子	4		2	指導教員修論必修
461607	特別研究(前期)	太田 尚孝	4		2	指導教員修論必修
461609	特別研究(前期)	井上 靖子	4		2	指導教員修論必修
461610	特別研究(前期)	奥 勇一郎	4		2	指導教員修論必修
461612	特別研究(前期)	乾 美紀	4		2	指導教員修論必修
461613	特別研究(前期)	吉村 美紀	4		2	指導教員修論必修
461614	特別研究(前期)	糟屋 美千子	4		2	指導教員修論必修
461615	特別研究(前期)	伊藤 美紀子	4		2	指導教員修論必修
461617	特別研究(前期)	寺西 雅之	4		2	指導教員修論必修
461618	特別研究(前期)	永井 成美	4		2	指導教員修論必修
461620	特別研究(前期)	高橋 鉄美	4		2	指導教員修論必修
461621	特別研究(前期)	加藤 陽二	4		2	指導教員修論必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
461624	特別研究(前期)	森光 由樹	4		2	指導教員修論必修
461626	特別研究(前期)	横山 真弓	4		2	指導教員修論必修
461633	特別研究(前期)	三宅 康成	4		2	指導教員修論必修
461635	特別研究(前期)	井関 崇博	4		2	指導教員修論必修
461636	特別研究(前期)	宇高 雄志	4		2	指導教員修論必修
461637	特別研究(前期)	大橋 瑞江	4		2	指導教員修論必修
461638	特別研究(前期)	木村 玲欧	4		2	指導教員修論必修
461652	特別研究(前期)	石田 弘明	4		2	指導教員修論必修
461653	特別研究(前期)	安枝 英俊	4		2	指導教員修論必修
461656	特別研究(前期)	赤澤 宏樹	4		2	指導教員修論必修
461658	特別研究(前期)	三田村 哲哉	4		2	指導教員修論必修
461659	特別研究(前期)	水上 優	4		2	指導教員修論必修
461660	特別研究(前期)	村上 明	4		2	指導教員修論必修
461661	特別研究(前期)	中寫 一憲	4		2	指導教員修論必修
461662	特別研究(前期)	藤木 大介	4		2	指導教員修論必修
461663	特別研究(前期)	杉山 武志	4		2	指導教員修論必修
461664	特別研究(前期)	有満 秀幸	4		2	指導教員修論必修
461666	特別研究(前期)	中出 麻紀子	4		2	指導教員修論必修
461667	特別研究(前期)	山端 直人	4		2	指導教員修論必修
461668	特別研究(前期)	黒田 有寿茂	4		2	指導教員修論必修
461669	特別研究(前期)	高木 俊	4		2	指導教員修論必修
461670	特別研究(前期)	栗山 武夫	4		2	指導教員修論必修
461671	特別研究(前期)	吉田 優	4		2	指導教員修論必修
461673	特別研究(前期)	中桐 斉之	4		2	指導教員修論必修
461674	特別研究(前期)	大平 和弘	4		2	指導教員修論必修
461676	特別研究(前期)	高橋 綾子	4		2	指導教員修論必修
461677	特別研究(前期)	森 寿仁	4		2	指導教員修論必修
461678	特別研究(前期)	木村 敏文	4		2	指導教員修論必修
461679	特別研究(前期)	鄭 成	4		2	指導教員修論必修
461680	特別研究(前期)	宇野 康司	4		2	指導教員修論必修
461681	特別研究(前期)	金子 一郎	4		2	指導教員修論必修
461682	特別研究(前期)	竹内 和雄	4		2	指導教員修論必修
461683	特別研究(前期)	竹端 寛	4		2	指導教員修論必修
461684	特別研究(前期)	高田 知紀	4		2	指導教員修論必修
461685	特別研究(前期)	高野 温子	4		2	指導教員修論必修
461687	特別研究(前期)	山田 量崇	4		2	指導教員修論必修
461688	特別研究(前期)	山崎 健史	4		2	指導教員修論必修
461689	特別研究(前期)	廣瀬 孝太郎	4		2	指導教員修論必修
461690	特別研究(前期)	野村 健	4		2	指導教員修論必修
461691	特別研究(前期)	池田 忠広	4		2	指導教員修論必修
461692	特別研究(前期)	頼末 武史	4		2	指導教員修論必修
461693	特別研究(前期)	内平 隆之	4		2	指導教員修論必修
461694	特別研究(前期)	藤原 敬介	4		2	指導教員修論必修
461695	特別研究(前期)	山瀬 敬太郎	4		2	指導教員修論必修
461696	特別研究(前期)	増原 直樹	4		2	指導教員修論必修
461697	特別研究(前期)	飯塚 浩太郎	4		2	指導教員修論必修
461698	特別研究(前期)	源城 かほり	4		2	指導教員修論必修
461699	特別研究(前期)	中川 肇	4		2	指導教員修論必修
461703	特別研究(後期)	内田 勇人		4	2	指導教員修論必修
461706	特別研究(後期)	尾崎 公子		4	2	指導教員修論必修
461707	特別研究(後期)	太田 尚孝		4	2	指導教員修論必修
461709	特別研究(後期)	井上 靖子		4	2	指導教員修論必修
461710	特別研究(後期)	奥 勇一郎		4	2	指導教員修論必修
461712	特別研究(後期)	乾 美紀		4	2	指導教員修論必修
461713	特別研究(後期)	吉村 美紀		4	2	指導教員修論必修
461714	特別研究(後期)	糟屋 美千子		4	2	指導教員修論必修
461715	特別研究(後期)	伊藤 美紀子		4	2	指導教員修論必修
461717	特別研究(後期)	寺西 雅之		4	2	指導教員修論必修
461718	特別研究(後期)	永井 成美		4	2	指導教員修論必修
461720	特別研究(後期)	高橋 鉄美		4	2	指導教員修論必修
461721	特別研究(後期)	加藤 陽二		4	2	指導教員修論必修
461724	特別研究(後期)	森光 由樹		4	2	指導教員修論必修
461726	特別研究(後期)	横山 真弓		4	2	指導教員修論必修
461733	特別研究(後期)	三宅 康成		4	2	指導教員修論必修
461735	特別研究(後期)	井関 崇博		4	2	指導教員修論必修
461736	特別研究(後期)	宇高 雄志		4	2	指導教員修論必修
461737	特別研究(後期)	大橋 瑞江		4	2	指導教員修論必修
461738	特別研究(後期)	木村 玲欧		4	2	指導教員修論必修
461752	特別研究(後期)	石田 弘明		4	2	指導教員修論必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
461753	特別研究(後期)	安枝 英俊		4	2	指導教員修論必修
461756	特別研究(後期)	赤澤 宏樹		4	2	指導教員修論必修
461758	特別研究(後期)	三田村 哲哉		4	2	指導教員修論必修
461759	特別研究(後期)	水上 優		4	2	指導教員修論必修
461760	特別研究(後期)	村上 明		4	2	指導教員修論必修
461761	特別研究(後期)	中寫 一憲		4	2	指導教員修論必修
461762	特別研究(後期)	藤木 大介		4	2	指導教員修論必修
461763	特別研究(後期)	杉山 武志		4	2	指導教員修論必修
461764	特別研究(後期)	有満 秀幸		4	2	指導教員修論必修
461766	特別研究(後期)	中出 麻紀子		4	2	指導教員修論必修
461767	特別研究(後期)	山端 直人		4	2	指導教員修論必修
461768	特別研究(後期)	黒田 有寿茂		4	2	指導教員修論必修
461769	特別研究(後期)	高木 俊		4	2	指導教員修論必修
461770	特別研究(後期)	栗山 武夫		4	2	指導教員修論必修
461771	特別研究(後期)	吉田 優		4	2	指導教員修論必修
461773	特別研究(後期)	中桐 斉之		4	2	指導教員修論必修
461774	特別研究(後期)	大平 和弘		4	2	指導教員修論必修
461776	特別研究(後期)	高橋 綾子		4	2	指導教員修論必修
461777	特別研究(後期)	森 寿仁		4	2	指導教員修論必修
461778	特別研究(後期)	木村 敏文		4	2	指導教員修論必修
461779	特別研究(後期)	鄭 成		4	2	指導教員修論必修
461780	特別研究(後期)	宇野 康司		4	2	指導教員修論必修
461781	特別研究(後期)	金子 一郎		4	2	指導教員修論必修
461782	特別研究(後期)	竹内 和雄		4	2	指導教員修論必修
461783	特別研究(後期)	竹端 寛		4	2	指導教員修論必修
461784	特別研究(後期)	高田 知紀		4	2	指導教員修論必修
461785	特別研究(後期)	高野 温子		4	2	指導教員修論必修
461787	特別研究(後期)	山田 量崇		4	2	指導教員修論必修
461788	特別研究(後期)	山崎 健史		4	2	指導教員修論必修
461789	特別研究(後期)	廣瀬 孝太郎		4	2	指導教員修論必修
461790	特別研究(後期)	野村 健		4	2	指導教員修論必修
461791	特別研究(後期)	池田 忠広		4	2	指導教員修論必修
461792	特別研究(後期)	頼末 武史		4	2	指導教員修論必修
461793	特別研究(後期)	内平 隆之		4	2	指導教員修論必修
461794	特別研究(後期)	藤原 敬介		4	2	指導教員修論必修
461795	特別研究(後期)	山瀬 敬太郎		4	2	指導教員修論必修
461796	特別研究(後期)	増原 直樹		4	2	指導教員修論必修
461797	特別研究(後期)	飯塚 浩太郎		4	2	指導教員修論必修
461798	特別研究(後期)	源城 かほり		4	2	指導教員修論必修
461799	特別研究(後期)	中川 肇		4	2	指導教員修論必修
461803	特別フィールド研究 I	内田 勇人		3	1	指導教員修論必修
461806	特別フィールド研究 I	尾崎 公子		3	1	指導教員修論必修
461807	特別フィールド研究 I	太田 尚孝		3	1	指導教員修論必修
461809	特別フィールド研究 I	井上 靖子		3	1	指導教員修論必修
461810	特別フィールド研究 I	奥 勇一郎		3	1	指導教員修論必修
461812	特別フィールド研究 I	乾 美紀		3	1	指導教員修論必修
461813	特別フィールド研究 I	吉村 美紀		3	1	指導教員修論必修
461814	特別フィールド研究 I	糟屋 美千子		3	1	指導教員修論必修
461815	特別フィールド研究 I	伊藤 美紀子		3	1	指導教員修論必修
461817	特別フィールド研究 I	寺西 雅之		3	1	指導教員修論必修
461818	特別フィールド研究 I	永井 成美		3	1	指導教員修論必修
461820	特別フィールド研究 I	高橋 鉄美		3	1	指導教員修論必修
461821	特別フィールド研究 I	加藤 陽二		3	1	指導教員修論必修
461823	特別フィールド研究 I	森光 由樹		3	1	指導教員修論必修
461825	特別フィールド研究 I	横山 真弓		3	1	指導教員修論必修
461831	特別フィールド研究 I	三宅 康成		3	1	指導教員修論必修
461833	特別フィールド研究 I	井関 崇博		3	1	指導教員修論必修
461834	特別フィールド研究 I	宇高 雄志		3	1	指導教員修論必修
461835	特別フィールド研究 I	大橋 瑞江		3	1	指導教員修論必修
461836	特別フィールド研究 I	木村 玲欧		3	1	指導教員修論必修
461847	特別フィールド研究 I	石田 弘明		3	1	指導教員修論必修
461848	特別フィールド研究 I	安枝 英俊		3	1	指導教員修論必修
461851	特別フィールド研究 I	赤澤 宏樹		3	1	指導教員修論必修
461853	特別フィールド研究 I	三田村 哲哉		3	1	指導教員修論必修
461854	特別フィールド研究 I	水上 優		3	1	指導教員修論必修
461855	特別フィールド研究 I	村上 明		3	1	指導教員修論必修
461856	特別フィールド研究 I	中寫 一憲		3	1	指導教員修論必修
461857	特別フィールド研究 I	藤木 大介		3	1	指導教員修論必修
461858	特別フィールド研究 I	杉山 武志		3	1	指導教員修論必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
461859	特別フィールド研究 I	有満 秀幸		3	1	指導教員修論必修
461861	特別フィールド研究 I	中出 麻紀子		3	1	指導教員修論必修
461862	特別フィールド研究 I	山端 直人		3	1	指導教員修論必修
461863	特別フィールド研究 I	黒田 有寿茂		3	1	指導教員修論必修
461864	特別フィールド研究 I	高木 俊		3	1	指導教員修論必修
461865	特別フィールド研究 I	栗山 武夫		3	1	指導教員修論必修
461866	特別フィールド研究 I	吉田 優		3	1	指導教員修論必修
461868	特別フィールド研究 I	中桐 斉之		3	1	指導教員修論必修
461869	特別フィールド研究 I	大平 和弘		3	1	指導教員修論必修
461871	特別フィールド研究 I	高橋 綾子		3	1	指導教員修論必修
461872	特別フィールド研究 I	森 寿仁		3	1	指導教員修論必修
461873	特別フィールド研究 I	木村 敏文		3	1	指導教員修論必修
461874	特別フィールド研究 I	鄭 成		3	1	指導教員修論必修
461875	特別フィールド研究 I	宇野 康司		3	1	指導教員修論必修
461876	特別フィールド研究 I	金子 一郎		3	1	指導教員修論必修
461877	特別フィールド研究 I	竹内 和雄		3	1	指導教員修論必修
461878	特別フィールド研究 I	竹端 寛		3	1	指導教員修論必修
461879	特別フィールド研究 I	高田 知紀		3	1	指導教員修論必修
461880	特別フィールド研究 I	高野 温子		3	1	指導教員修論必修
461882	特別フィールド研究 I	山田 量崇		3	1	指導教員修論必修
461883	特別フィールド研究 I	山崎 健史		3	1	指導教員修論必修
461884	特別フィールド研究 I	廣瀬 孝太郎		3	1	指導教員修論必修
461885	特別フィールド研究 I	野村 健		3	1	指導教員修論必修
461886	特別フィールド研究 I	池田 忠広		3	1	指導教員修論必修
461887	特別フィールド研究 I	頼末 武史		3	1	指導教員修論必修
461888	特別フィールド研究 I	内平 隆之		3	1	指導教員修論必修
461889	特別フィールド研究 I	藤原 敬介		3	1	指導教員修論必修
461890	特別フィールド研究 I	山瀬 敬太郎		3	1	指導教員修論必修
461891	特別フィールド研究 I	増原 直樹		3	1	指導教員修論必修
461892	特別フィールド研究 I	飯塚 浩太郎		3	1	指導教員修論必修
461893	特別フィールド研究 I	源城 かほり		3	1	指導教員修論必修
461894	特別フィールド研究 I	中川 肇		3	1	指導教員修論必修
461903	特別フィールド研究 II	内田 勇人	3		2	指導教員修論必修
461906	特別フィールド研究 II	尾崎 公子	3		2	指導教員修論必修
461907	特別フィールド研究 II	太田 尚孝	3		2	指導教員修論必修
461909	特別フィールド研究 II	井上 靖子	3		2	指導教員修論必修
461910	特別フィールド研究 II	奥 勇一郎	3		2	指導教員修論必修
461912	特別フィールド研究 II	乾 美紀	3		2	指導教員修論必修
461913	特別フィールド研究 II	吉村 美紀	3		2	指導教員修論必修
461914	特別フィールド研究 II	糟屋 美千子	3		2	指導教員修論必修
461915	特別フィールド研究 II	伊藤 美紀子	3		2	指導教員修論必修
461917	特別フィールド研究 II	寺西 雅之	3		2	指導教員修論必修
461918	特別フィールド研究 II	永井 成美	3		2	指導教員修論必修
461920	特別フィールド研究 II	高橋 鉄美	3		2	指導教員修論必修
461921	特別フィールド研究 II	加藤 陽二	3		2	指導教員修論必修
461924	特別フィールド研究 II	森光 由樹	3		2	指導教員修論必修
461926	特別フィールド研究 II	横山 真弓	3		2	指導教員修論必修
461933	特別フィールド研究 II	三宅 康成	3		2	指導教員修論必修
461935	特別フィールド研究 II	井関 崇博	3		2	指導教員修論必修
461936	特別フィールド研究 II	宇高 雄志	3		2	指導教員修論必修
461937	特別フィールド研究 II	大橋 瑞江	3		2	指導教員修論必修
461938	特別フィールド研究 II	木村 玲欧	3		2	指導教員修論必修
461952	特別フィールド研究 II	石田 弘明	3		2	指導教員修論必修
461953	特別フィールド研究 II	安枝 英俊	3		2	指導教員修論必修
461956	特別フィールド研究 II	赤澤 宏樹	3		2	指導教員修論必修
461958	特別フィールド研究 II	三田村 哲哉	3		2	指導教員修論必修
461959	特別フィールド研究 II	水上 優	3		2	指導教員修論必修
461960	特別フィールド研究 II	村上 明	3		2	指導教員修論必修
461961	特別フィールド研究 II	中寫 一憲	3		2	指導教員修論必修
461962	特別フィールド研究 II	藤木 大介	3		2	指導教員修論必修
461963	特別フィールド研究 II	杉山 武志	3		2	指導教員修論必修
461964	特別フィールド研究 II	有満 秀幸	3		2	指導教員修論必修
461966	特別フィールド研究 II	中出 麻紀子	3		2	指導教員修論必修
461967	特別フィールド研究 II	山端 直人	3		2	指導教員修論必修
461968	特別フィールド研究 II	黒田 有寿茂	3		2	指導教員修論必修
461969	特別フィールド研究 II	高木 俊	3		2	指導教員修論必修
461970	特別フィールド研究 II	栗山 武夫	3		2	指導教員修論必修
461971	特別フィールド研究 II	吉田 優	3		2	指導教員修論必修
461973	特別フィールド研究 II	中桐 斉之	3		2	指導教員修論必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
461974	特別フィールド研究Ⅱ	大平 和弘	3		2	指導教員修論必修
461976	特別フィールド研究Ⅱ	高橋 綾子	3		2	指導教員修論必修
461977	特別フィールド研究Ⅱ	森 寿仁	3		2	指導教員修論必修
461978	特別フィールド研究Ⅱ	木村 敏文	3		2	指導教員修論必修
461979	特別フィールド研究Ⅱ	鄭 成	3		2	指導教員修論必修
461980	特別フィールド研究Ⅱ	宇野 康司	3		2	指導教員修論必修
461981	特別フィールド研究Ⅱ	金子 一郎	3		2	指導教員修論必修
461982	特別フィールド研究Ⅱ	竹内 和雄	3		2	指導教員修論必修
461983	特別フィールド研究Ⅱ	竹端 寛	3		2	指導教員修論必修
461984	特別フィールド研究Ⅱ	高田 知紀	3		2	指導教員修論必修
461985	特別フィールド研究Ⅱ	高野 温子	3		2	指導教員修論必修
461987	特別フィールド研究Ⅱ	山田 暲崇	3		2	指導教員修論必修
461988	特別フィールド研究Ⅱ	山崎 健史	3		2	指導教員修論必修
461989	特別フィールド研究Ⅱ	廣瀬 孝太郎	3		2	指導教員修論必修
461990	特別フィールド研究Ⅱ	野村 健	3		2	指導教員修論必修
461991	特別フィールド研究Ⅱ	池田 忠広	3		2	指導教員修論必修
461992	特別フィールド研究Ⅱ	頼末 武史	3		2	指導教員修論必修
461993	特別フィールド研究Ⅱ	内平 隆之	3		2	指導教員修論必修
461994	特別フィールド研究Ⅱ	藤原 敬介	3		2	指導教員修論必修
461995	特別フィールド研究Ⅱ	山瀬 敬太郎	3		2	指導教員修論必修
461996	特別フィールド研究Ⅱ	増原 直樹	3		2	指導教員修論必修
461997	特別フィールド研究Ⅱ	飯塚 浩太郎	3		2	指導教員修論必修
461998	特別フィールド研究Ⅱ	源城 かほり	3		2	指導教員修論必修
461999	特別フィールド研究Ⅱ	中川 肇	3		2	指導教員修論必修
462103	特別フィールド研究Ⅲ(A)	内田 勇人	4		2	指導教員修論必修
462106	特別フィールド研究Ⅲ(A)	尾崎 公子	4		2	指導教員修論必修
462107	特別フィールド研究Ⅲ(A)	太田 尚孝	4		2	指導教員修論必修
462109	特別フィールド研究Ⅲ(A)	井上 靖子	4		2	指導教員修論必修
462110	特別フィールド研究Ⅲ(A)	奥 勇一郎	4		2	指導教員修論必修
462112	特別フィールド研究Ⅲ(A)	乾 美紀	4		2	指導教員修論必修
462113	特別フィールド研究Ⅲ(A)	吉村 美紀	4		2	指導教員修論必修
462114	特別フィールド研究Ⅲ(A)	糟屋 美千子	4		2	指導教員修論必修
462115	特別フィールド研究Ⅲ(A)	伊藤 美紀子	4		2	指導教員修論必修
462117	特別フィールド研究Ⅲ(A)	寺西 雅之	4		2	指導教員修論必修
462118	特別フィールド研究Ⅲ(A)	永井 成美	4		2	指導教員修論必修
462120	特別フィールド研究Ⅲ(A)	高橋 鉄美	4		2	指導教員修論必修
462121	特別フィールド研究Ⅲ(A)	加藤 陽二	4		2	指導教員修論必修
462124	特別フィールド研究Ⅲ(A)	森光 由樹	4		2	指導教員修論必修
462126	特別フィールド研究Ⅲ(A)	横山 真弓	4		2	指導教員修論必修
462133	特別フィールド研究Ⅲ(A)	三宅 康成	4		2	指導教員修論必修
462135	特別フィールド研究Ⅲ(A)	井関 崇博	4		2	指導教員修論必修
462136	特別フィールド研究Ⅲ(A)	宇高 雄志	4		2	指導教員修論必修
462137	特別フィールド研究Ⅲ(A)	大橋 瑞江	4		2	指導教員修論必修
462138	特別フィールド研究Ⅲ(A)	木村 玲欧	4		2	指導教員修論必修
462152	特別フィールド研究Ⅲ(A)	石田 弘明	4		2	指導教員修論必修
462153	特別フィールド研究Ⅲ(A)	安枝 英俊	4		2	指導教員修論必修
462156	特別フィールド研究Ⅲ(A)	赤澤 宏樹	4		2	指導教員修論必修
462158	特別フィールド研究Ⅲ(A)	三田村 哲哉	4		2	指導教員修論必修
462159	特別フィールド研究Ⅲ(A)	水上 優	4		2	指導教員修論必修
462160	特別フィールド研究Ⅲ(A)	村上 明	4		2	指導教員修論必修
462161	特別フィールド研究Ⅲ(A)	中寫 一憲	4		2	指導教員修論必修
462162	特別フィールド研究Ⅲ(A)	藤木 大介	4		2	指導教員修論必修
462163	特別フィールド研究Ⅲ(A)	杉山 武志	4		2	指導教員修論必修
462164	特別フィールド研究Ⅲ(A)	有満 秀幸	4		2	指導教員修論必修
462166	特別フィールド研究Ⅲ(A)	中出 麻紀子	4		2	指導教員修論必修
462167	特別フィールド研究Ⅲ(A)	山端 直人	4		2	指導教員修論必修
462168	特別フィールド研究Ⅲ(A)	黒田 有寿茂	4		2	指導教員修論必修
462169	特別フィールド研究Ⅲ(A)	高木 俊	4		2	指導教員修論必修
462170	特別フィールド研究Ⅲ(A)	栗山 武夫	4		2	指導教員修論必修
462171	特別フィールド研究Ⅲ(A)	吉田 優	4		2	指導教員修論必修
462173	特別フィールド研究Ⅲ(A)	中桐 齊之	4		2	指導教員修論必修
462174	特別フィールド研究Ⅲ(A)	大平 和弘	4		2	指導教員修論必修
462176	特別フィールド研究Ⅲ(A)	高橋 綾子	4		2	指導教員修論必修
462177	特別フィールド研究Ⅲ(A)	森 寿仁	4		2	指導教員修論必修
462178	特別フィールド研究Ⅲ(A)	木村 敏文	4		2	指導教員修論必修
462179	特別フィールド研究Ⅲ(A)	鄭 成	4		2	指導教員修論必修
462180	特別フィールド研究Ⅲ(A)	宇野 康司	4		2	指導教員修論必修
462181	特別フィールド研究Ⅲ(A)	金子 一郎	4		2	指導教員修論必修
462182	特別フィールド研究Ⅲ(A)	竹内 和雄	4		2	指導教員修論必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
462183	特別フィールド研究Ⅲ(A)	竹端 寛	4		2	指導教員修論必修
462184	特別フィールド研究Ⅲ(A)	高田 知紀	4		2	指導教員修論必修
462185	特別フィールド研究Ⅲ(A)	高野 温子	4		2	指導教員修論必修
462187	特別フィールド研究Ⅲ(A)	山田 量崇	4		2	指導教員修論必修
462188	特別フィールド研究Ⅲ(A)	山崎 健史	4		2	指導教員修論必修
462189	特別フィールド研究Ⅲ(A)	廣瀬 孝太郎	4		2	指導教員修論必修
462190	特別フィールド研究Ⅲ(A)	野村 健	4		2	指導教員修論必修
462191	特別フィールド研究Ⅲ(A)	池田 忠広	4		2	指導教員修論必修
462192	特別フィールド研究Ⅲ(A)	頼末 武史	4		2	指導教員修論必修
462193	特別フィールド研究Ⅲ(A)	内平 隆之	4		2	指導教員修論必修
462194	特別フィールド研究Ⅲ(A)	藤原 敬介	4		2	指導教員修論必修
462195	特別フィールド研究Ⅲ(A)	山瀬 敬太郎	4		2	指導教員修論必修
462196	特別フィールド研究Ⅲ(A)	増原 直樹	4		2	指導教員修論必修
462197	特別フィールド研究Ⅲ(A)	飯塚 浩太郎	4		2	指導教員修論必修
462198	特別フィールド研究Ⅲ(A)	源城 かほり	4		2	指導教員修論必修
462199	特別フィールド研究Ⅲ(A)	中川 肇	4		2	指導教員修論必修
462003	特別フィールド研究Ⅲ(B)	内田 勇人		4	2	指導教員修論必修
462006	特別フィールド研究Ⅲ(B)	尾崎 公子		4	2	指導教員修論必修
462007	特別フィールド研究Ⅲ(B)	太田 尚孝		4	2	指導教員修論必修
462009	特別フィールド研究Ⅲ(B)	井上 靖子		4	2	指導教員修論必修
462010	特別フィールド研究Ⅲ(B)	奥 勇一郎		4	2	指導教員修論必修
462012	特別フィールド研究Ⅲ(B)	乾 美紀		4	2	指導教員修論必修
462013	特別フィールド研究Ⅲ(B)	吉村 美紀		4	2	指導教員修論必修
462014	特別フィールド研究Ⅲ(B)	糟屋 美千子		4	2	指導教員修論必修
462015	特別フィールド研究Ⅲ(B)	伊藤 美紀子		4	2	指導教員修論必修
462017	特別フィールド研究Ⅲ(B)	寺西 雅之		4	2	指導教員修論必修
462018	特別フィールド研究Ⅲ(B)	永井 成美		4	2	指導教員修論必修
462020	特別フィールド研究Ⅲ(B)	高橋 鉄美		4	2	指導教員修論必修
462021	特別フィールド研究Ⅲ(B)	加藤 陽二		4	2	指導教員修論必修
462024	特別フィールド研究Ⅲ(B)	森光 由樹		4	2	指導教員修論必修
462026	特別フィールド研究Ⅲ(B)	横山 真弓		4	2	指導教員修論必修
462033	特別フィールド研究Ⅲ(B)	三宅 康成		4	2	指導教員修論必修
462035	特別フィールド研究Ⅲ(B)	井関 崇博		4	2	指導教員修論必修
462036	特別フィールド研究Ⅲ(B)	宇高 雄志		4	2	指導教員修論必修
462037	特別フィールド研究Ⅲ(B)	大橋 瑞江		4	2	指導教員修論必修
462038	特別フィールド研究Ⅲ(B)	木村 玲欧		4	2	指導教員修論必修
462052	特別フィールド研究Ⅲ(B)	石田 弘明		4	2	指導教員修論必修
462053	特別フィールド研究Ⅲ(B)	安枝 英俊		4	2	指導教員修論必修
462056	特別フィールド研究Ⅲ(B)	赤澤 宏樹		4	2	指導教員修論必修
462058	特別フィールド研究Ⅲ(B)	三田村 哲哉		4	2	指導教員修論必修
462059	特別フィールド研究Ⅲ(B)	水上 優		4	2	指導教員修論必修
462060	特別フィールド研究Ⅲ(B)	村上 明		4	2	指導教員修論必修
462061	特別フィールド研究Ⅲ(B)	中寫 一憲		4	2	指導教員修論必修
462062	特別フィールド研究Ⅲ(B)	藤木 大介		4	2	指導教員修論必修
462063	特別フィールド研究Ⅲ(B)	杉山 武志		4	2	指導教員修論必修
462064	特別フィールド研究Ⅲ(B)	有満 秀幸		4	2	指導教員修論必修
462066	特別フィールド研究Ⅲ(B)	中出 麻紀子		4	2	指導教員修論必修
462067	特別フィールド研究Ⅲ(B)	山端 直人		4	2	指導教員修論必修
462068	特別フィールド研究Ⅲ(B)	黒田 有寿茂		4	2	指導教員修論必修
462069	特別フィールド研究Ⅲ(B)	高木 俊		4	2	指導教員修論必修
462070	特別フィールド研究Ⅲ(B)	栗山 武夫		4	2	指導教員修論必修
462071	特別フィールド研究Ⅲ(B)	吉田 優		4	2	指導教員修論必修
462073	特別フィールド研究Ⅲ(B)	中桐 斉之		4	2	指導教員修論必修
462074	特別フィールド研究Ⅲ(B)	大平 和弘		4	2	指導教員修論必修
462076	特別フィールド研究Ⅲ(B)	高橋 綾子		4	2	指導教員修論必修
462077	特別フィールド研究Ⅲ(B)	森 寿仁		4	2	指導教員修論必修
462078	特別フィールド研究Ⅲ(B)	木村 敏文		4	2	指導教員修論必修
462079	特別フィールド研究Ⅲ(B)	鄭 成		4	2	指導教員修論必修
462080	特別フィールド研究Ⅲ(B)	宇野 康司		4	2	指導教員修論必修
462081	特別フィールド研究Ⅲ(B)	金子 一郎		4	2	指導教員修論必修
462082	特別フィールド研究Ⅲ(B)	竹内 和雄		4	2	指導教員修論必修
462083	特別フィールド研究Ⅲ(B)	竹端 寛		4	2	指導教員修論必修
462084	特別フィールド研究Ⅲ(B)	高田 知紀		4	2	指導教員修論必修
462085	特別フィールド研究Ⅲ(B)	高野 温子		4	2	指導教員修論必修
462087	特別フィールド研究Ⅲ(B)	山田 量崇		4	2	指導教員修論必修
462088	特別フィールド研究Ⅲ(B)	山崎 健史		4	2	指導教員修論必修
462089	特別フィールド研究Ⅲ(B)	廣瀬 孝太郎		4	2	指導教員修論必修
462090	特別フィールド研究Ⅲ(B)	野村 健		4	2	指導教員修論必修
462091	特別フィールド研究Ⅲ(B)	池田 忠広		4	2	指導教員修論必修

授業 コード	講 義 名	担当教員	単位数		配当 年次	備考
			前期	後期		
462092	特別フィールド研究Ⅲ(B)	頼末 武史		4	2	指導教員修論必修
462093	特別フィールド研究Ⅲ(B)	内平 隆之		4	2	指導教員修論必修
462094	特別フィールド研究Ⅲ(B)	藤原 敬介		4	2	指導教員修論必修
462095	特別フィールド研究Ⅲ(B)	山瀬 敬太郎		4	2	指導教員修論必修
462096	特別フィールド研究Ⅲ(B)	増原 直樹		4	2	指導教員修論必修
462097	特別フィールド研究Ⅲ(B)	飯塚 浩太郎		4	2	指導教員修論必修
462098	特別フィールド研究Ⅲ(B)	源城 かほり		4	2	指導教員修論必修
462099	特別フィールド研究Ⅲ(B)	中川 肇		4	2	指導教員修論必修

※特別フィールド研究Ⅲ(A)は10月入学生、特別フィールド研究Ⅲ(B)は4月入学生用。

環境人間学研究科 履修モデル(令和8年版 カリキュラムマップ)

栄養教諭専修免許取得

保健体育専修免許取得

特別研究(後期) 又は 特別フィールド研究Ⅲ(社会人院生) + 修士論文

特別研究(前期) 又は 特別フィールド研究Ⅱ(社会人院生)

- 人間科学・文化
- 公共政策
- 建築・都市
- 自然・環境
- 食環境栄養
- 共生博物
- 先端医療工学

必修科目
 ・特別ゼミナール(後期)Ⅰ
 ・特別ゼミナール(後期)Ⅱ 又は 特別実験(後期) 又は 健康スポーツ科学課題演習Ⅱ
 ・特別フィールド研究Ⅰ(社会人院生のみ選択可)

- ①アメリカ研究特論
- ②英語圏文化研究特論
- ③環境言語表現特別演習
- ④教育原論特論
- ①近現代表象文化特論
- ②健康発達特論
- ③言語学特論
- ④公法学特論
- ①人間学特論
- ②生涯スポーツ教育特論
- ③生涯発達心理学特論
- ④多文化共生教育特論
- ①防災心理・教育学特論
- ②地域教育政策特論
- ③比叡言語・文化特論
- ④地域教育政策特論
- ⑤臨床心理学特論
- ⑥生徒指導実践特論
- 【他研究科目】
 バイオメカニクス
 スポーツマネジメント研究

- ①環境経済・政策特論
- ②環境社会学特論
- ③言語社会分析特論
- ④地域コミュニティ特論
- ①都市計画特論
- ②農村計画特論
- ③福祉社会学特論
- ④防災心理・教育学特論
- 【関連科目】
 ②環境英語表現特別演習
 ①国土空間学特論
 ②生涯発達心理学特論
 ③生涯社会学特論
 ④多文化共生教育特論
 ①防災心理・教育学特論
 ②地域教育政策特論
 ③地域社会学特論
 ④ランドスケープ計画特論
 ⑤ランドスケープ保全特論
 ⑥臨床心理学特論

- ①環境画像解析特論
- ②環境動態解析特論
- ③森林生態学特論
- ④水圏環境学特論
- ⑤生態博覧学特論
- ①大気科学特論
- ②土地利用情報学特論
- ③生態工学特論
- 【関連科目】
 ②海洋生物学・生态学特論
 ③環境画像解析特論
 ④住宅計画特論
 ⑤地域社会学特論
 ⑥ランドスケープ計画特論
 ⑦ランドスケープ保全特論

- ①実践栄養学特論
- ②食品科学特論
- ③生命環境特論
- ④環境食環境栄養特論
- ⑤ライフステージ栄養学特論
- 【関連科目】
 ①アメリカ研究特論
 ②英語圏文化研究特論
 ③環境画像解析特論
 ④生涯スポーツ教育特論
 ⑤トレンニング特論
 ⑥健康発達特論
 ⑦防災心理・教育学特論
 ⑧生涯発達心理学特論
 ⑨人間学特論
 ⑩多文化共生教育特論
 ⑪地域教育政策特論
 ⑫臨床心理学特論
 ⑬生徒指導実践特別演習

- ①種生物学特論
- ②古生物学特論
- ③海洋生物学特論
- ④個体群生態学特論
- ⑤保全生態学特論
- ⑥植物生態学特論
- ⑦国土空間学特論
- ⑧ランドスケープ保全特論
- ⑨野生動物管理
- ⑩フィールドラフ
- ⑪マネジメント特論
- ⑫地球環境准化学特論
- ⑬植物分類学特論
- ⑭基礎昆虫学特論
- ⑮古脊椎動物学特論

- ①医療健康工学概論
- ②看護と保健政策
- ③人間健康科学特論
- ④病院情報システム特論
- ①臨床食環境栄養特論
- ②デジタルヘルス
- ③データーヘルス
- 【関連科目】
 ①環境経済・政策特論
 ②教育原論特論
 ③健康発達特論
 ④食品科学特論
 ⑤人間学特論
 ⑥生涯スポーツ教育特論
 ⑦多文化共生教育特論
 ⑧地域教育政策特論
 ⑨臨床心理学特論
 ⑩生徒指導実践特別演習

必修科目
 ・特別ゼミナール(前期)Ⅰ
 ・特別ゼミナール(前期)Ⅱ 又は 特別実験(前期) 又は 健康スポーツ科学課題演習Ⅰ

- ①アメリカ研究特論
- ②英語圏文化研究特論
- ③環境言語表現特別演習
- ④教育原論特論
- ①近現代表象文化特論
- ②健康発達特論
- ③言語学特論
- ④公法学特論
- ①人間学特論
- ②生涯スポーツ教育特論
- ③生涯発達心理学特論
- ④多文化共生教育特論
- ①防災心理・教育学特論
- ②地域教育政策特論
- ③比叡言語・文化特論
- ④地域教育政策特論
- ⑤臨床心理学特論
- ⑥生徒指導実践特論
- 【他研究科目】
 バイオメカニクス
 スポーツマネジメント研究

- ①環境経済・政策特論
- ②環境社会学特論
- ③言語社会分析特論
- ④地域コミュニティ特論
- ①都市計画特論
- ②農村計画特論
- ③福祉社会学特論
- ④防災心理・教育学特論
- 【関連科目】
 ②環境英語表現特別演習
 ①国土空間学特論
 ②生涯発達心理学特論
 ③生涯社会学特論
 ④多文化共生教育特論
 ①防災心理・教育学特論
 ②地域教育政策特論
 ③地域社会学特論
 ④ランドスケープ計画特論
 ⑤ランドスケープ保全特論
 ⑥臨床心理学特論

- ①環境画像解析特論
- ②環境動態解析特論
- ③森林生態学特論
- ④水圏環境学特論
- ⑤生態博覧学特論
- ①大気科学特論
- ②土地利用情報学特論
- ③生態工学特論
- 【関連科目】
 ②海洋生物学・生态学特論
 ③環境画像解析特論
 ④住宅計画特論
 ⑤地域社会学特論
 ⑥ランドスケープ計画特論
 ⑦ランドスケープ保全特論

- ①実践栄養学特論
- ②食品科学特論
- ③生命環境特論
- ④環境食環境栄養特論
- ⑤ライフステージ栄養学特論
- 【関連科目】
 ①アメリカ研究特論
 ②英語圏文化研究特論
 ③環境画像解析特論
 ④生涯スポーツ教育特論
 ⑤トレンニング特論
 ⑥健康発達特論
 ⑦防災心理・教育学特論
 ⑧生涯発達心理学特論
 ⑨人間学特論
 ⑩多文化共生教育特論
 ⑪地域教育政策特論
 ⑫臨床心理学特論
 ⑬生徒指導実践特別演習

- ①種生物学特論
- ②古生物学特論
- ③海洋生物学特論
- ④個体群生態学特論
- ⑤保全生態学特論
- ⑥植物生態学特論
- ⑦国土空間学特論
- ⑧ランドスケープ保全特論
- ⑨野生動物管理
- ⑩フィールドラフ
- ⑪マネジメント特論
- ⑫地球環境准化学特論
- ⑬植物分類学特論
- ⑭基礎昆虫学特論
- ⑮古脊椎動物学特論

- ①医療健康工学概論
- ②看護と保健政策
- ③人間健康科学特論
- ④病院情報システム特論
- ①臨床食環境栄養特論
- ②デジタルヘルス
- ③データーヘルス
- 【関連科目】
 ①環境経済・政策特論
 ②教育原論特論
 ③健康発達特論
 ④食品科学特論
 ⑤人間学特論
 ⑥生涯スポーツ教育特論
 ⑦多文化共生教育特論
 ⑧地域教育政策特論
 ⑨臨床心理学特論
 ⑩生徒指導実践特別演習

共通推奨科目：リサーチ・トレーニング特論

入学時に必要な資格：保健体育
(中・高一種免許)

※①はDP1を、②はDP2を示す。
 ※DP1・DP2はP.3を参照

入学時に必要な資格：管理栄養士(栄養士)
 栄養教諭一種免許

(7) カリキュラムマトリクスについて

環境人間学研究科（博士前期課程）DP

DP1 諸専門の知識や情報を組織して問題解決に向かう研究態度を身につけている。

DP2 社会のニーズに応える高度の専門知識と総合的、実践的な問題発見・解決能力を身につけている。

授業科目名	担当教員名	単位数	授業形態	DP1	DP2
トレーニング特論	野村 健	2	講義	◎	○
健康発達特論	内田 勇人	2	講義	◎	○
環境英語表現特別演習	寺西 雅之	2	演習	○	◎
多文化共生教育特論	乾 美紀	2	演習	◎	○
臨床心理学特論	井上 靖子	2	講義	○	◎
食品科学特論	吉村 美紀 他	2	講義	◎	○
生命環境特論	加藤 陽二 他	2	講義	○	
実践栄養学特論	伊藤 美紀子 他	2	講義	◎	○
ライフステージ栄養学特論	永井 成美 他	2	講義		◎
地域教育政策特論	尾崎 公子	2	演習	○	◎
人間学特論	西村 洋平	2	演習	◎	○
言語学特論	藤原 敬介	2	講義	◎	○
生涯スポーツ教育特論	森 寿仁	2	講義	◎	○
アメリカ研究特論	高橋 綾子	2	講義	◎	○
教育原論特論	山口 裕毅	2	講義	◎	○
英語圏文化研究特論	柳楽 有里	2	演習	◎	
比較言語・文化特論	鄭 成	2	講義	○	◎
生涯発達心理学特論	保坂 裕子	2	演習	◎	○
生徒指導実践特論	竹内 和雄	2	演習	○	◎
生態情報学特論	中桐 斉之	2	演習	○	◎
環境社会学特論	井関 崇博	2	講義	○	◎
言語社会分析特論	糟屋 美千子	2	講義	◎	○
防災心理・教育学特論	木村 玲欧	2	講義	◎	○
都市計画特論	太田 尚孝	2	講義	◎	○
建築意匠特論	三田村 哲哉	2	講義		◎
地域コミュニティ特論	杉山 武志	2	講義	◎	○
農村計画特論	三宅 康成	2	講義	◎	○
環境経済・政策特論	中嶋・増原	2	講義	◎	○
大気科学特論	奥 勇一郎	2	講義	◎	○
住環境学特論	金 政一	2	講義		◎
住宅計画特論	宇高 雄志	2	講義		◎
建築・インテリア設計特論	水上 優	2	講義	◎	○
建築計画特論	安枝 英俊	2	講義	○	◎
水圏環境学特論	風間 健宏	2	講義	○	◎
福祉社会学特論	竹端 寛	2	講義	○	◎
森林生態学特論	大橋 瑞江	2	講義	◎	○
環境画像解析特論	木村 敏文	2	講義	◎	○
環境動態解析学特論	宇野 康司	2	講義	◎	○
建築防災学特論	荘所 直哉	2	講義	◎	○
地域プロジェクト特論	内平 隆之	2	講義	○	◎
生態工学特論	山瀬 敬太郎	2	講義	◎	○
公法学特論	檜垣 宏太	2	講義	◎	○
建築環境工学特論	源城 かほり	2	講義	○	◎
土地利用情報学特論	飯塚 浩太郎	2	講義	○	◎
建築耐震設計特論	中川 肇	2	講義	○	◎
建築設計インターシップⅠ	三田村 哲哉	4	実習		◎
建築設計インターシップⅡ	三田村 哲哉	4	実習		◎

授業科目名	担当教員名	単位数	授業形態	DP1	DP2
ランドスケープ計画特論	赤澤 宏樹	2	演習	◎	○
進化生態学特論	高橋 鉄美	2	講義		◎
個体群生態学特論	栗山・高木	2	演習	○	◎
古生物学特論	池田 忠広	2	実習	◎	
ワイルドライフマネジメント特論	山端・横山	2	講義	○	◎
植物生態学特論	黒田 有寿茂	2	講義	○	
植生学特別演習	石田 弘明	2	講義		○
保全生態学特論	森光・藤木	2	講義	○	◎
野生動物管理フィールド特別演習	山端 直人 他	2	実習	◎	○
ランドスケープ保全特論	大平 和弘	2	演習	○	◎
国土空間学特論	高田 知紀	2	講義	◎	
海洋生物生態学特論	頼末 武史	2	講義	◎	○
種生物学特論	山崎 健史	2	講義	◎	○
地球環境進化学特論	廣瀬 孝太郎	2	実習	◎	○
植物分類学特論	高野 温子	2	演習	◎	○
基礎昆虫学特論	山田 量崇	2	講義	◎	○
古脊椎動物学特論	田中 公教	2	講義	◎	○
リサーチトレーニング特論	研究科教員	2	講義	◎	○
医療健康工学概論	小橋 昌司 他	2	講義	△	△
人間健康科学特論	内田 勇人 他	2	講義	△	△
臨床食環境栄養特論	伊藤 美紀子 他	2	講義	◎	○
看護と保健政策	撫養 真紀子 他	2	講義	◎	○
病院情報システム特論	竹村・畑	2	講義	△	△
デジタルヘルス	藤田 孝之	2	講義	△	△
データヘルス	八木 直美	2	講義	△	△
コミュニティ・プランナー方法論	内平 隆之	2	講義	◎	
コミュニティ・プランナー方法論実践	内平 隆之	2	講義	◎	
産学連携実践講義	キャンパスキャリア センター長	2	講義	△	△
特別ゼミナール（前期）Ⅰ	指導教員	2	演習	○	◎
特別ゼミナール（後期）Ⅰ		2	演習	○	◎
特別ゼミナール（前期）Ⅱ		2	演習	○	◎
特別ゼミナール（後期）Ⅱ		2	演習	○	◎
特別実験（前期）		2	実験	○	◎
特別実験（後期）		2	実験	○	◎
健康スポーツ科学課題演習Ⅰ		2	実験	○	◎
健康スポーツ科学課題演習Ⅱ		2	実験	○	◎
特別研究（前期）		4	演習	○	◎
特別研究（後期）		4	演習	○	◎
特別フィールド研究Ⅰ		3	演習	○	◎
特別フィールド研究Ⅱ		3	演習	○	◎
特別フィールド研究Ⅲ		4	演習	○	◎

△・・・他研究科科目

(8) オープン大学院(先端医療工学研究所共通科目)について

本オープン大学院は、先端医療工学研究所(県立はりま姫路総合医療センターに隣接)を拠点として、工学、理学、看護学、環境人間学、情報科学の各研究科における知見・技術シーズを結集させ、医療関連機器、デジタルヘルスなどの分野における人材育成に取り組みます。

学生は、本研究科が認定した各研究科から提供される医療関係分野の科目(7科目・詳細は科目開講一覧を参照)を履修することができます。当該科目は、10単位を上限として修了単位として認定されます。

取得できる学位の名称は、環境人間学研究科の学位名称となります(将来に向けて、医療系の大学院の検討も進めています)。

(9) コミュニティ・プランナー(CP)共通科目について

大学院における地域創生リーダーの育成を図るため、大学院博士前期課程のプログラムとして、大学院共通科目「コミュニティ・プランナー方法論」「コミュニティ・プランナー方法論実践」の2科目4単位(集中講義)が開講されています。※詳細はシラバスを参照

受講対象者は、学部においてRREP 20単位以上を取得し、「コミュニティ・プランナー アソシエイト」「ひょうご学志」の称号取得者とし、上記2科目4単位を取得した学生には「コミュニティ・プランナー」の称号を付与します。

(10) 一級建築士実務経験認定コース

一級建築士の実務経験として認定を受けようとする者は、下表の科目のうち必要単位数を履修する必要がある。

1. 対象となる入学年度
令和6年度以降
2. 履修の対象者
国土交通大臣の指定する建築に関する科目(指定科目)を修めて卒業した者
3. 実務年数
1年
4. 専門領域
意匠

大学院における実務経験に該当する科目

科目区分	科目名	単位	必要単位数
インターンシップ	建築設計インターンシップ I	4	8
	建築設計インターンシップ II	4	
講義	住環境学特論	2	8以上
	住宅計画特論	2	
	建築・インテリア設計特論	2	
	建築計画特論	2	
	建築意匠特論	2	
	建築防災学特論	2	
	都市計画特論	2	
	地域プロジェクト特論	2	
必要単位数:合計(15単位以上)			16

【注意事項】 建築設計インターンシップ I・IIは、学外で実施される科目である。
履修要件などの詳細は、シラバスを参照すること。

(11) 専修免許状取得について

保健体育専修免許、栄養教諭専修免許の取得に必要な科目、単位等は、研究科規程第18条(P.52)、別表第5(P.56)を参照すること。

【博士後期課程】

(1) 授業科目と修了要件について

環境人間学研究科博士後期課程において開講する授業科目は、以下のとおりです。

履修登録、修正、論文発表会その他の連絡は、メールにて通知しますので、必ず登録のうえ、定期的にメールを確認してください。

なお、記載内容は、令和8年4月現在のもので、登録内容や様式等に変更があった場合も、メールにて通知しますので、メールの内容をよく確認して下さい。

【修了要件】

本研究科博士後期課程に3年以上在学し、1～3の要件を満たすこと。

1. 「環境人間学特別演習」を4単位、「環境人間学特別研究」を6単位、合計10単位以上修得すること。

※特別演習と特別研究は同時に履修できない。特別演習を修得後、特別研究を履修すること。

※特別演習及び特別研究については通年科目であり、年に1回(4月入学者は4月のみ、10月入学者は10月のみ)登録できる。

※履修登録した科目をその年度に修得できなかった場合(単位認定されなかった場合)、次年度に再度履修届を提出すること。

2. 博士論文中間発表を終えていること。(7月末頃及び1月末頃開催予定)

3. 必要な研究指導を受けた上で定められた期限までに博士論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。

(2) 履修願・履修登録手続きについて

①「環境人間学特別演習」及び「環境人間学特別研究」は、いずれも1年間の科目のため、年1回の登録となります。指導教員の承認を受けたうえで、登録期間内にマニュアルに従ってユニバーサルパスポートへ登録すると同時に、履修届を学務課に提出してください。

②提出書類

提出書類	提出時期	備考
授業科目履修届 (D-1)	特別演習…入学時以降 の年度当初 特別研究…特別演習単 位を修得後	・特別演習・特別研究の履修状況に応じて、 <u>指導教員に履修登録時期を相談のうえ</u> で提出。 ・特別演習を修得したことを確認してから、特別研究を履修登録すること。 ・4月入学生は4月に、10月入学生は10月に提出すること。
研究指導計画書 (D-2)	4月入学者…4月 10月入学者…10月	・4月入学者は4月、10月入学者は10月に、学務課から案内及び様式配付をする。
指導教員届 (D-3)	入学時	・指導教員1名及び副指導教員2名の合計3名を記載。 ・指導教員が変更になる場合は、速やかに指導教員への変更届の提出が必要。

※所定の提出期限を必ず守ってください。

(3) 博士後期課程学生の単位認定時期

※通年単位であり、履修登録は年1回のみ。

入学時期	1年目		2年目		3年目	
	4月	3月	4月	3月	4月	3月
4月	1年目または2年目で修得(4単位) ↓					
	①環境人間学特別演習		②環境人間学特別研究			
			①環境人間学特別演習		②環境人間学特別研究	
	2年目または3年目で修得(6単位) ↑					
入学時期	1年目		2年目		3年目	
	10月	9月	10月	9月	10月	9月
10月	1年目または2年目で修得(4単位) ↓					
	①環境人間学特別演習		②環境人間学特別研究			
			①環境人間学特別演習		②環境人間学特別研究	
	2年目または3年目で修得(6単位) ↑					

※履修登録年度については、指導教員と事前によく相談すること。

【注意事項】

- ①必修科目として、「環境人間学特別演習」または「環境人間学特別研究」のどちらかを履修する年度に登録すること。
(4月入学生は4月、10月入学生は10月に登録すること)。
- ②履修順序は、「環境人間学特別演習」→「環境人間学特別研究」の順である。
「特別演習」の単位を修得していることを成績表等で確認してから、「特別研究」に登録すること。
- ③1年単位の科目であるため、半年休学する場合、既に履修した半年は無効になる。
復学後に再度履修登録すること。
- ④長期履修者の場合は、在籍年数により履修時期が異なる。上記の「単位認定時期」とは異なる場合があるので、指導教員と相談のうえ、履修年度を決定すること。

(4) 博士後期課程の授業科目及び単位数

部 門	授業コード	授業科目の名称	履修年次※	単位数または時間数		備 考
				必修	選択	
人間環境部門	別紙参照	環境人間学特別演習	1・2	4		
	別紙参照	環境人間学特別研究	2・3	6		
社会環境部門	460386	産学連携実践講義	1		2	修了所要単位に <u>含まない</u>
	467991	ジョブ型研究インターンシップ	指定なし		2	修了所要単位に <u>含まない</u>

※長期履修学生は、指導教員と相談のうえ履修年次を決定すること。

(5) 博士後期課程 履修登録コード一覧表

※開講日時、教室が変更される場合があるので注意し、教員の指示に従って履修すること。

授業コード (4月入学)	授業コード (10月入学)	講 義 名	担当教員	単位数	配当 年次	備考
				通年		
465001	467001	環境人間学特別演習	内田 勇人	4	1	指導教員ゼミ必修
465002	467002	環境人間学特別演習	尾崎 公子	4	1	指導教員ゼミ必修
465003	467003	環境人間学特別演習	太田 尚孝	4	1	指導教員ゼミ必修
465004	467004	環境人間学特別演習	吉村 美紀	4	1	指導教員ゼミ必修
465005	467005	環境人間学特別演習	伊藤 美紀子	4	1	指導教員ゼミ必修
465006	467006	環境人間学特別演習	寺西 雅之	4	1	指導教員ゼミ必修
465007	467007	環境人間学特別演習	永井 成美	4	1	指導教員ゼミ必修
465008	467008	環境人間学特別演習	高橋 鉄美	4	1	指導教員ゼミ必修
465009	467009	環境人間学特別演習	加藤 陽二	4	1	指導教員ゼミ必修
465010	467010	環境人間学特別演習	森光 由樹	4	1	指導教員ゼミ必修
465011	467011	環境人間学特別演習	横山 真弓	4	1	指導教員ゼミ必修
465012	467012	環境人間学特別演習	乾 美紀	4	1	指導教員ゼミ必修
465013	467013	環境人間学特別演習	宇高 雄志	4	1	指導教員ゼミ必修
465014	467014	環境人間学特別演習	大橋 瑞江	4	1	指導教員ゼミ必修
465015	467015	環境人間学特別演習	木村 玲欧	4	1	指導教員ゼミ必修
465016	467016	環境人間学特別演習	石田 弘明	4	1	指導教員ゼミ必修
465017	467017	環境人間学特別演習	安枝 英俊	4	1	指導教員ゼミ必修
465019	467019	環境人間学特別演習	赤澤 宏樹	4	1	指導教員ゼミ必修
465020	467020	環境人間学特別演習	村上 明	4	1	指導教員ゼミ必修
465021	467021	環境人間学特別演習	中寫 一憲	4	1	指導教員ゼミ必修
465022	467022	環境人間学特別演習	山端 直人	4	1	指導教員ゼミ必修
465023	467023	環境人間学特別演習	栗山 武夫	4	1	指導教員ゼミ必修
465024	467024	環境人間学特別演習	吉田 優	4	1	指導教員ゼミ必修
465025	467025	環境人間学特別演習	宇野 康司	4	1	指導教員ゼミ必修
465026	467026	環境人間学特別演習	源城 かほり	4	1	指導教員ゼミ必修
授業コード (4月入学)	授業コード (10月入学)	講 義 名	担当教員	単位数	配当 年次	備考
				通年		
466001	468001	環境人間学特別研究	内田 勇人	6	2	指導教員ゼミ必修
466002	468002	環境人間学特別研究	尾崎 公子	6	2	指導教員ゼミ必修
466003	468003	環境人間学特別研究	太田 尚孝	6	2	指導教員ゼミ必修
466004	468004	環境人間学特別研究	吉村 美紀	6	2	指導教員ゼミ必修
466005	468005	環境人間学特別研究	伊藤 美紀子	6	2	指導教員ゼミ必修
466006	468006	環境人間学特別研究	寺西 雅之	6	2	指導教員ゼミ必修
466007	468007	環境人間学特別研究	永井 成美	6	2	指導教員ゼミ必修
466008	468008	環境人間学特別研究	高橋 鉄美	6	2	指導教員ゼミ必修
466009	468009	環境人間学特別研究	加藤 陽二	6	2	指導教員ゼミ必修
466010	468010	環境人間学特別研究	森光 由樹	6	2	指導教員ゼミ必修
466011	468011	環境人間学特別研究	横山 真弓	6	2	指導教員ゼミ必修
466012	468012	環境人間学特別研究	乾 美紀	6	2	指導教員ゼミ必修
466013	468013	環境人間学特別研究	宇高 雄志	6	2	指導教員ゼミ必修
466014	468014	環境人間学特別研究	大橋 瑞江	6	2	指導教員ゼミ必修
466015	468015	環境人間学特別研究	木村 玲欧	6	2	指導教員ゼミ必修
466016	468016	環境人間学特別研究	石田 弘明	6	2	指導教員ゼミ必修
466017	468017	環境人間学特別研究	安枝 英俊	6	2	指導教員ゼミ必修
466019	468019	環境人間学特別研究	赤澤 宏樹	6	2	指導教員ゼミ必修
466020	468020	環境人間学特別研究	村上 明	6	2	指導教員ゼミ必修
466021	468021	環境人間学特別研究	中寫 一憲	6	2	指導教員ゼミ必修
466022	468022	環境人間学特別研究	山端 直人	6	2	指導教員ゼミ必修
466023	468023	環境人間学特別研究	栗山 武夫	6	2	指導教員ゼミ必修
466024	468024	環境人間学特別研究	吉田 優	6	2	指導教員ゼミ必修
466025	468025	環境人間学特別研究	宇野 康司	6	2	指導教員ゼミ必修
466026	468026	環境人間学特別研究	源城 かほり	6	2	指導教員ゼミ必修

【博士前期課程及び博士後期課程共通事項】

(1) 修了時期について

①修了月について

兵庫県立大学大学院では、9月または3月が修了月となっています。本研究科においても、9月修了または3月修了に向けての修了審査スケジュールを定め、手続きを進めることとしています。

②早期修了について

本研究科では、特に優れた研究業績を挙げた者として研究科長が適当と認めた場合は、在学期間を短縮して修了することを認めています。

具体的には、研究科長へ「早期修了特例審査」の願いを出し、特例資格の認定を受けることとなっています。早期修了を希望する学生は、指導教員とよく話し合ってください。

ただし、申請に必要な条件があり、審査等に時間がかかるため、少なくとも修了希望月の6か月以上前までに申請書類一式を提出する必要があります。必ず早めに指導教員に相談してください。

(2) 長期履修について

長期履修は、下記の期間であれば、新規の申請ができます。また、長期履修の許可を受けた学生が、許可された期間を変更したい場合には、長期履修期間を変更することができます。

長期履修の新規申請及び期間の変更を希望する学生は、指導教員とよく話し合い、長期履修規程(59ページ参照)に基づき、必ず期間内に手続きしてください。

※修業年限又は標準修業年限における最終年次の学生は、長期履修の新規申請ができません。

※短縮の申請をする場合は、必ず単位修得、論文完成の目途が立ち、指導教員に短縮修了が確実である旨を確認し、事前に学務課に相談のうえ、期限内に申請すること。

※長期履修期間の変更は1回限りです。短縮・延長した場合、再度元の許可期間に戻すことは出来ませんのでご注意ください。

【長期履修を申請・期間の変更ができる期間】

申請内容	4月入学者 (短縮は3月修了予定者)	10月入学者 (短縮は9月修了予定者)
新規の申請	1月1日から1月末日まで	7月1日から7月末日まで
延長の申請	延長となる年度の前年度の11月1日から11月末日まで	延長となる年度の前年度の5月1日から5月末日まで
短縮の申請	短縮により修了することとなる年度の11月1日から11月末日まで	短縮により修了することとなる年度の5月1日から5月末日まで

※最終日が休日の場合、その翌日。

※確認に時間がかかることがあるので、上記の提出期限にかかわらず、必ず早めに学務課に申し出て、新規の申請及び変更が可能かを確認のうえ、申請書を受け取ること。

(3) 論文発表会・公聴会等について

修士論文中間発表会、修士論文発表会、博士論文中間発表会は、年に2回、それぞれ7月末頃及び1月末頃に開催されます。(開催日時は毎年変更されます。)

博士論文審査会及び公聴会は、年2回、7月中旬及び1月中旬頃に開催されます。(開催日時は毎年変更。)
論文審査にかかる関係書類の提出スケジュールや発表会等の開催日程、及び実施要領等は、メールにて、全研究科教員及び学生向けに4月中旬及び10月初旬頃を目途に送付予定です。

詳細は、指導教員にご確認ください。

(4) 休学について

やむを得ない事情により休学する場合は、指導教員及び学務課に速やかに相談してください。

休学する場合、3か月以上連続した期間で休学する必要があります。

また、一度における休学の期間は、1年間を超えることができません。

(ただし、特別な事情がある場合のみ、審査のうえ更に1年以内に限って休学を延長できる場合があります。)

休学可能期間は、通算して博士前期課程は2年、後期課程は3年であり、その期間を超えることは出来ません。

休学については、研究科長の許可を得る必要があるため、休学希望月の、少なくとも1か月以上前までに指導教員等の意見が記載された申請書を含む全ての書類を不備の無い状態に整えたうえで申請する必要があります。必ず十分に時間的な余裕を持って準備・申請してください。

(書類に不備がある場合は、修正に時間がかかり、申請期限に間に合わない場合があるため、期限に関わらず極力早めに学務課に相談してください。)

休学開始予定月によっては、半期分の授業料を一旦先に納付する必要がありますので、ご注意ください。

(休学期間中の授業料は、後日返金します。)

※詳細については、学生便覧の該当部分をよく読むとともに、不明な点があれば学務課にご相談ください。

(5) 退学について

やむを得ない事情により退学する場合は、指導教員及び学務課に速やかに相談してください。

退学については、研究科長の許可を得る必要があるため、退学希望月の、少なくとも1か月以上前までに指導教員等の意見が記載された申請書を含む全ての書類を不備の無い状態に整えたうえで申請する必要があります。

書類不備等の修正や差替え等で期限に間に合わなくなる場合もありますので、十分に時間的な余裕を持って準備し、必ず早めにご相談ください。

退学希望日によっては、半期分の授業料を一旦先に納付する必要がありますので、ご注意願います。

(退学後に差額は返金します。)

※詳細については、学生便覧の該当部分をよく読んで条件その他を確認するとともに、不明な点があれば学務課にご相談ください。

第2章 授業・休講・試験及び成績に関すること

(1) 授業について

① 教室

時間割には、その講義が行われる教室を指定しています。

履修者が少ない場合等の理由により、教員の研究室等に変更されることもあります。

メールを定期的にチェックしてください。

(教員からの連絡方法は、担当、指導教員によって違うため、それぞれの指示に従ってください。)

② 講義時間

1 時 限	9:00～10:30
2 時 限	10:40～12:10
3 時 限	13:00～14:30
4 時 限	14:40～16:10
5 時 限	16:20～17:50
6 時 限	18:00～19:30

※履修登録修正期間終了後に、担当教員及び学生間の調整により、講義日時・時間が変更される場合がありますので注意してください。

(2) 休講について

休講・補講の連絡は、原則として講義の担当教員がユニバーサルパスポートで行います。

休講の連絡がなく、授業開始時間を30分経過した後も担当教員が来ない場合は、学務課に問い合わせ指示を受けてください。

このほか、交通途絶・気象警報発令の場合は、各自で情報を収集し、学生便覧第2章を参照し、対応してください。

(3) 試験及び成績について

① 試験について

研究科の授業科目の試験日は、メールや掲示等による連絡は行いませんので、担当教員の指示に従ってください。

論文発表や中間発表については、学務課からメールにより詳細を連絡しますので、その内容に従ってください。

② 成績公開・単位認定について

成績は、各学期末にユニバーサルパスポートに掲示しますので、各自確認してください。

(掲示時期は、メールにてお知らせします。)

単位の認定時期については、博士前期課程は科目の開講学期(前期・後期)の期末に、博士後期課程については次のとおりとなっています。

[博士後期課程学生の単位認定時期について]

- ・環境人間学特別演習4単位は、基礎的指導と捉える。原則は2年次以降の学期末に認定する。ただし、指導教員の判断に応じて1年次学期末で認定されることもある。
- ・環境人間学特別研究6単位は、論文指導と捉える。原則は修了最終学年末に認定する。ただし、指導教員の判断に応じて最終学年より前の年次学期末に認定されることもある。

(4) 成績に対する確認及び不服申立てに関する要綱

(趣旨)

第1条 本要綱は、本学の学士課程、修士課程、博士課程及び専門職学位課程に在籍する学生(以下「学生」という。)が履修する全ての科目について、その成績に対する確認及び不服申立てに関し必要な事項を定めるものとする。

(周知)

第2条 各学部及び研究科(以下「学部等」という。)は、履修の手引及び講義要目等において、本要綱を学生に周知するものとする。

(成績に対する確認)

第3条 学生は、成績評価の理由など確認すべき事項がある場合は、当該科目を担当する教員(以下「担当教員」という。)に対し、次の方法により確認することができるものとする。

(1) 全学共通科目、専門基礎科目(専門関連科目)、専門教育科目、教職課程科目及び大学院で履修する科目(以下「大学院科目」という。)

① 担当教員に直接確認する。

② 所属学部等の学務所管課(以下「所管課」という。)を通じて、担当教員に別に定める「成績に対する確認書」(以下「確認書」という。)を提出し、確認する。

(2) 全学共通科目、専門基礎科目(専門関連科目)及び専門教育科目に位置付けられない副専攻履修者のみが履修可能な科目(以下「副専攻科目」という。)

副専攻運営部門を通じて、担当教員に確認書を提出し、確認する。

2 前項第1号①により学生から確認依頼を受けた担当教員は、直接、当該学生に確認結果を回答するものとする。

3 第1項1号②及び第1項第2号により学生から所管課又は副専攻運営部門を通じて確認書を受けた担当教員は、確認書により、所管課又は副専攻運営部門を通じて、当該学生に確認結果を回答するものとする。

4 前項の回答については、担当教員の判断により、直接、当該学生に確認結果を回答することができるものとする。この場合において、担当教員は、回答内容及び回答日を所管課又は副専攻運営部門に通知しなければならない。

(確認依頼受付期間)

第4条 前条第1項による確認依頼の受付期間は、成績公開日から原則として7日以内(日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に

規定する休日及び 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日を除く。以下次項、第 5 条第 1 項、第 7 条及び第 9 条において同じ。)とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、当該学期に学部等の卒業又は修了判定対象者であり、確認を行おうとする成績が学部等の卒業又は修了判定に関わる場合及び 3 月 1 日以降に開示された成績に対する確認の場合の受付期間は、成績公開日から原則として 3 日以内とする。

(確認に伴う措置)

第 5 条 第 3 条第 1 項による確認依頼を受けた担当教員は、学生からの確認依頼があった日又は所管課を通じて確認書を受理した日から原則として 7 日以内に確認結果を回答するものとする。ただし、前条第 2 項に規定する場合の確認依頼にあつては、原則として 3 日以内に確認結果を回答するものとする。

- 2 前項の回答に当たっては、担当教員は、確認結果に基づき、成績について変更する措置を採ることができる。この場合において、担当教員は、当該措置の内容及びその理由を記録するとともに、所管課又は副専攻運営部門に報告しなければならない。

(不服申立て)

第 6 条 学生は、第 3 条により成績に対する確認を行った結果、次の各号に掲げる事案の解決が得られなかった場合に限り、不服申立てができるものとする。

- (1) 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われる事案
- (2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から明らかに逸脱した評価であると思われる事案
- (3) 担当教員から十分な説明等の対応がなかった事案

2 学生は、前項の不服申立てを行う場合は、次の各号のとおり「成績に対する不服申立書」(以下「不服申立書」という。)を提出するものとする。

- (1) 専門基礎科目(専門関連科目)、専門教育科目及び大学院科目
所管課を通じて、所属する学部等の長(以下「部局長」という。)に対し提出
- (2) 全学共通科目及び教職課程科目
所管課を通じて、高等教育推進機構長に対し提出
- (3) 副専攻科目
副専攻運営部門を通じて、履修する副専攻運営部門の長(以下「副専攻運営部門長」という。)に対し提出

(不服申立て受付期間)

第 7 条 前条による不服申立ての受付期間は、当該学生が第 3 条による回答を受理した日から原則として 3 日以内とする。

(審査)

第8条 部局長、高等教育推進機構長及び副専攻運営部門長(以下「部局長等」という。)は、第6条第2項よる不服申立書を受理した場合は、速やかに当該不服申立ての審査を行うものとする。ただし、不服申立書が第6条第1項に該当しないときは、不服申立てを却下することができるものとする。この場合において、所管課及び副専攻運営部門を通じて、速やかに当該学生に「成績に対する不服申立却下通知書」(以下「却下通知書」という。)により通知するものとする。

2 前項の審査方法は、部局長等が別に定めるものとする。

(審査結果の報告及び対応)

第9条 部局長等は、前条の審査結果について、当該学生及び担当教員に対し、前条第1項の不服申立書を受理した日から14日以内に、所管課又は副専攻運営部門を通じて、「成績に対する不服申立回答書」(以下「不服申立回答書」という。)により、文書で通知する。この場合において、不服申立てを容認する結果であった場合は、担当教員に成績を変更する措置を行わせるものとする。

2 前項の通知は、当該学生又は当該担当教員が希望した場合は、電子媒体によって通知することができるものとする。

(再審の不可)

第10条 学生は、前条第1項の不服申立回答書及び第8条第1項の却下通知書に該当する科目については、再度の不服申立てができないものとする。

(雑則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和4年11月1日から施行する。

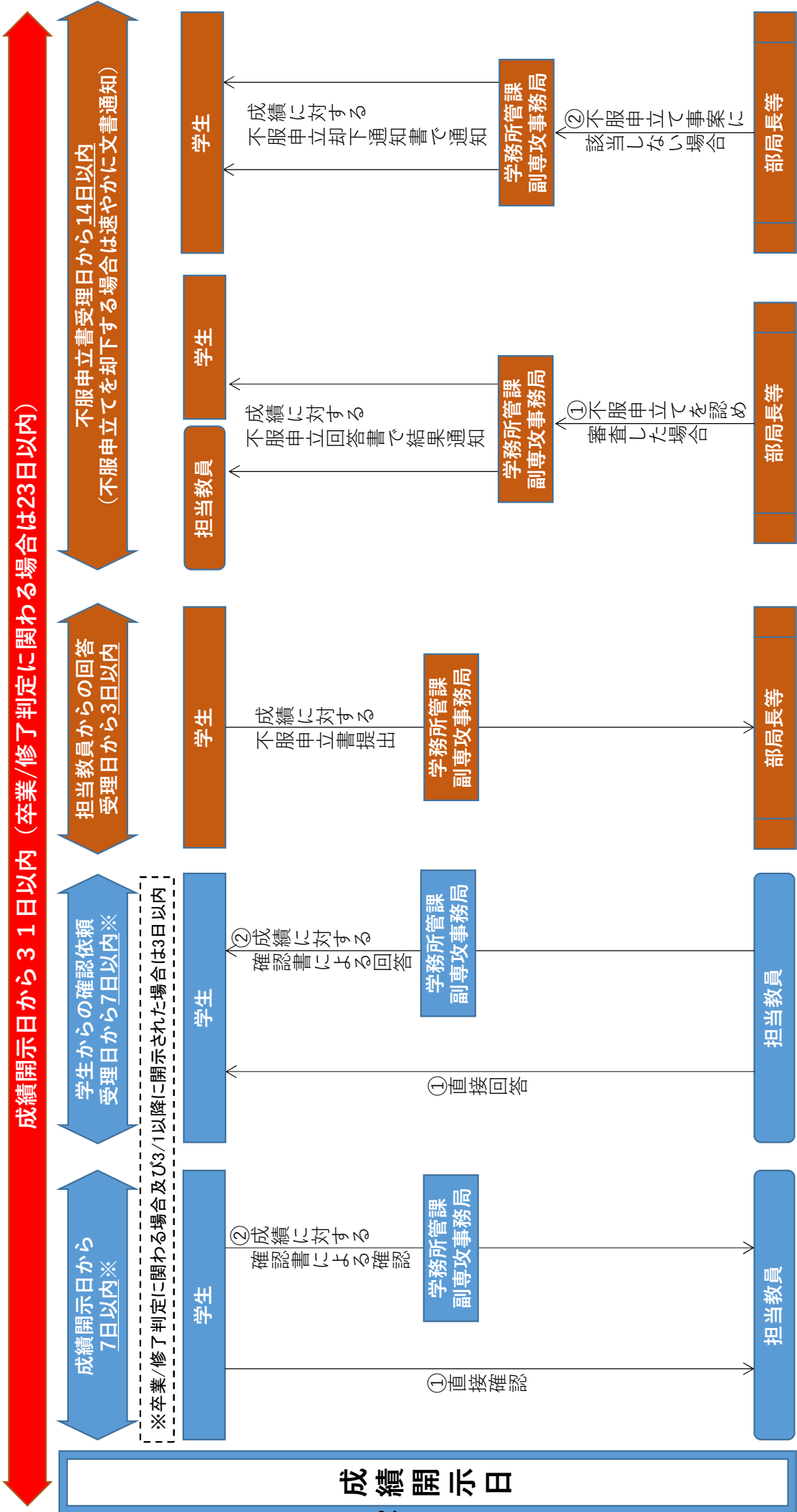
附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

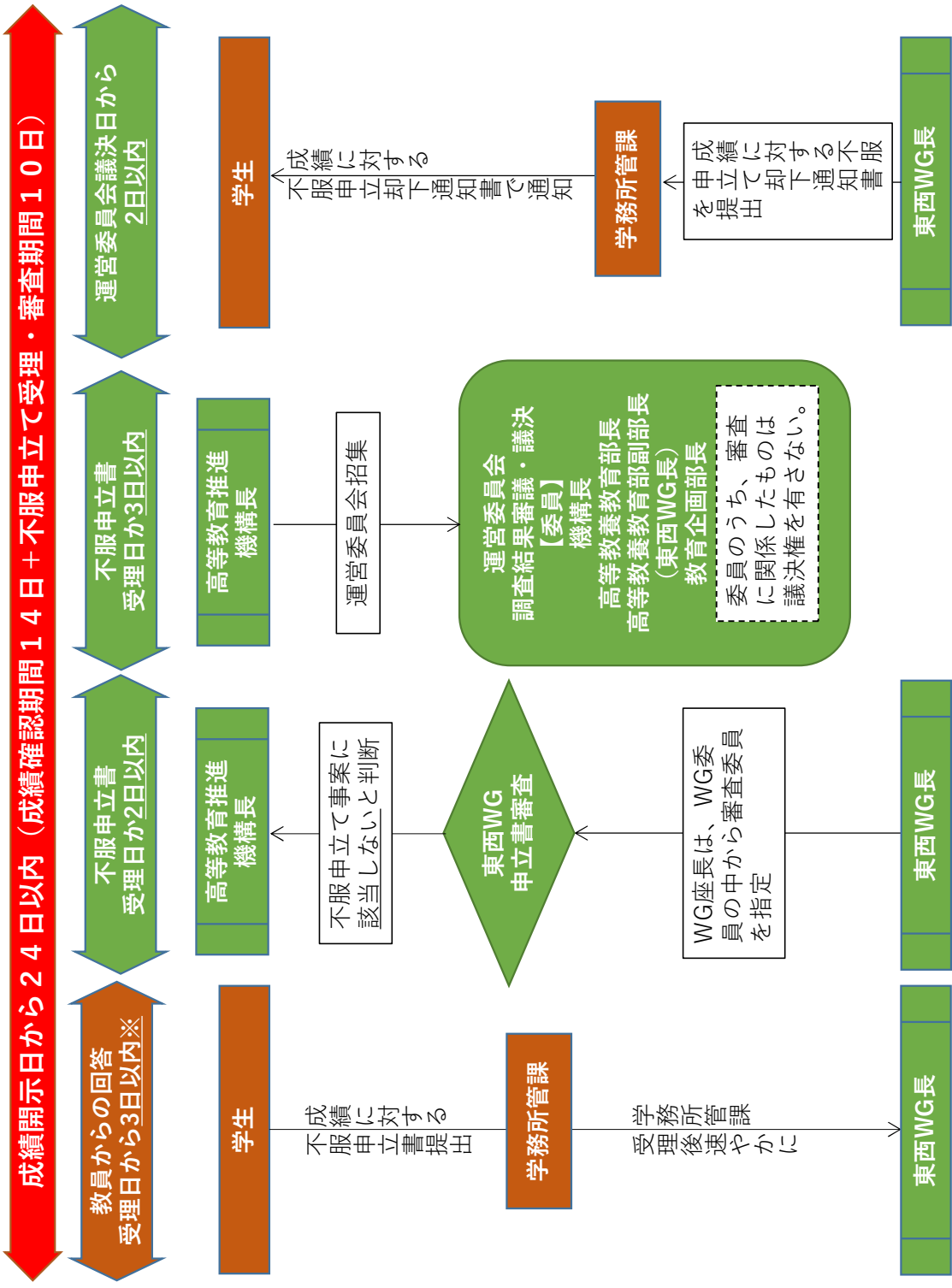
附 則

この要綱は、令和7年12月19日から施行する。

成績に対する確認及び不服申立ての流れ



成績に対する確認及び不服申立てにおける全学教育科目の審査の流れ【却下の場合】



学生と担当教員による確認行為終了

(5) 兵庫県立大学試験の不正行為に対する処置規程

(目的)

第1条 この規程は、試験の不正行為が行われた場合について、必要な事項を定めるものとする。

(不正行為の内容)

第2条 試験の不正行為とは、次に掲げる行為をいう。

- (1) 使用を許されない書籍、ノート、紙片、電子機器を用いること。
- (2) 他人の答案をのぞき見ることその他社会通念上受験者として正当でないと認められる行為をすること。

(不正行為の確認・報告)

第3条 試験監督者は、不正行為を確認した場合、直ちに当該行為を実行し又はこれに関与したと疑われる者(以下「対象学生」という。)に対し、その旨を指摘して受験を停止させるとともに、その氏名、所属、連絡先等必要な事項を記録し、答案用紙、使用を許されない書籍その他不正行為に直接関連して使用されたとみられる物品等を預かり、対象学生が所属する学部又は研究科の長(以下「学生所属学部長等」という。)に報告しなければならない。この場合において、試験監督者と当該試験科目を開講している教員(以下「開講教員」という。)が異なる場合であるときは、あわせて開講教員に報告しなければならない。

(学生所属学部長等の責務)

第4条 学生所属学部長等は、試験監督者から前条の不正行為の報告を受けたときは、正確な事実を確認するため、遅滞なく対象学生、試験監督者その他の関係者から事情聴取を行い、当該事情聴取の結果認定された事実を記載した事情報告書を作成しなければならない。この場合において、学生所属学部長等が、正確な事実の確認のため必要があると認めるときは、当該不正行為に係る試験科目を開講している学部若しくは研究科の長又は関係する高等教育推進機構高等教養教育部長にその調査を依頼することができる。

- 2 前項の規定により、正確な事実の確認のため調査の依頼を受けた者は、当該依頼に応じるものとする。
- 3 学生所属学部長等は、学生所属学部長等の教授会又はこれに相当する委員会(以下「学生所属学部教授会等」という。)に第1項に規定する事情報告書に基づき報告しなければならない。この場合において、開講教員が学生所属学部教授会等に属さない教員であるときは、その教員が所属する学部又は研究科の長及び開講教員に当該事情報告書の写しを送付しなければならない。

(処置の原則)

第5条 不正行為の事実が、学生所属学部教授会等において確認された場合は、その者の当該学期の全科目及び通年の全科目の単位を無効とする。この場合において、学生所属学部教授会等での審議の結果、必要と認められた場合は、その氏名を公表するものとする。

- 2 前項に規定するもののほか、特に悪質な不正行為に対しては、兵庫県立大学学則(平成25年法人規程第75号)第35条又は兵庫県立大学大学院学則(平成25年法人規程第76号)第33条の規定に基づき懲戒をするものとする。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月24日改正)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(令和3年3月31日改正)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和6年3月27日改正)

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

第3章 指導教員別研究指導の概要

(1) 博士前期課程(研究指導のねらい)

I 人間環境部門

(有満秀幸)

食品上の微生物学的な有害因子の作用や産生機序を調べるとともに、それらの抗体を作製し、検出方法、殺菌や除去方法の開発に繋げる研究を行っていく。材料としては、実際の野外株の他、低産生で精製が困難なものについては、大腸菌を用いた遺伝子組換え蛋白として作製した物を精製して解析に利用する。実験を通じて遺伝子(PCRや遺伝子クローニング)、蛋白や糖脂質(種々のクロマトグラフィーによる精製、ウェスタンブロットやTLCオーバーレイアッセイなど)の分子レベルでの解析から、培養細胞や動物個体レベルの反応までの解析手法を習得し、目的に応じて選択、実践する力を培う。さらにセミナーや学会発表、論文作成を通じて、論理的表現力を養う。

(伊藤美紀子)

医療の現場において患者さんに必要とされる栄養学上の問題点を明らかにすると共に、これらの事象に対して、分子レベルを含む基礎的研究やヒト試験などの研究から、メカニズム解明ならびにエビデンスを明らかにすることで、患者さんのQOLや生命予後の改善など現場で役立つ応用研究への発展を目指す。研究活動、学会やセミナーにおける研究発表や議論を通じて、様々な実験技術の習得に加え、研究に対する思考方法、実行に移すプロセス、結果の解析方法、自己表現能力、論文作成能力など専門的スキルを身につける。

(乾美紀)

多文化化する日本社会において、外国人と日本人が共生するための方策を検討することを研究の目的とする。このことについて、特に教育現場を主な焦点とし、外国人の子どもたちがどのような教育課題を抱え、それをどのように解決しているかについて、文献研究やフィールド調査をもとに明らかにしていきたい。実際、地域の教育現場(小学校・学習補習教室)を訪れて子どもたちと交流の機会を持つなど、実践的な研究を試みることを目標とする。

(井上靖子)

心の悩みやトラウマを抱えた人々を支え、心の成長や治療へと導かれる臨床実践の在り方を考究する。心の諸問題に対する理解を深め、私という主体が、イメージ、身体、想像力を介して、深層の心とどのように対話や対決し、内界や外界との繋がりを回復できるのか、理論と実践の両面から検討を行う。教育機関、病院や保健所、児童養護施設、児童相談所、NPO法人、心理相談室等において実践的フィールドワークや調査(心理査定法を含む)を実施し、臨床実践研究や理論研究へと高めていく。

(内田勇人)

生涯にわたる健康の維持・増進を目指した人間環境のあり方について明らかにするため、教育機関、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、保健所、研究機関等において、特別フィールド研究を実施する。具体的な研究事例として「子どもの身体活動、生活習慣と肥満」「子どものメンタルヘルス」「子どもと高齢者の世代間交流」「高齢者のフレイル」「地域在住高齢者・施設入所高齢者の心身の機能に関する研究」「社会と健康との関係」等の課題についてフィールド調査を行い、問題の解決を図っていく。

指導教員は、上記の関係者の協力を得つつ、大学院生に対して研究全体に関する指導を行う。

(尾崎公子)

学校づくりと地域づくりをリンクさせたコミュニティ創出のための教育政策論を考究する。

少子化が進み、子どもの育つ環境が大きく変わろうとしている。いくつかの地域を研究対象として、そうした環境の変化を実証的に捉え、子どもたちの教育環境を充実させるとともに、地域社会に新たな活力を生み出す理論開発と実践に取り組む。

(加藤陽二)

食や生体内に含まれる多様な物質を化学・生化学的手法で検出・定量し、その動態や挙動を把握することで、健康状態(感染症、炎症、認知症、老化など)や食品機能性を明らかにし、食による健康維持・増進を目指す。対象物質の特性に応じて最適な測定法を選択し、免疫学的手法(モノクローナル抗体、ELISA、Western Blotting)、固相抽出、HPLC、LC/MS/MSなどの化学的分析技術を習得する。これら多面的なアプローチを通して、生命現象(疾病や老化を含む)と食の関連を科学的に解明する能力を養う。

(坂本薫)

人は、食品を調理して食べる動物である。食品に手を加えて食べるところまでを対象として研究を進める。身近な存在である砂糖と米飯を大きな柱として、調理・食品加工における味・テクスチャー向上に関する研究、または給食を切り口とした食生活にかかわる研究を行う。研究において真理を追求することにより、研究におけるスキルのみならず、計画遂行能力や論理的思考力を養う。

(高橋綾子)

人間を取り巻く環境と文学を繋ぐエコクリティシズム(環境文学批評)及び広く文学批評理論を理解し、アメリカ文学作品、特にアメリカ現代詩及び災害詩を対象としながら、文献調査を中心に研究を行う。文献読解能力を向上させながら、先行研究から研究テーマを見出し、構成を練り上げ、新しい視野を切り開く研究を支援する。本ゼミナールは、レイチェル・カーソンに代表される環境文学、日本の災害詩など、環境問題と文学の双方に興味がある人だけでなく、アメリカ文学、文化、歴史、在米日系人、日米の文化交流に関心がある学生の研究目的に合致するものである。国内外の学会で発表できるようなアカデミックスキルに関する指導も行う。

(竹内和雄)

少子化、共働き家庭の増加、インターネットの普及など、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化している。学校に求められるものも時代の流れに応じて確実に様変わりしてきている。そのような時代に対応した生徒指導を明らかにするために、学校現場、教育委員会、研究機関、行政機関等との協働を軸において、実践的な学びを展開する。不登校、暴力行為など教育課題を入口にするが、近年子どもたちへの影響が大きい、インターネット問題についても深く扱うつもりである。

(鄭成)

中国の驚異的な経済成長を可能にした要因は何か。その答えは、現代中国に固有の政治・経済体制に求められる。本演習では、この政治・経済体制がいかなる歴史的過程を経て形成され、いかなる特質を備えているのかを、歴史学的手法を用いて究明する。国家と社会の相互関係に着目し、1949年の建国以降の歩みをたどりながら、現代中国の再認識を目指す。多様かつ複雑な歴史事象の相互連関を探究する過程を通じて、課題発見・解決能力を涵養するとともに、研究方法論と論理的な説明能力の修得を図る。

(寺西雅之)

このゼミでは、「英語」に関する事柄を幅広く扱う。その中でも中心となる分野は、「英語文体論」で、文学作品に用いられる言葉(つまり文体)に焦点を当て、言語学的・文体的特徴からその作品の解釈・批評を導く手法を学ぶ。扱うテキストは、必ずしも文学作品には限定せず、例えば、新聞や雑誌、あるいはポピュラー・ミュージックやユーモアの英語等、可能な限り学生の興味とニーズを優先する。さらに、文体論を活用した国内外の語学教育、あるいは英語圏(特にイギリス)を対象とした(比較)文化論なども研究対象となりうる。本格的な英語力を身につけたい人、文学作品に関心がある人、英語教育に関心がある人、そして、言葉を使う仕事に興味のある人のニーズを満たすのがこのゼミの目的である。また、修士論文やプレゼンテーションを英語で行うための指導も行う。

(中出麻紀子)

戦後日本人の栄養摂取状況や疾病構造は大きく変化し、平均寿命が延びる一方で生活習慣病に罹患する人は増加しており、いかに健康寿命を延ばすかということに重点が置かれるようになってきている。研究では人を対象に健康増進・疾病予防と関連する食事、食行動、食環境等についての調査を行い、それらの関連について明らかにする。また、研究を通して調査方法、データ解析方法、論理的思考等を身につけることを目標とする。

(永井成美)

A, B いずれかの研究を選択して行い、研究を通じて、論理的思考、問題解決能力と表現力、論文作成能力等の修得を目指す。
A: 栄養生理学分野: 疾病予防や健康の維持・増進に資する食べ方や食べる時間(回数・タイミング)について、生体信号解析(心電図、胃電図、呼気ガス等)や血液生化学・心理指標等を用いる手法により研究を実施し効果を評価する。
B: 栄養教育学分野: 行動変容の理論やモデルに基づき、健康的な食環境づくりやライフスタイルを目指す栄養教育プログラムを考案し、教育やスポーツの現場、地域(開発途上国を含む)、職域をフィールドとした介入研究を行い、効果を評価する。

(藤原敬介)

言語学の研究をおこないます。具体的には、ことばの「音」(音声学)と「かたち」(形態統語論)と「意味」(意味論)のみならず、ことばを使用する人々や、ことばが使用される社会についても射程をひろげます。そして、ことばはどのように変化するか、ことばはなぜ変化するかという問題を、かんがえていきます。私自身の専門は南アジア・東南アジア地域のチベット・ビルマ諸語およびインド・アーリア諸語、そしてエスペラント語などです。ただし指導対象の言語は限定しません。言語学一般の観点から、研究指導をおこないます。

(村上明)

健康維持や疾病予防のために野菜や果物の摂取が有効であることは論を待たない。その一方で近年、サプリメントなどに代表されるように、濃縮した形態で機能性成分を摂取しても効果が少ない、あるいは副作用が生じるケースも数多く報告されている。その原因として、機能性成分の作用機構に関する知見の不足、あるいは表層的な理解に留まっていることが指摘できる。この問題を解決するためには、機能性成分の作用機構を分子レベルで捉え、かつ「組織や細胞内で最初起こるイベント」を捕らえる必要がある。さらに、植物に特有な化合物群がなぜ動物であるヒトに対して好ましい機能性を示すのか、といった本質的な疑問に対する解答も模索する。この興味ある謎を解くため、「ホルメシス(homeostasis, 適度なストレスが生体防御能を活性化させる現象)」に着目し、先駆的な研究を展開する。実験材料としては主に培養細胞や線虫を用い、目的に応じて、生化学、分子生物学、有機化学、分析化学など幅広い手法を適宜使い分ける。

(吉田優)

様々な病態において、病気に関連する細胞・組織内において酵素タンパク質による代謝の変動が起こる。そして、疾患特有の代謝物のパターン(メタボロームプロファイル)へと変化し、それが血液・尿中にも反映することが予想される。これまでにさまざまな質量分析計を用いて、メタボロミクス(代謝物)の測定系を開発してきた。そこで、さまざまな疾患において代謝物をプロファイリングすることにより、疾患特異的な代謝物の変動を明らかにし、栄養補助療法の有効性を評価する。研究フィールドとしては、協力関係にある播磨地域の医療機関を用いる。

(吉村美紀)

食品のテクスチャー(食感)や機能改善を図る食品プロセスの研究・開発を進める。流動特性、粘弾性、破断強度などの物性と筋電位などの咀嚼性、おいしさに代表される嗜好性などから、人間環境の改善に寄与する食品の基礎研究と応用研究を進める。また、生涯を通して豊かな食生活についての研究を進めるため、研究機関、高齢者施設などとの協力のもとに調査を行う。

(金子 一郎)

栄養素の必要量は各ライフステージや生活環境によって異なる。生物の基本原理解であるセントラルドグマを理解し、生理学的な観点から各ライフステージや生活環境における栄養素の消化吸収、代謝、排泄の分子メカニズムを明らかにしていく。食事による健康維持・増進を実現するため、科学的根拠を示した栄養管理・栄養指導ができることを目標とする。また、実験デザインの設定、結果の解釈、学会発表、論文抄読等を通じて主体的な問題解決能力を身につける。

(野村 健)

運動や身体活動によって生じる機械的・物理的的刺激(メカニカルストレス)を細胞がどのように感知するのかを、分子レベルで解明することを目指して研究を進めている。特に、細胞膜に力加わる張力を機械受容チャネルがどのように感知し、構造変化を経てチャネルを開口へと導くのかという、生命科学の根幹に関わる課題に取り組んでいる。研究にはモデル生物である微生物を用い、機械受容チャネルの開閉機構を多角的に解析している。研究活動を通じて電気生理学(パッチクランプ法)、生化学、分子生物学などの基盤技術を体系的に習得するとともに、データ解析、学会での発表、論文執筆を含む研究遂行能力を身につける。

(森 寿仁)

同じ運動をするのであればより効果の高い方法を、同じ効果であればより楽な運動方法を選択したいと望むのはごく自然なことです。これは、競技スポーツに限らず、ダイエットをはじめとする健康増進でも同じことが言えます。いつ、どのようなトレーニングを行うことで、より運動パフォーマンスが高まるのか？より健康になれるのか？そのような問いを解決するために、運動生理学・環境生理学的手法をもとに研究を行っています。

研究室で扱う対象は子ども～アスリート～一般成人～高齢者まで幅広く、それぞれのライフステージに合った運動方法を明らかにするべく、フィールドや実験室内で様々な測定を行います。そのためには、身体に関する幅広い知識を身につける必要があるとともに、得られたデータを解釈し、わかりやすく表現する必要があります。指導教員のサポートのもと、それらの能力を身につけることを目指します。

II 社会環境部門

(井関 崇博)

行政が社会をけん引する行政主導型社会から、多様な立場の主体が参加し、共通目標を形成しながら協力し合って問題を解決していく参加協働型社会への移行が求められている。この問題意識にたつてこれからの制度や事業、市民活動、活動連携、人々の意識、規範等について探究する。このために具体的な素材として環境や都市、福祉等のテーマを取り上げてその現場に踏み込むとともに、社会学的な専門知識や考え方を習得し、参加協働型社会の担い手としての構想力と実践力を磨いていく。

(宇高 雄志)

既存の住宅ストックの活用や再生について、(1)建造物としての再生手法の技術的検討、(2)地域社会や住宅ストックの再生と活性化をめざす制度的検討の2本を柱に活動を行う。活動では、国際機関、各省庁、自治体などが進める各種プロジェクトに参加する。また他大学の研究室との協同プロジェクトにも参加する。履修を通じて、実践的な制度および技術的なプロジェクト運用能力をつけ、また多様なアクター間の調整交渉能力を持つことを目標とする。

(内平 隆之)

暮らしや社会の変化が、生活空間・地域計画・まちづくりにおよぼす影響に着目し、地域プロジェクトの学際的な実践を通じて、居住デザインのあり方を実学的に探究する。具体的には、(1)人間が生活し、働くのに適した地域居住のあり方、(2)心身の健康を支える空間的処方のあり方、(3)環境資産の次世代への受け渡し方、(4)地域課題の解決に資する状況のリフレーム方法などをテーマに調査研究する。研究指導は、作成したプロジェクトノートに基づき、地域の居住可能性を豊かにするデザインについて対話を通じて探索しながら進める。

(宇野 康司)

主に2億年前以降の、日本列島を含む東アジア地域の地質学的歴史について、磁鉄鉱や赤鉄鉱に記録される自然残留磁化情報に基づいて読み取る研究を行う。特に、日本列島の地質学的な成り立ちは、中生代以降の東アジアにおける大規模テクトニクスに密接に関連しており、非常に重要な課題である。研究を通して、磁性粒子が過去の地球環境を読み取る重要な記憶媒体であることを理解する。

(太田 尚孝)

人口減少に代表されるように、わが国の都市・地域は一大転換期を迎えている。既存の計画制度や経験だけではもはや課題解決は困難となり、総合的知識とデータに基づく創意工夫や他主体との協働が必要不可欠である。このような時代認識を前提とし、研究指導では、国内外の先進的取り組みへの批判的理解や、地理情報システムを活用したデータの可視化、フィールドでの実践的試み等を通して、既存の社会システムや計画制度に関する複眼的な調査研究とプランニングマインドに基づく建設的提案を重視する。

(大橋 瑞江)

森林を構成する生物集団と環境との相互作用の解明と、環境林としての森林育成技術の開発に関する研究を行う。特に測定手法が未発達なため研究が遅れている森林土壌圏を中心に実験や観測を行う。北欧、日本、東南アジアを対象に、自然林や人工林など多様な森林生態系を研究対象とし、土壌生物・樹木根系が森林の物質循環をもたらす役割や土壌環境の改変がこれらの生物現象にもたらす影響を解明する。また森林施業や土地開発などの人間活動が森林生態系の機能や構造に及ぼす影響を調査し、科学的知見に基づいた森林の管理法について議論する。

(糟屋美千子)

現代社会は様々な深刻な問題に直面しているが、その背景には社会の持つ考え方があり、その考え方を反映すると同時に形成しているものの一つがディスコース(社会生活において他の要素と相互に密接に関連する重要な要素としての言語)である。現代社会の問題を解決する方法を探求し、よりよい社会を作ること貢献することを目指して、言語学と社会学に立脚した理論を基盤とした分析によって、ディスコースと社会的プロセスの関係を明らかにすることを試みる。

(木村玲歌)

心理学・行動科学・社会調査法を理論・技術的背景とした実証科学手法による災害・防災研究について指導する。具体例としては以下のようなものが挙げられる。災害・防災研究は学際分野であり、研究遂行にあたっては様々な分野の理論・知見が必要となるため、その習得についてもあわせて指導・支援する。

- 1) 災害などの非常事態下における人間心理・行動・社会実態を解明する
- 2) 災害時における適切な対応を実現するための人材育成手法について教育・研修教材およびプログラム開発を行う
- 3) 効果的な被災者・被災地支援を実現するための支援システム的设计・開発・評価・検証を行う

(源城 かほり)

カーボニュートラル達成に向けて、各種建物におけるエネルギー消費のより一層の削減と同時に、在室者の健康性や快適性の保持と知的生産性の向上を図ることが求められている。そこで、各種建物における室内物理環境等の実測ならびに健康性・快適性・知的生産性の評価を通じて、乳幼児から高齢者までのさまざまな人間を取り巻く居住環境を巡る諸問題の解決に向けて、各種建物の室内環境データのエビデンスを蓄積し、既往研究による知見との比較や統計分析を通して、住宅性能の向上や建築設備による解決方法だけでなく、自然エネルギー利用やライフスタイルの転換による解決方法等について探求する。

(杉山 武志)

新自由主義の浸透に伴う個人主義が顕著になるなか、他方でローカルなコミュニティの世界が再発見されつつある。しかし、地域コミュニティという考え方への期待が高まれば高まるほど、概念が「亡羊」なものとなってきていることも事実であり、地域づくりや政策立案の現場で混乱を招いている現実がある。研究指導では、コミュニティが再発見されるコンテキストを地域概念と向き合い、続けてきた人文地理学から明らかにし、地域コミュニティをめぐる学術界や実社会における混乱の解消に向けた確かな知見を獲得する探究を試みたい。

(竹端 寛)

福祉と社会の関係性を問い直すことを、研究目的とする。福祉現場の現実的な課題を題材にして、具体的に何かどのように問題となっているのか、その悪循環はどのように構成されているのか等、問いを掘り下げ、モヤモヤを言語化する。明確化された課題に関して、福祉社会学や社会福祉学、ソーシャルワーク等の諸理論を用いて分析を深めると共に、ダイアログや協働型の学びを通じて、実現可能な解決策を模索していきたい。

(中川 肇)

1995年兵庫県南部地震以降に多発した内陸型・海溝型地震の被害を踏まえ、建築構造物の耐震安全性向上を目的として研究指導を行う。まず、過去の地震被害に関する文献等の調査を通じて被害要因を分析し、被害発生メカニズムを整理する。次に、免震・制震構造の適用効果を解析的に検討し、地震動特性に応じた構造制御技術の有効性を評価する。さらに、介護施設付き高齢者住宅および緩和ケア病院への免震構造導入の意義と課題を検討し、社会的に重要な施設の地震安全性向上に資する知見を導く。

(中嶋一憲)

私たちの社会を取り巻く環境問題に対して、環境保全と経済成長を両立するための政策の在り方やその評価、環境の経済的価値について研究を行う。また、経済学を通じて環境政策の評価や環境の価値を考えるため、経済理論を基礎とした定量的な評価手法を用いることによって、より実践的な応用分析を行う。

(増原直樹)

ブラネタリー・ノワンダリーに象徴される気候変動、資源制約や生物多様性損失を背景として、主に地方自治体における環境政策の形成プロセスや再生可能エネルギー普及状況とそれらに伴う課題を分析する研究手法の習得を目指す。さらに、研究対象地やテーマに応じ、定量的・定性的手法を組み合わせることで導く調査結果を基に、実際の自治体・企業・NPO・市民が具体的に実践すべき施策や対策を明らかにし、提案できる能力を身につける。

(水上 優)

思索と制作は建築設計行為の両輪である。近代における住宅建築の構成原理を、建築家の思索とのかかわり合いのうちで研究する。具体的には、草案(スケッチ)群に基づいて住宅作品の生成過程を明らかにしつつ、その変容を独自のダイアグラムを用いて記述・分析し、現象学的解釈学の方法によって、そこに込められた意味の解明を試みる。各建築/建築家の異一同のみならず、西洋と日本の異一同も問いの射程にある。

(三田村 哲哉)

建築史・意匠学の目的のひとつは、建築美を生み出す造形原理を解明することにある。新たな建築の創造には、過去の偉人や秀作に学ぶことが不可欠であり、彼らの建築思想や建築理念に関する考察、建築作品の分析によって明らかにする設計手法、作品や作家に関する批評や解釈を照らし合わせることで、優れた建築造形の諸原理を追究することが求められる。特に、近代建築は現代建築に多大な影響を与えており、今日の建築・都市の改善に不可欠な課題である。また建築史・意匠研究において見出した造形原理を実際の建築設計に応用し、理論と実践あるいは基礎と応用という形で、自らの建築設計に結び付けて、研究の成果を建築の実務にフィードバックさせるこ

とが極めて重要であり、こうした形で研究の成果の有用性を実証することが求められる。

(三宅 康成)

社会情勢の大きな変化によって、幾多の困難に直面している農村地域において、持続的な地域の維持・発展に寄与する研究課題を設定して、フィールド調査を行いながら、課題解決に向けて実証的に研究を遂行する。研究にあたっては、行政、民間企業(コンサルタントなど)との協働や地域住民等との意見交換の場への主体的な関与が要求される。

(安枝 英俊)

住宅から都市空間にいたる居住空間の構成原理に関する理論研究とともに、実際の建築・まちづくりの現場において民間事業者、行政、NPO等の連携しながら実践的研究を行う。とりわけ、少子高齢社会の進行や地球環境問題の深刻化などを背景として、生活単位の個人化に対応した居住空間、既存ストックの活用手法と流通促進のための仕組みづくり、地域住民が主体的に運営する建築ルール、シナリオ・アプローチによる居住空間の再生手法といったテーマを実施する。

(山瀬 敬太郎)

兵庫県を中心に国内外の森林、里山、農林地、緑地や集水域の自然生態系をフィールドとして、「資源循環型の産業構築」や、「自然災害の多発」、「生物多様性の危機」等の環境問題解決に向けた研究を行う。変動性の高い自然生態系の動態を、災害や人間活動の攪乱に対する反応として捉え、新しい環境計測技術等を用いて、攪乱と生態系の動的関わりを解明する。さらに人間の暮らしの視点を加えることで、持続可能かつ実践可能な生態系管理法を議論し、社会への実装を模索する。

(飯塚 浩太郎)

衛星リモートセンシング、ドローン観測、三次元計測、GIS、機械学習などの空間情報技術を用い、森林・都市・沿岸域・農地などの陸域環境の構造や変化のメカニズムを定量的に解明する研究を行う。観測データの取得・解析に加え、その背後にある環境システムの理解とモデル化を重視する。空間ビッグデータやAI解析を活用した研究を通して、環境変動や土地利用変化に関する課題を科学的に分析し、国際的な研究発信につながる研究能力の育成を目指す。

(奥 勇一郎)

私たちの生活の基盤となる生活環境は、地球温暖化に代表される地球スケールの気候変動からヒートアイランド現象の主因である地域スケールの都市化まで様々な影響を受けて形成されている。その一端を担う大気環境を中心に、気象モデルによる数値シミュレーション、地上観測データや人工衛星データの解析を複合的に活用し、メカニズム解明や影響評価に関する研究を行う。研究を介して、論理的思考に基づく問題解決能力、プログラミングおよび可視化技術の習得を目指す。

(木村 敏文)

自然を知る上で動物の行動や植物の生長動態を知ることが重要である。工学的観点から行動・成長解明における基本的な情報取得手法を学び、コンピュータ支援のためのプログラミング技術習得を目指す。また、生物学・生態学的観点から得られたデータを用いた、データの見方を学ぶと共に、論理的な思考による定量的解析手法の習得を目指す。さらに、国内外の研究者との共同研究も実施しており、発表スキル、問題解決能力などの向上を目指す。

(中桐 斉之)

私たち人間を取り巻く環境や社会の問題についてモデルとシミュレーションやデータ解析をはじめとした情報科学の様々な手法を用いて解決する研究を行う。また、情報科学を用いることで社会環境にどのような影響を及ぼすかを解析するため、その影響について定量的な評価手法を用いて分析を行う。

共生博物部門

(赤澤 宏樹)

緑地計画学を元に、オープンスペースを媒介とした地域づくり、景観づくり、コミュニティ形成等の政策課題に対して具体方策を提案すべく、実践的研究を行う。関係するプロジェクトとしては、都市公園におけるパークマネジメント、地域～地区レベルでの景観まちづくり、尼崎21世紀の森構想の推進、多自然居住地域での自然・環境を活かした地域づくり等があり、これらに関わる行政担当者、コンサルタント、市民団体などと協働しながら計画的な手法やプロジェクト推進能力を習得する。

(池田 忠広)

生物進化の系譜については、現生生物の遺传的情報をもとに各分類群の系統進化について確度の高い仮説が提唱されている。しかしながら、その背景も含めてより詳細に理解を深めるためには、現生生物の情報に加え、各地質時代に生息した生物の直接的証拠である化石を含め包括的検討の必要がある。ここでは主に脊椎動物を対象に各分類階級の骨形態の標徴を検討し、その情報をもとに化石の分類・記載を行い、各生物の系統進化について理解を深める。一連の研究活動を通じて、研究だけでなく多くの面で有用とされる客観的視点や論理的思考の重要性を理解し、研究成果や自身の考えを明快に表現できる能力を身につける。

(石田 弘明)

生物多様性を保全するためには陸上生態系の基盤をなしている植生の実態解明が不可欠である。照葉樹林、ブナ林、里山林などの様々な植物群落を対象に群集生態学の観点から調査・研究を進め、植生研究に必要とされる理論・知識・技術などの習得と論理的思考

力・文章作成能力の向上を図る。また、自治体、市民グループ、企業などと連携しながら、植生を保全・管理するための具体的な効果的な方法について検討し、実践活動を通じてその方法の効果・有効性を検証する。

(高野 温子)

分類学は、生物に関わるあらゆる学問の基礎となる。ある生物がある場所に存在するのは、その生物のたどった進化の歴史、周囲の他の生物や環境との様々な相互作用を経た結果である。被子植物を主な材料とし、分子系統学的、あるいは集団遺伝学的アプローチを経てある生物(群)のたどった進化史と多様性を探り、その結果現在の分類体系に修正が必要と判明した場合には相応の分類学的手続きを経て新分類群の記載や学名組み換え等を行う。一連の研究活動および、学会等における研究発表や議論を通じ、様々な実験技術や得られたデータの解析手法、論文作成能力などの専門的スキルを身につける。

(高橋 鉄美)

生物の大きな特徴のひとつに、形態、色彩、生態などさまざまな点において、非常に多様であることが挙げられる。しかし、それらひとつひとつの形質がどのような意味を持つのかについては、分かっていないことも多い。このため、生物の形質の成り立ちを、進化学の観点から解明することを試みる。これに伴い、理論的思考やデータ取得の技術など、科学研究に欠かせない基礎の習得を目指す。対象とする生物はおもに魚類を考えているが、その限りではない。

(山端 直人)

農村部を中心に社会問題となっている獣害の改善には、被害対策を地域主体の活動にできる仕組みづくりと、それをサポートできる公の体制づくりが重要である。これら地域主体の取り組みは、獣害対策だけでなく防災や福祉など、今後の地域社会の基盤を育てる共通の手法となり得る。そのため、地域政策や農村計画の研究や参加型アクションリサーチの手法を基礎に、獣害を軽減できる社会モデルの育成や課題解決の方法を提案ができる力を身につける。

(横山 真弓)

シカ、クマ、イノシシ、外来生物アライグマなど人との軋轢が大きい野生動物の適切な保全と管理の基本的事項と具体的な技術について習得する。特に野生動物管理の基盤となる科学的モニタリングの理論とその技術を習得するとともに、必要な法制度と計画策定の考え方について実習を通じて身につける。これらの講義と実習を通じて生態系のマネジメントの考え方や方法論、行政施策への反映のプロセスと合意形成の手法を身につける。

(栗山 武夫)

中型・大型哺乳類は食物連鎖の上位に位置するため生態系に与える影響が大きいと予想される。その定量的な評価には、対象とする哺乳類と、影響が予想される生物種の密度や分布を明らかにし、比較する必要がある。研究では特に外来哺乳類(アライグマ)や分布を拡大しているイノシシを対象に、その生態系に与える影響を評価する手法(野外調査・GISによるデータ整備・統計学的解析)の習得を目指す。

(黒田 有寿茂)

人間活動が地球環境に過度な負荷を与えている中、生物多様性に配慮した植物・植生の保全は、健全な生態系や持続可能な社会の存続に向けて極めて重要である。その立案と実践にあたっては、植物の生活史特性や植生の現状、成立背景などを十分に理解することが必要である。そこで本研究指導では、植物生態学、植生学、保全生態学の視点から調査研究を行う。計画立案からデータの収集・解析、論文作成に至る一連の活動を通じて、調査研究の推進と保全の実践に必要な知識・技術を習得するとともに、論理的思考力・表現力の向上を図る。

(高木 俊)

野生動物の保護管理においては、対象種の生息状況や個体群動態の実態把握が必要となる。個体群生態学の理論をもとに、生息状況の時空間的動態把握のための調査研究手法や、個体群動態に相互に影響する人間活動、生物間相互作用、環境要因との関係性を明らかにするためのデータ分析能力の習得を目指す。研究を通じて、科学的データに基づく野生動物管理の考え方を理解・実践できる人材の育成を目指す。

(高田 知紀)

市民が主体となって地域づくりや環境保全、地域防災活動を展開していくための合意形成とプロジェクトマネジメントに関する実践的な研究を行う。人間を取りまく環境は、自然的にも社会的にも複雑である。複雑性を基礎とする環境のあるべき姿は、その現場に身を置くことではじめて立ち現われる。研究を行ううえでは、具体的に地域の、具体的な社会課題から、一般性をもった理論や技術を見出し、いくことを基本姿勢とする。また、工学や自然科学からのアプローチだけでなく、神話や地域伝承、芸術作品などの分析を通じて、人びとがどのように目の前の環境を認識しているかという点についてもまなざしを向ける。研究活動を通して、既存の学問分野の枠を超えた幅広い視野と素養をもちながら、現実社会の問題を客観的に分析し解決するための思考力および技術を習得する。

(廣瀬 孝太郎)

地層に保存された情報を細解き、地球の環境システムとその変化を明らかにする。地球の環境は、様々な要素が相互に影響し合う動的な複雑系であるため、多くの魅力的な謎が残された研究フィールドである。その謎を探求することは、自然に対する俯瞰的な視点を獲得し、未来の人類のあり方について公平な意見を持つことでもある。具体的には、堆積物の微化石群集や化学組成を分析し、遠い過去に遡って環境変化を知る。そこに生態学的、水産学的な技術やデータも取り入れ、地球の時間軸に現在の環境を位置づける。研究の過程では、計画性と論理性を重視し、テーマの設定から成果の公表までに必要な知識と技術を習得する。国内外の機関・人材との共同研究を通して、学際的な研究に踏み出す機会も設けたい。このようにして、既存の学問分野に収まらない視野と素養を身につけ、科学と社会を結ぶ人材を目指す。

(藤木大介)

近年、ニホンジカやツキノワグマなどの大型哺乳類と人との間に様々な軋轢が生じていて社会問題になっている。このような社会問題に対して、自然科学的、社会科学的方法から解決手法を提示できる人材が社会的にも望まれている。そこで主に森林生態学的方法から上記に関連する研究テーマを取り扱う。基本となる科学的なモノ考え方、論理思考の習得を図るとともに、野生動物管理の現場で実際に問題となっているテーマについての調査研究を進めることで、研究成果を現場へ還元できる能力を養う。

(森光 由樹)

野生動物の多くが、分布の拡大、または縮小を繰り返し生存してきた。野生動物は遺伝的多様性が減少すると、繁殖能力の低下、奇形の発病率の上昇が認められ、絶滅する可能性が高くなる。種の絶滅、または地域で消滅した例が、世界中で動物で報告されている。遺伝の性質を理解しながら野生動物の保全および管理手法を学ぶ。保全遺伝学の論理に加えて、フィールドワーク、獣医学手法による捕獲方法、サンプルの収集方法、DNA分析方法など実践的な活用、技術的な方法について習得する。研究を進めながら、将来、野生動物の研究や調査で働くことができる人材を育成する。

(山崎健史)

第6回目の大量絶滅期とされる現在、多くの生物種が、認識される前に絶滅していると言われている。現在、学名のつけられた種は、約175万種で、その半数以上は節足動物である。博士前期課程では、おもにクモ類、多足類などを中心とした陸上節足動物を対象に、系統分類学的な研究を行う。種の記載や分類体系の再検討といった基本的な系統分類学的研究から、特定の生物種における現在の分布パターンに至ったプロセスの推定といった系統地理学的な研究までを対象とする。これらの研究を通して、生物の進化や、種という単位についての理解を深めることを目指す。

(山田 量崇)

分類学は生物多様性の主要レベルの1つ「種の多様性」を理解するためのもっとも基礎的で重要な学問である。地球上で最大の種数を誇り、陸上生態系の主要な構成要素である昆虫類を対象とした昆虫分類学の視点から、生物多様性を理解することを目指す。「分類」という学問的行為を理解し、実践するだけでなく、形態観察によって形や機能を認識した上で、系統や進化の観点からも研究を進めていく。研究活動とおして、自然科学における知識、創造性、洞察力、自立的研究能力を身に付けた人材育成を進めたい。

(頼末 武史)

海洋生態系では人間活動に伴う生息地の縮小・分断化、環境汚染、外来種の定着、温暖化・酸性化など様々な環境問題が進行している。これらの諸課題を解決するには、海洋生物の生態に関する基礎的な知見の積み重ねに基づいた対策を講じていく必要がある。ここでは生物飼育実験、遺伝子解析、野外調査実験などを通して海洋生物の個体群維持機構や種間相互作用に関する研究を進める。基礎的な知見を積み重ね、環境問題の対策や人間社会への応用までを俯瞰して考えることのできる人材育成を進める。

(大平 和弘)

人口減少やライフスタイルが変化する中で、人と自然が調和した持続可能な地域づくりのあり方を再考することが課題となっている。土地の上で繰り返し広げられる人と自然の姿であるランドスケープ(景観・空間)の学問的見地から、地域固有の自然的・文化的な景観や文化遺産の現状と価値を読み解き、それらを保全・活用するための技術や計画、仕組みづくりなどのマネジメント手法に関する調査研究を行う。また、関係する地域のプロジェクトへの参画を通じて、多様な主体と協働し、地域づくりの方策を提案・実践する能力を身につける。

(2) 博士後期課程(特別演習・研究指導の概要) ※は研究指導補助教員

I 人間環境部門

伊藤 美紀子(疾患における代謝異常と栄養療法の視点から)

生活習慣病をはじめとする様々な疾患において、栄養が大きく関連しているのは言うまでもない。生体内に取り込むまでの食生活はもちろんのこと、生体内に取り込んだ後の代謝に大きな影響を与え、様々な代謝異常が生じることが明らかとなっている。特に、腎臓病や糖尿病、低栄養といった基礎疾患をもった患者においては、その影響はかなり大きい。これらの代謝異常のメカニズムを理解し、不明な点を明らかにしていくことは、栄養療法にエビデンスを与え、また新規の栄養療法の開発につなげる事が可能である。臨床現場で問題となる事象から、基礎実験、ヒト試験、臨床現場での調査などを踏まえながら、栄養療法による課題解決に向けて研究を進める。

乾 美紀(マイノリティの教育、多文化共生教育の視点から)

教育現場で不利な状況に晒されがちな移民や難民の子どもたち、民族的マイノリティの子どもたちは、実際どのような問題を抱えており、どのように支援すればよいのだろうか。本特別演習では、途上国・先進国を問わず多民族国家に共通する問題について文献を中心に探求する。また、大学近くにある外国人の子どもへの補習教室を訪れ、実習体験を行ったり、直接インタビューを行うなどのフィールドワークを通して実践的な解決法を探究する。

内田 勇人(子どもの発達環境と高齢者の健康の視点から)

子どもが元気に生き生きと生活できる環境と、高齢者や障害者が心安らかに生きがいを持って生活できる環境のあり方について考究する。具体的には、今日における少子高齢社会の現状を踏まえて「子どもの身体活動、生活習慣と肥満」「子どものメンタルヘルス」「子どもと高齢者の世代間交流」「高齢者のフレイル」「地域在住高齢者・施設入所高齢者の心身の機能に関する研究」「社会と健康との関係」等について教授する。

尾崎 公子(教育政策の視点から)

人口減少は、教育政策にも地域政策にも大きなインパクトを与えている。本特別演習では、地域の自然、社会、文化環境を活かし、有機的に結びつけるプログラム、方法、仕組み、条件を明らかにすることによって、子どもたちの教育環境の充実を図ると同時に、地域資源の把握と機能化が、地域の活性化に結びつくような理論構築を考究する。

加藤 陽二(食品・生命科学の生活環境の視点から)

人は環境に適応する高度で精緻な仕組みを備えており、その機能が損なわれると疾病や老化としてあらわれる。なかでも「食」は、24時間を通して私たちの身体に影響を与える重要な因子である。この食と健康の関係を、化学・生化学・免疫化学・分子生物学などの多様な手法を用いて解明する。食品成分が持つ機能や、疾病予防に関わる炎症反応、生体分子の修飾・劣化との関連に着目し、健康維持のメカニズムを明らかにすることを目指す。これらの基盤的知識と先端的研究技術を習得し、自ら新しい研究課題を発見・遂行できる能力を養う。

坂本 薫(食べ物に関わる食生活環境の視点から)

人は、食べ物を食べていかなければ生きていけない。食べ物は、環境の中で作られ、それを人間が食べ物として利用している。食の外部化が施行している現在、望ましい食生活環境を創造するために、食べ物に関わる領域における諸問題について総合的にとらえ、考究する。具体的には、「調理・食品加工における味・テクスチャー向上に関する研究」を中心とし、食生活環境としての食文化も含めた食をマクロな視点で広範囲に捉え、研究をすすめる。

寺西 雅之(文体論および英語教育・学習論の視点から)

本演習では、英語および外国語としての英語教育に関する諸問題を包括的な視点から考察する。英語に関しては、主に文体論およびナラティブ分析の視点から、文学作品からマスメディアまで様々なテキストの特徴について理解を深める。また英語教育に関しては、精読・多読などの理論・教授法から英語教師論や実地研究も含め英語学習者に適した教育・学習論について複眼的に考察する。

永井 成美(食環境と健康の関わりという視点から)

特定のライフステージ・ライフスタイルにおける疾病予防や健康維持に資する、栄養摂取や食習慣、もしくは食環境整備とはどのようなものかを探求する。その1つの方法として、生体信号解析(心電図、胃電図、呼気ガス等)により、エネルギー代謝、呼吸循環機能、消化器運動を数値化し、食事・栄養素の摂取や、そのタイミングが生体内環境に与える影響を検討する。社会人院生の場合は、観察的または介入的研究デザインにより、フィールドでの栄養教育・栄養療法・食環境整備に関わる研究を行い、介入効果等を評価する。いずれも、研究計画、データ収集と解析、結果の解釈・考察が行え、原著論文を執筆できるレベルの到達を目指す。

村上 明(食品成分の機能性についてストレス応答の視点から)

健康維持や疾病予防のために野菜や果物の摂取が有効であることは論を待たない。こうした植物性食品由来の微量機能性成分(ファイトケミカル)は、様々な健康効果を示すことが知られているが、その詳細な作用機構は不明である。ファイトケミカルはヒトを含む動物にとっては非栄養素(=異物)であるため、摂取後は薬物などと同様、解毒・排出機構が活性化される。近年、こうしたストレス応答機構がファイトケミカルの生理機能発現機構にリンクしていることから、「ホルミシス(hormesis、適度なストレスが生体防御能を活性化させる現象)への関連性も注目されている。食品機能性成分の作用機構において、ストレス応答がどの程度寄与しているのかを見定めるため、実験材料としては主に培養細胞を用いて研究を進める。

吉田 優(代謝物解析の視点から)

メタボロームとは、生体試料(体液、組織、細胞等)に含まれる低分子代謝物群である。これらの代謝物を網羅的に定性・定量解析するメタボローム解析(メタボロミクス)は、ポストゲノム科学の一分野として生まれたオーム科学のひとつである。栄養学研究をはじめとしたさまざまな分野においてもその重要性が認識され始め、特に栄養バイオマーカーの候補の検索に有用とされている。そこで、本技術を利用して患者サンプルを解析し適切な栄養管理マーカーを見つける、栄養療法前後のメタボローム解析をして個々の患者様に最適な栄養支援プログラムの選択を支援するなど、臨床栄養学の分野と融合した研究を行う。

吉村 美紀(食品に対するヒトの感覚機能と健康の視点から)

食品に求められる機能は栄養、感覚、生体調節であり、栄養があり、おいしく、健康を維持増進することである。食品がもつ味、香り、食感、ヒトの味覚、嗅覚、触覚などの感覚機能に働きかけ、嗜好性に影響を与える。おいしい食べ物を摂ることは生活の楽しみであると同時に、消化吸収・代謝の効率を上げ、免疫能を高めるなど、栄養素の摂取以外に、ヒトの健康の維持・増進に大きな役割を担っている。また、近年では社会の高齢化に伴い、食品に対するヒトの感覚機能は高齢者の健康の観点からも重要な要素となっている。食品に対するヒトの感覚機能の役割について健康の維持・増進の視点から研究をすすめる。

※有満秀幸(食品の安全性について微生物学の視点から)

我々が豊かな食生活を送るために欠くことができない農畜産物や魚介類は「生き物」に由来することは言うまでもなく、ヒトと同じ様々な常在微生物と共生・共存している。微生物は環境中にも存在し、有益な影響を示すものがある一方、食品の腐敗、ヒトに食中毒、家畜に感染症を引き起こして食の安全・安定提供に有害な影響を及ぼすものもある。後者を未然に防ぐためには当該微生物やその病原因子の本質と、微生物-宿主の応答機構を理解することが不可欠である。これらを微生物学的手法の他、細胞生物学、分子生物学的手法も用いて解明し、診断・検査薬などの開発や食品加工における制御法への提案につなげたい。

※井上 靖子(臨床心理学の視点から)

現代社会における様々な心の諸問題、心の悩みやトラウマを抱えた人々への理解を深め、心の成長や治癒へと導かれる臨床実践や対人支援の在り方を考究する。私という主体が、言葉による対話、イメージやからだの表現、想像力を介して、内界や外界との繋がりを回復できるのか、心理療法やカウンセリング、地域における心理支援について理論と実践の両面から検討を行う。学校教育機関、病院や保健所、児童養護施設、一時保護所、児童相談所、NPO法人、心理相談室、地域における治療儀礼等において実践的フィールドワークや調査(心理査定法を含む)を実施し、臨床実践研究へと高めていく。

※鄭 成(歴史社会学の視点から)

1949年以降、中国人の思想と行動は、強大な政治権力によって強く規定されるようになった。しかしその一方で、政治が行き詰まる局面においては、人びとの思想と行動が従来の受動的立場を脱し、政治を動かす主体となる場合もしばしば見られる。国家と個人との相互作用は、現代中国社会を大きく変容させる重要な要因である。本演習は、エゴドキュメントの読解・分析を通して、歴史のなかの個人に光を当て、彼らが国家と個人の間をいかに認識し、いかに対処したのかを考察することを目的とする。これらの作業を通じて、現代中国における国家と個人の相互作用の実相を分析する。

※中出 麻紀子(公衆栄養学の視点から)

日本は長寿国である一方、現在生活習慣病を抱える人も多く存在する。特に今後を担う若い世代において食事や食習慣上の問題点が多く指摘されており、これら不健康な食事や食習慣の背景にはどのような要因が存在するのかを質問紙調査を通して明らかにする。また、健康的な食事の実現のためには人々を取り巻く環境(食環境)も重要であり、介入研究等を通して健康的な食環境の考案とその効果検証を行う。

※金子 一郎(老化予防栄養学の視点から)

超高齢化社会対策として、栄養学の観点から健康長寿を実現するための課題設定を行う。栄養素は体内に吸収されて機能するだけでなくシグナル因子に変換され生体機能を調節している。小腸を介した栄養補給は生命維持に重要であり、小腸を司令塔とした栄養応答性の多臓器連関について研究を進める。また、加齢に伴うゲノムDNA情報の変化や遺伝子発現調節制御のメカニズムを明らかにし、個体老化の前兆を捉えることを目標とする。培養細胞、実験動物、ヒトを対象とした研究により、抗老化栄養素や早期老化マーカーを同定し、栄養介入に繋がるシーズを創出することで機先を制したフレイル予防に挑戦する。

※森寿仁(健康・スポーツトレーニング科学の視点から)

同じ運動をするのであればより効果の高い方法を、同じ効果であればより楽な運動方法を選択したいと望むことはごく自然な考えである。この考え方は、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上に限らず、健康増進を目指す場合でも同様なことが言える。いつ、どこで、どのようなトレーニングを行うことで、より運動パフォーマンスが高まるのか?より健康になれるのか?そのような問いを解決するために、運動生理学・環境生理学的手法を基軸としながら、スポーツ科学全般の複合的な視野を踏まえて考究する。研究室で扱う対象は子ども～アスリート～一般成人～高齢者まで幅広く、実験室のみならず、フィールドでの様々な測定を通して、それぞれのライフステージに合わせた効果的なトレーニング方法やその環境を明らかにする。

II 社会環境部門

宇高 雄志(人間居住の視点から)

アジアにおける人間居住と生活空間のこれらについて究明する。ここでは、地域社会における建造物や都市空間を対象にした調査によって、成熟社会における居住空間の維持管理手法を検討する。ここでの具体的な課題として、歴史的環境の保全手法、景観形成の手法、既存住宅ストックの再生手法を取り上げ、広義の制度を含めた計画論についての実践的手法を習得する。

宇野 康司(環境動態解析を基盤とした環境学の視点から)

磁鉄鉱や赤鉄鉱などの磁性鉱物は、過去の地球環境を磁性という形で記録する重要な記憶媒体である。その記録を獲得するメカニズムを理論的・実験的に理解し、どのような過去の環境に関する指標が得られるのかについて考察する。また、磁性鉱物から読み解かれた、日本列島を中心とする東アジア地域の過去2億年前以降の地球環境変遷の具体例を学び、その有用性を議論する。

太田 尚孝(都市計画学の視点から)

近年のわが国の都市社会を巡る動向をみると、人々が豊かに暮らす基盤としての都市計画の役割はさらに大きくなっている。しかしながら、成長拡大を前提に制定された現行の都市計画法ではもはやニーズにこたえることが難しくなっているのも事実である。そのため、国内外の先行事例を俯瞰的にとらえながら、即地的に新たな発想の下で、都市計画制度を構想する必要がある。博士後期課程では、包括的な都市計画の制度理解や計画技術の習得はもちろんのこと、これからの都市計画を展望するような、オリジナリティの高い、かつ現実性をもった研究を行う。なお、調査フィールドは国内外を問わない。

大橋 瑞江(生態系の構造と機能の視点から)

主に森林を対象に、生態系の構造と機能に関わる生物作用について考究する。特に生態系内の物質移動と植物・動物の生態的特性との関係、炭素蓄積などの環境保全機能の発現メカニズムの解明、公益的機能を高度に発揮する森林育成法の開発などを行う。実施内容として、フィールド調査、野外・室内での実験、統計やシミュレーションを用いたデータ解析、論文・専門書の読解、学会発表、論文執筆などが挙げられる。これらの活動を通して論理的思考力、自己管理力、判断力、チームワークを発揮するための柔軟性や協調性などを養う。研究対象とする森林として、兵庫県内の人工林、日本国内の自然林、東南アジア熱帯林、北欧の亜寒帯林などがある。対象とする動植物として、樹木、草本、森林生息性動物、微生物などが挙げられる。

木村 玲欧(社会科学的手法による災害・防災研究の視点から)

災害は自然現象であると同時に社会現象としての側面を持つ。社会科学的手法による災害・防災研究について、文献調査だけに留まらず、フィールドワークやアクションリサーチに基づく社会調査も含めながら、災害などの非常事態下における人間心理・行動・社会実態の解明、災害時における適切な対応を実現するための人材育成手法について教育・研修教材およびプログラム開発、効果的な被災者・被災地支援を実現するための支援システム的设计・開発・評価・検証手法の開発などについて研究を進める。

源城 かまり(建築環境工学の視点から)

住宅、オフィス、学校、保育施設等の様々な居住空間における室内環境の快適性、健康性について評価し、各種設備の使用や窓開閉、日射遮蔽等の住まい方との関わりを考察する。オフィスについては知的生産性についても評価し、自然要素を取り入れるバイオフィリックデザインの導入等、室内環境の改善によって知的生産性の向上を図る手法について検討する。具体的には、既往研究の文献調査、実空間を対象とした実測調査や、空間利用者を対象とするアンケート調査等を実施し、少子高齢社会や気候変動を背景として変化する人間、自然の現状を踏まえ、建築空間のあり方についてカーボンニュートラルも視野に入れて検討する。

中島 一憲(環境経済学の視点から)

われわれの社会を取り巻く環境問題に対して、環境保全と経済成長を両立するための政策の在り方やその評価、環境の経済的価値の評価について研究を行う。具体的には、気候変動問題を中心として、環境経済モデル(動学的最適化モデルや応用一般均衡モデル)を用いた環境政策の費用便益分析、環境評価手法(仮想評価法や旅行費用法)を用いた環境の経済的価値評価等が挙げられる。

安枝 英俊(建築計画学の視点から)

少子高齢化・人口減少社会、ストック型社会、環境配慮型社会に対応した建築計画のあり方について考究する。具体的には、シナリオ・アプローチによる住宅計画の開発と実践、郊外住宅地における住み替えに関する意思決定支援、住民の知識や技能を活用した交流空間の運営、不確実性に対応した既存ストックの活用手法、空き家バンクの運営をはじめとする自治体による空き家対策などについて研究を進める。

赤澤 宏樹(緑地計画学の視点から)

都市部、郊外住宅地から多自然居住地域まで、我々の周りには都市公園や広場、街路樹、庭、農地や山林など様々な緑地が存在する。これらの人間の生活と密接に関係する緑地を対象に、生活や市街地性能、地域環境の価値を向上させるために必要な計画論やマネジメント手法のあり方を研究する。事象を分析するに留まらず、社会実装するために必要な実践的方法を構築するために、県下の政策やプロジェクトへの参画を通じて研究を進める。

石田 弘明(植生学の視点から)

生物多様性の維持機構とその保全のあり方について考究する。主な研究対象は照葉樹林、夏緑樹林、里山林、湿原、自然草原、半自然草原などの植生(植物群落)と、絶滅危惧種に指定されている野生植物(カザグルマ、エドヒガン、トウテイラン、フジバカマ、コウホネ類、ラン類など)である。フィールド調査や室内実験、統計解析などをおこなってその結果を論文にまとめる。また、生物多様性を保全するための方法・技術を考案し、その成果を行政などに積極的に提案するほか、各種団体と連携・協力して具体的な保全活動を実践し、その結果を研究にフィードバックする。これらの活動を通して植生学および保全生態学の理論・知識・技術を習得すると共に、論理的思考力や文章作成能力、プレゼンテーション能力などの向上を図る。

高橋 鉄美(進化生態学の視点から)

生物多様性は生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の3つのレベルに分けられる。そのうち遺伝子の多様性は、見た目だけではわからないが、地域による特徴の違いや、個体群の進化可能性など、いくつかの重要なトピックが含まれる。本研究室では、この遺伝子の多様性に注目し、その生物の辿ってきた進化の道筋(系統や集団遺伝)や、その原動力(自然選択や性選択)、または人による影響(保全)などについて研究を行い、最終目標として、生物多様性の重要性についての意識を養うことを目指す。

山端 直人(野生動物管理と農村計画学の視点から)

農村部を中心に社会問題となりつつある野生動物による被害、「獣害」の改善には、個体数や密度の管理に合わせ、被害防除や加害個体の捕獲等の取り組みが必要とされる。そして、これらの対策を持続的に行うには、獣害対策を地域主体の活動にできる仕組みづくりと、それをサポートできる公の体制づくりが重要と考えられる。さらに、これら地域主体の課題解決手法は獣害対策だけでなく、防災や福祉など、今後の地域社会の課題を改善できる社会基盤を育てる共通の手法となり得る。そのため、地域政策や農村計画の研究を基礎に、獣害を軽減できる社会モデルの育成や、地域が主体的に獣害対策を持続できる仕組みづくりを研究する。また、参加型アクションリサーチの手法を用いた課題解決型の研究により、獣害対策による地域の多様な変化やその要因を捉え、それらを社会に還元できる研究を目指す。

横山 真弓(野生動物管理学の視点から)

人口縮小社会において、野生動物との共存の理論と技術に対する行政ニーズが高まっている。野生動物を管理する際に求められるモニタリング技術の開発と主に行政計画に落とし込むための社会実装をテーマとして、適切な野生動物との共存をめざす研究論文を作成する技術を学ぶ。対象動物は主にニホンジカ、クマ、イノシシなど人との軋轢が大きい野生動物である。最新の技術開発も含め、衛星GPSテレメリーによる行動特性から出没要因を探る研究、解剖調査から繁殖や栄養特性を解明する研究など多様な視点からの研究アプローチを歓迎する。

栗山 武夫(哺乳類の生態系管理の視点から)

農林業や人間への健康被害などの直接・間接的な原因となる哺乳類は、個体群管理の重要な対象であるとともに、生態系への影響が大きい。そのため生物多様性保全の根本的な課題である。究極的には、哺乳類の個体群管理を生産者、消費者、分解者を構成する種個体群の包括的な生態系管理の枠組みの中で社会実装することが理想であり、科学的根拠に基づく実証の積み重ねが求められる。対象とする哺乳類の分布有無や密度の差、異なる環境等をフィールドに、密度・食性・行動データを取得し、GISや様々な統計手法により包括的な分析を経た管理の提言を行える力を養う。

森光 由樹(保全生態学の視点から)

野生動物を保全し管理するには、保全生態学で示されている、生物の多様性の概念、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」を保全しながら進めることが必要不可欠である。しかし、保全および管理を実施するための科学的情報は十分だとは言いえない状況にある。野生動物を保全し管理を進めるためには新たなモニタリング手法を開発し、その開発した技術を用いて生態を解明する必要が求められる。手法は、例えばGPS発信器を用いた行動圏解析、AIやバイオロギング法を用いた行動解析、DNA分析を用いた遺伝子の多様性や遺伝的交流など最新技術を用いてアプローチを試みる。これらの新技術は、動物の捕獲が必要なため生体捕獲やサンプリングについての知識や技術も合わせて習得する。得られたデータを用いて実践的な活用に向けて行政機関や関係機関に提案する。

※内平隆之(建築学における地域マネジメントの視点から)

暮らしや社会の変化が、生活空間・地域計画・まちづくりにおよぼす影響に着目し、建築学における地域マネジメントの視点から、地域居住の適応性を高める方法を実学的に探究する。具体的には、(1)人間が生活し、働くのに適した地域居住のあり方、(2)心身の健康を支える空間的処方あり方、(3)環境資産の次世代への受け渡し方、(4)地域課題に応じた地域連携による状況のマネジメント方法などを調査研究する。研究指導としては、具体的な地域連携の取組に参加しながらプロジェクトノートを作成し、プロジェクトノートに基づいた学術論文の作成を指導し、知見の社会実装を通じて、研究成果を現場に還元できる能力を養う。

※高野 温子(植物分類学の視点から)

地球上に30万種ともいわれる被子植物の多様性は1億年以上の長い年月をかけて生み出されたものであり、未だ十分に把握できているとは言えない。植物分類学は、植物の多様性と進化の道筋を外部形態からNGSを用いた分子情報まで利用可能なデータをフルに活用しながら、研究対象の植物群をどのように認識するのが適切なのかを探る学問である。研究指導としては、DNA試料採取と生育環境調査を含む野外調査から、分布域や種内変異をおさえるための標本調査、DNA抽出から始まる一連の分子系統解析手法、分類体系の構築法について学び、併せて研究成果を適切に論文化・社会に還元できる能力を養う。

※三田村哲哉(建築意匠学の視点から)

建築家は、この職能の誕生以来、建築意匠に関する学術的な知見を深め、それを提示する役割が求められてきた。現代の建築でなく、むしろ過去の偉人が残した理論の考究や秀作の発掘は、建築家という職能に由来する。また建築は、こうした考究や発掘による深い素養に基づき創造されるものであるため、建築家は時代や地域を問わず、このような役割が求められる。研究室では、研究の対象が建築史学と同一であっても、史実の探究に止まらず、建築の設計を念頭に、作家や作品に向き合い、建築意匠に関する新たな学術的な知見を得ることが求められる。

※山田 量崇(昆虫系統分類学の視点から)

分類学とは、自然界の中から生物のまとまりを認識し、それらに共通の名前を与え、グルーピングし、体系的に位置づける学問である。生物を分類学的に正確に認識することで、生物多様性への理解が飛躍的に進み、保全・応用研究への土台となる。博士後期課程では、陸上生態系の主要な構成群である昆虫類を対象に、単に分類群の記載分類に留まらず、系統や進化の視点を取り入れて多角的に研究を進めていく。とくに、厳密に形態を観察し、積極的に分子データを利用することによって、昆虫の系統進化や形態進化をより深く理解することを目指す。研究活動をととして、自然科学に関する一般的な知識や科学的思考能力、自立的研究能力を身に付ける。

※中桐 齊之(生態環境と情報科学的な視点から)

主に様々な生物の生態について情報科学的手法を用いて考究する。主な研究対象は生物の絶滅、個体群動態、生息地ネットワーク、感染症の伝播、流行の伝播、囚人のジレンマゲームなどである。実施内容としては、数理モデリングと計算機シミュレーションによる解析、調査、論文・専門書の読解、学会発表、論文執筆などが挙げられる。これらの活動を通して、問題の発見や解決の能力、論理的かつ批判的な思考力、発想力や創造力、柔軟性や協調性を養う。

※廣瀬 孝太郎(地球環境進化学の視点から)

水域生態系の時系列変化とその駆動原理を、沿岸や湖沼の堆積物から評価する。具体的には、主に第四紀の堆積物に含まれる微化石や無機・有機化学組成などの地質学的プロキシの時空間変化を測定する。加えて環境計測や室内実験、歴史資料の解析も行う。それらに基づき自然・人為の環境変化と環境の構成要素(水質、生態系)の相関を解析することで、不明な点が多い水圏システムの解明を目指す。このように長期間の環境動態を明らかにすることで、水圏を主とした地球表層の普遍的な現象の究明に迫ることができる。このような視点から、地球の誕生以来続いてきた環境進化の理解に資する知見の創出を目指す。

※藤木 大介(森林生態学の視点から)

近年、ニホンジカやツキノワグマなどの大型哺乳類と人との間に様々な軋轢が生じていて社会問題になっている。このような社会問題に対して、自然科学的、社会科学のアプローチから解決方法を提示できる人材の育成が求められている。そこで森林生態学的アプローチから上記に関連する研究テーマを取り扱う。野生動物管理の現場で実際に問題となっているテーマを扱うとともに、入念な予備調査に基づき、仮説検証型の研究計画を立案し、着実にアウトプットを出す技法の習得を図る。さらには得られた研究成果を現場に還元できる能力を養う。

※山崎 健史(種生物学の視点から)

第6回目の大量絶滅期と言われる現代は、年間約40,000種が絶滅していると推定されている。そのような状況下で、未だ膨大な未記載種が含まれる生物の種多様性を明らかにしていくことは急務である。本特別演習・研究指導では、陸上節足動物(主に、鋏角類、多足類など)を対象に、系統分類学における実践的な研究を形態学、分子系統学的なアプローチから行う。主に生物の基本的な単位である種に着目し、未記載種の記載、隠蔽種探索などを行う。さらに単系統性をもとに、属や科などの高次分類群の分類体系も再検討する。また、研究対象種の生物地理学や種間の生物間相互作用も念頭において、種の生物学を広く学ぶことを目指す。

(3) 博士後期課程(特別研究)

I 人間環境部門

伊藤 美紀子、乾 美記、内田 勇人、尾崎 公子、加藤 陽二、坂本 薫、寺西 雅之、永井 成美、村上 明、吉田 優、吉村 美紀

II 社会環境部門

宇高 雄志、宇野 康司、太田 尚孝、大橋 瑞江、木村 玲欧、源城 かほり、中寫 一憲、安枝 英俊、赤澤 宏樹、石田 弘明、高橋 鉄美、山端 直人、横山 真弓、栗山 武夫、森光 由樹

※指導教員のみ記載。研究内容は「特別演習・研究指導の概要」のページを参照すること。

平成 25 年兵庫県立大学環境人間学研究科規程第 1 号

兵庫県立大学環境人間学研究科規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、兵庫県立大学大学院学則（平成 25 年法人規程第 76 号。以下「大学院学則」という。）に基づき、兵庫県立大学大学院環境人間学研究科（以下「本研究科」という。）の教育課程及び履修方法等に関して必要な事項について定めるものとする。

(専決事項の規定)

第 2 条 兵庫県公立大学決裁規程（平成 25 年法人規程第 6 号）第 4 条に規定する専決事項として研究科長が専決するものについて、この規程においては、研究科長が許可又は決定を行うものとして規定する。

(研究科における教育研究上の目的)

第 3 条 本研究科は、環境と人間に関する学際的、融合的なアプローチを通じて、新たな環境創造を担う高度な識見、研究力をもった人材の育成を教育理念としている。この理念の実現に向けて、人間学の基本に立ちながら、社会のニーズに応える高度な専門知識と問題発見能力を持ち、かつ環境に関する諸問題を体系的・総合的に分析・解明できる能力を有する専門職業人の養成を目的とする。

2 前期課程においては、諸専門の知識や情報を組織して問題解決に向かう研究態度を身につけた研究者としての能力を備え、さらに社会のニーズに応える高度の専門知識と総合的、実践的な問題発見・解決能力を身につけた人材の養成を目指す。

3 後期課程においては、環境人間学の学理と方法論をさらに深く科学的に考究するとともに、環境と人間のあり方を正しく理解し、環境問題に対して総合的で創造的な視点から対処しうる高度の研究能力を身につけた人材を養成する。

(部門)

第 4 条 大学院学則第 2 条第 2 項の規定による環境人間学専攻博士前期課程には、別表第 1 のとおり、環境人間学専攻博士後期課程には、別表第 2 のとおり部門をおく。

(授業科目及び単位数)

第 5 条 本研究科の授業科目及び単位数その他履修に関する事項については、別表第 3 及び別表第 4 のとおりとする。ただし、入学後、新たに開講される授業科目についても、履修及び修了所要単位数への算入を認めるものとする。

2 博士前期課程の授業科目の種別及び授業時間数等は次のとおりとする。

講義、特別ゼミナールⅠ・Ⅱ、特別実験、健康スポーツ科学課題演習Ⅰ・Ⅱ、特別研究及び特別フィールド研究については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

3 博士後期課程の授業科目の種別及び授業時間数等は、次のとおりとする。

環境人間学特別演習及び環境人間学特別研究については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(他大学院等における修得単位の認定)

第 5 条の 2 研究科長は、大学院学則第 11 条及び兵庫県立大学他大学等における授業科目の履修規程に基づき、認定した単位数を別表第 3 及び別表第 4 に定める修了所要単位に算入することができる。

(指導教員)

第 6 条 各学生について指導教員を定める。

2 指導教員は、研究科委員会が認定した教授、准教授及び講師とする。ただし、博士後期課程については、教授及び准教授とする。

3 学生は、学修につき、指導教員の指導を受けなければならない。

(履修手続)

第7条 学生は、履修しようとする授業科目については、指導教員の承認を得たうえ、毎年度の所定の期日までに履修願を学務課に提出しなければならない。

2 前項に規定する期日までに履修願を提出しなかった科目については、授業及び試験を受けることができない。

(単位認定)

第8条 履修認定は授業科目担当教員が行い、これに合格した学生に対しては、当該科目所定の単位を与える。

(他研究科、他学部及び学部の授業科目の履修)

第9条 学生は、他研究科、他学部又は環境人間学部の授業科目を履修しようとするときは、研究科長の許可を得なければならない。

2 研究科長は、前項の規定による履修については、関係研究科長、関係学部長又は環境人間学部長に協議しなければならない。

3 第1項の規定により、履修した授業科目のうち、研究科委員会等が相当と認めるものについては、修了所要単位数に算入することができる。ただし、学部の授業科目については、単位認定を行い単位取得一覧表に記載するが、修了所要単位数には算入しない。なお、履修登録は第7条に従うこと。

(他大学院学生の受入れ)

第10条 研究科長は、大学院学則第14条の規定により他の大学院生で本研究科における履修を願ひ出る者があるときは、研究科委員会の意見を聴いた上で、これを許可することができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第11条 研究科長は、教育上有益と認めるときは、研究科委員会の意見を聴いた上で、学生が本研究科に入学する前に本学又は他大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を本研究科に入学した後の本研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなす単位数は、15単位を超えないものとする。ただし、第5条の2の規定により本研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

(転学)

第12条 大学院学則第22条第1項の規定により、他の大学院に転学を希望する者は、転学許可願(様式第1号)を所定の期日までに学務所管課に提出し、研究科委員会の意見を聴いた上で、研究科長がこれを許可することができる。

2 大学院学則第22条第3項の規定により、本研究科に転学を希望する者は、転学許可願(様式第2号)を所定の期日までに学務所管課に提出し、本大学院において所定の選考に合格したうえで、研究科委員会の意見を聴いた上で、研究科長がこれを許可することができる。

3 前項の選考に関し、必要な事項は研究科委員会の意見を聴いた上で、研究科長が別に定める。

(転研究科)

第13条 研究科長は、大学院学則第23条の規定により、学生が他の研究科に転研究科を希望する旨を申し出たときは、転研究科許可願(様式第3号)を所定の期日までに学務所管課に提出させ、研究科委員会の意見を聴いた上で、これを許可することができる。

2 研究科長は、前項の規定により転研究科の許可をする場合にあっては、関係研究科長と協議しなければならない。

3 研究科長は、他の研究科の在学学生で本研究科への転研究科を希望する者があるときは、転

研究科許可願（様式第4号）を所定の期日までに学務所管課に提出させ、本大学院において所定の選考に合格したうえで、研究科委員会の意見を聴いた上で、これを許可することができる。

4 前項の選考に関し、必要な事項は研究科委員会の意見を聴いた上で、研究科長が別に定める。

第14条 削除
(成績の評価)

第15条 授業の成績は、試験の結果及び日常の学習状況を総合して、次の基準により評価する。

- (1) 成績は100点満点とし、60点以上をもって合格とする。
- (2) 合格した科目には所定の単位を与える。
- (3) 合格した科目の成績は、S、A、B及びCの評語をもって表し、その区分及び評価の基準は次のとおりとする。

評語	区分	評価の基準
S	90点以上	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績
A	80点以上90点未満	到達目標を十分に達成できている優れた成績
B	70点以上80点未満	到達目標を達成できている成績
C	60点以上70点未満	到達目標を最低限達成できている成績

- 2 合格した科目については、再評価しない。
- 3 休学期間中に開講されている科目については、その単位を認めない。
- 4 修士論文、博士論文及び最終試験の評価は、合格又は不合格をもって表す。
(修士論文及び博士論文)

第16条 所定の期間在学した学生は、修士論文又は博士論文を提出することができる。

2 大学院学則第25条第3項及び第27条第3項の規定による修士論文又は博士論文の提出期限、審査の方法その他学位の授与に関する事項は、学位規程に従う。

(最終試験)

第17条 大学院学則第25条第3項及び第27条第3項の規定による最終試験は、所定の単位を修得し、前条に規定する修士論文又は博士論文を提出したものについて行う。

(教育職員免許状授与の所要資格の取得)

第18条 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による専修免許状を取得しようとする者は、基礎免許状取得のための要件を満たしたうえで、別表第5に定める科目のうち、同法及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める単位を取得しなければならない。

2 本研究科において取得できる免許状の種類及び教科は次のとおりとする。

基礎免許状		免許状の種類		免許教科
中学校教諭	1種免許状	中学校教諭	専修免許状	保健体育
高等学校教諭	1種免許状	高等学校教諭	専修免許状	保健体育
栄養教諭	1種免許状	栄養教諭	専修免許状	—

(環境人間学部学生による授業科目の受講)

第19条 環境人間学部規程（平成25年兵庫県立大学環境人間学部規程第1号）第13条の規定により本学環境人間学部学生が受講できる博士前期課程授業科目は、研究科委員会の意見を聴いた上で、研究科長が指定する。

2 前項において指定した科目の修得単位は、入学後本研究科の修得単位として認める。

(補則)

第 20 条 この規程の施行に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 27 年 3 月 11 日改正)

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 31 年 2 月 20 日改正)

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 3 年 3 月 31 日改正)

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 3 年 9 月 15 日改正)

この規程は、令和 3 年 9 月 15 日から施行する。

附 則 (令和 4 年 2 月 16 日改正)

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 6 年 2 月 2 1 日改正)

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表第 1 博士前期課程

専攻名	部門名
環境人間学専攻	人間環境部門
	社会環境部門
	共生博物部門

別表第 2 博士後期課程

専攻名	部門名
環境人間学専攻	人間環境部門
	社会環境部門

別表第3 博士前期課程

(令和8年4月1日現在)

部門	講義名	配当年次	単位数	備考
人間環境部門	トレーニング特論	1・2	2	
	健康発達特論	1・2	2	
	環境英語表現特別演習	1・2	2	
	多文化共生教育特論	1・2	2	
	臨床心理学特論	1・2	2	
	食品科学特論	1・2	2	
	生命環境特論	1・2	2	
	ライフステージ栄養学特論	1・2	2	
	実践栄養学特論	1・2	2	
	地域教育政策特論	1・2	2	
	人間学特論	1・2	2	
	言語学特論	1・2	2	
	生涯スポーツ教育特論	1・2	2	
	アメリカ研究特論	1・2	2	
	教育原論特論	1・2	2	
	英語圏文化研究特論	1・2	2	
	比較言語・文化特論	1・2	2	
	生涯発達心理学特論	1・2	2	
	生徒指導実践特論	1・2	2	
	社会環境部門	生態情報学特論	1・2	2
環境社会学特論		1・2	2	
言語社会分析特論		1・2	2	
防災心理・教育学特論		1・2	2	
都市計画特論		1・2	2	
建築意匠特論		1・2	2	
地域コミュニティ特論		1・2	2	
農村計画特論		1・2	2	
環境経済・政策特論		1・2	2	
大気科学特論		1・2	2	
住環境学特論		1・2	2	
住宅計画特論		1・2	2	
建築・インテリア設計特論		1・2	2	
建築計画特論		1・2	2	
水圏環境学特論		1・2	2	
福祉社会学特論		1・2	2	
森林生態学特論		1・2	2	
環境画像解析特論		1・2	2	
環境動態解析学特論		1・2	2	
建築防災学特論		1・2	2	
地域プロジェクト特論		1・2	2	
生態工学特論		1・2	2	
公法学特論		1・2	2	
建築耐震設計特論		1・2	2	
土地利用情報学特論		1・2	2	
建築環境工学特論		1・2	2	
建築設計インターシップⅠ	1	4	通年授業	
建築設計インターシップⅡ	2	4	通年授業	
共生博物部門	ランドスケープ計画特論	1・2	2	
	進化生態学特論	1・2	2	
	個体群生態学特論	1・2	2	
	古生物学特論	1・2	2	
	ワイルドライフマネジメント特論	1・2	2	
	植物生態学特論	1・2	2	
	植生学特別演習	1・2	2	
	保全生態学特論	1・2	2	
	野生動物管理フィールド特別演習	1・2	2	
	ランドスケープ保全特論	1・2	2	
	国土空間学特論	1・2	2	
	海洋生物生態学特論	1・2	2	
	種生物学特論	1・2	2	
	地球環境進化学特論	1・2	2	
	植物分類学特論	1・2	2	
	基礎昆虫学特論	1・2	2	
	古脊椎動物学特論	1・2	2	
	リサーチトレーニング特論	1・2	2	

医療健康工学概論	1・2	2	先端医療工学研究所共通科目(10単位を上限として修了所要単位に含まれる)
人間健康科学特論	1・2	2	
臨床食環境栄養特論	1・2	2	
看護と保健政策	1・2	2	
病院情報システム特論	1・2	2	
デジタルヘルス	1・2	2	
データヘルス	1・2	2	
スポーツマネジメント研究	1・2	2	共通開設科目 (修了所要単位を含む)
バイオメカニクス	1・2	2	
コミュニティ・プランナー方法論	1・2	2	CP共通科目
コミュニティ・プランナー方法論実践	1・2	2	
産学連携実践講義	1・2	2	修了所要単位に含めない
特別ゼミナール(前期) I	1	2	必修
特別ゼミナール(後期) I	1	2	
特別ゼミナール(前期) II	1	2	特別ゼミナール(前期) II、(後期) IIもしくは特別実験(前期)、(後期)もしくは健康スポーツ科学課題演習 I、IIのどちらかを選択すること
特別ゼミナール(後期) II	1	2	
特別実験(前期)	1	2	
特別実験(後期)	1	2	
健康スポーツ科学課題演習 I	1・2	2	
健康スポーツ科学課題演習 II	1・2	2	
特別研究(前期)	2	4	一般の院生は特別研究、社会人院生で職場等における研究課題をもった学生は特別フィールド研究を選択すること
特別研究(後期)	2	4	
特別フィールド研究 I	1後又は2前	3	
特別フィールド研究 II	1後又は2前	3	
特別フィールド研究 III	2	4	

<修了のための条件>

- 1 修得単位数は30単位以上
- 2 必要単位数を6単位まで、他研究科開講科目から修得することが可能
- 3 特別ゼミナール I 4単位修得
- 4 特別ゼミナール II 又は特別実験又は健康スポーツ科学課題演習 I II 4単位修得
- 5 特別研究8単位又は特別フィールド研究10単位修得
- 6 修士論文中間発表を終えていること。
- 7 必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。

別表第4 博士後期課程

部 門	授業科目の名称	開講年次	単位数又は時間数		備 考
			必修	選択	
人間環境・社会環境 部門	環境人間学特別演習	1・2	4		
	環境人間学特別研究	2・3	6		
	産学連携実践講義	1		2	修了所要単位に含めない
	ジョブ型研究インターンシップ	指定なし		2	修了所要単位に含めない

<修了のための条件>

- 1 環境人間学特別演習を4単位以上修得し、かつ、環境人間学特別研究を6単位以上修得し、合計10単位以上修得すること。
- 2 博士論文中間発表を終えていること。
- 3 必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。

別表第5(第18条関係)

保健体育

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
			必修	選択	
大学が独自に 設定する科目	健康スポーツ科学課題演習Ⅰ	1・2	2		
	健康スポーツ科学課題演習Ⅱ	1・2	2		
	健康発達特論	1・2	2		
	トレーニング特論	1・2	2		
	生涯スポーツ教育特論	1・2	2		
	スポーツマネジメント研究	1・2		2	選択科目から 14単位選択必 修
	バイオメカニクス	1・2		2	
	地域教育政策特論	1・2		2	
	多文化共生教育特論	1・2		2	
	防災心理・教育学特論	1・2		2	
	生涯発達心理学特論	1・2		2	
	教育原論特論	1・2		2	
	臨床心理学特論	1・2		2	
	生徒指導実践特論 ^{注)}	1・2		2	
	人間学特論	1・2		2	

栄養教諭

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
			必修	選択	
大学が独自に 設定する科目	ライフステージ栄養学特論	1・2	2		
	実践栄養学特論	1・2	2		
	食品科学特論	1・2	2		
	生命環境特論	1・2	2		
	臨床食環境栄養特論	1・2	2		
	地域教育政策特論	1・2		2	選択科目から 14単位選択必 修
	多文化共生教育特論	1・2		2	
	防災心理・教育学特論	1・2		2	
	生涯発達心理学特論	1・2		2	
	教育原論特論	1・2		2	
	臨床心理学特論	1・2		2	
	生徒指導実践特論 ^{注)}	1・2		2	
	人間学特論	1・2		2	

注)「優れた教師人材の確保に向けた奨学金の返還支援の在り方について議論のまとめ」(令和6年3月19日中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会)を踏まえた教師になった者に対する奨学金返還支援に関する周知等について(令和6年5月9日6文科教第347号)通知1-(1)-②-※4に該当する履修科目。詳細は以下URLよりご確認ください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/houkoku/mext_02745.html

令和5年兵庫県立大学環境人間学研究科規程第2号

兵庫県立大学環境人間学研究科における学修目的および学修内容に関する規程

第1条 兵庫県立大学環境人間学研究科規程第20条に基づき、環境人間学専攻における学修目的と内容(学位の専門性・学問領域・研究結果等の内容を分類したもの)を表1のとおり定める。

(表1)

人間科学・文化	生涯にわたる人の育ちや心身の健康への理解を深めること、また言語や文化の視点から日本や世界を多角的に捉えることで、より望ましい人間の生き方とは何かについて学術的に学修。
公共政策	公共政策分野における研究・実践を担える人材育成を目指し、社会科学の知見や方法論をベースに、都市・農村計画学等を組み合わせて学際的に学修。
建築・都市	建築に関わる専門家の育成を目指し、環境と人間、建築意匠、インテリア計画、住宅計画、建築計画、都市計画を学修。
自然・環境	自然環境(地圏・水圏・大気圏・生物圏)中の諸現象の解明を目指し、フィールド観測や環境計測、情報処理技術をベースとしたデータ採取、解析手法を学修。
食環境栄養	食と健康に関わる場(保健・医療・福祉・行政・教育・企業・研究機関など)における実践・研究に必要な科学的思考力・研究力を修得するため、栄養学の基礎または応用分野の高度な専門知識と実践力を学修。
共生博物	県立人と自然の博物館や兵庫県森林動物研究センターの研究施設を活用し、身近な自然をフィールドとして実践的に研究し、生物多様性の保全と持続的利用の観点から、望ましい人と自然の関係構築を考究し、実践できる力量を学修。
先端医療工学	健康、医療、看護、栄養に関する諸問題の解決に資する専門知識と技術を習得し、人々の健康と生活の質向上を目指した社会への提言につなげる能力を学修。

附則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附則(令和6年2月21日改正)

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

兵庫県立大学長期履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、兵庫県立大学学則（平成25年法人規程第75号。以下「大学学則」という。）第16条第2項及び兵庫県立大学大学院学則（平成25年法人規程第76号。以下「大学院学則」という。）第16条第2項の規定に基づき、兵庫県立大学における長期履修（大学学則第8条に規定する修業年限又は大学院学則第6条に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することをいう。以下同じ。）の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(対象となる学生)

第2条 長期履修を申請することができる学生は、本学に在学する者及び入学する予定の者のうち、次の各号のいずれかに該当する者（以下「対象者」という。）とする。ただし、在学期間を通算した年が修業年限又は標準修業年限における最終年次となる者、第6条第1項で定める長期履修の取りやめを認められた者並びに第7条で定める長期履修の許可を取消された者を除く。

- (1) 定まった職業を有する者（自営業及びフルタイムの有職者と同等の勤務状況にあると認められる臨時雇用を含む）
- (2) 家事、育児、介護等を行う必要のある者
- (3) 障がいのある者
- (4) その他長期履修が必要となる特別な理由があると認められる者

(申請手続)

第3条 長期履修を願い出る者は、長期履修許可願（様式第1号）に長期履修計画書（様式第2号）と次の各号のいずれかの証明書類を添え、所定の期日までに学務所管課に提出しなければならない。

- (1) 会社等に勤務する者は、所属長の在職証明書
- (2) 家事、育児、介護等に従事している者は、家事、育児、介護等に従事していることの証明書又は申立書
- (3) 障がいがあることを証明するもの
- (4) 本人の健康状態を理由として申請する者は、医師の診断書等
- (5) その他学部長又は研究科長（以下「学部長等」という。）が提出を求める書類

(許可)

第4条 長期履修の許可は、教授会又は研究科委員会（以下「教授会等」という。）の意見を聴いた上で、学長が行う。

(長期履修の開始時期、期間及び在学年限)

第5条 長期履修を認める期間（以下「長期履修期間」という。）については、学年の初め（兵庫県立大学学則第18条及び兵庫県立大学大学院学則第18条）を開始日とし、年を単位として決定する。

- 2 長期履修期間は、大学学則第9条及び大学院学則第7条に規定する在学年限を超えることができない。

(長期履修期間の変更)

第6条 長期履修を許可された者（以下「長期履修者」という。）が第2条で定める対象者から該当しなくなった場合は、次年次から履修期間を当該課程の修業年限又は標準修業年限に相当する年限に変更することを申し出ることとし、長期履修期間変更申請書（様式第3号）を所定の期日までに学務所管課に提出しなければならない。

- 2 前項のほか、長期履修者が長期履修期間を変更する事由が生じた場合であって、長期履修期間の短縮又は延長を希望する場合は、長期履修期間変更申請書（様式第3号）を所定の期日までに学務所管課に提出しなければならない。
- 3 長期履修期間の変更は、当該課程において1回限りとする。

(許可の取消し)

第7条 学長は、長期履修者が長期履修に関し虚偽の申請をしたことが判明したとき、その他長期履修を行わせることが適当でないと思われるときは、教授会等の意見を聴いたうえで、長期履修の許可を取消することができる。

(授業料)

第8条 長期履修者に係る授業料の取扱いは、兵庫県立大学授業料等に関する規程の定めるところによる。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月24日改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和3年1月27日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和3年12月22日改正）

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

平成25年兵庫県立大学環境人間学研究科規程第4号
兵庫県立大学環境人間学研究科長期履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、兵庫県立大学長期履修規程（平成25年兵庫県立大学規程第108号）第9条第1項の規定に基づき、長期にわたる教育課程の履修の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(申請手続)

第2条 兵庫県立大学長期履修規程第2条に定める対象者に該当し、長期履修を願ひ出る者は、指導教員等の承認を得たうえで、兵庫県立大学長期履修規程第3条の規定で定める書類を、別に定める期間内に学務所管課に提出しなければならない。

(長期履修期間の変更)

第3条 兵庫県立大学長期履修規程第6条の規定により、長期履修を許可された者（長期履修者）が、長期履修期間を変更する場合は、指導教員等の承認を得たうえで、長期履修期間変更申請書（様式第3号）を別に定める期間内に学務所管課に提出しなければならない。

(補則)

第4条 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月11日改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月11日改正）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和2年11月18日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和3年2月17日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和4年2月16日改正）

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

令和8年度学年暦

【前期】

	月	火	水	木	金	土	日	行事
4月			1	2	3	4	5	4月3日 学部新入生入学手続き・研究科新入生オリエンテーション
	6	7	8 ①	9 ①	10 ①	11	12	4月6日 学部新入生・2年生オリエンテーション
	13 ①	14 ①	15 ②	16 ②	17 ②	18	19	4月7日 入学宣誓式
	20 ②	21 ②	22 ③	23 ③	24 ③	25	26	4月8日 授業開始日
	27 ③	28 ③	29	30 ④				4月29日 昭和の日
5月					1 ④	2	3	5月3日 憲法記念日・5月4日 みどりの日
	4	5	6	7 ⑤	8 ⑤	9	10	5月5日 こどもの日・5月6日 振替休日
	11 ④	12 ④	13 ④	14 ⑥	15 ⑥	16	17	5月9日～15日 履修取消期間
	18 ⑤	19 ⑤	20 ⑤	21 ⑦	22 ⑦	23	24	5月17日 テクノフェスタ
	25 ⑥	26 ⑥	27 ⑥	28 ⑧	29 ⑧	30	31	5月18日 開学記念日(平常授業あり)
6月	1 ⑦	2 ⑦	3 ⑦	4 ⑨	5 ⑨	6	7	
	8 ⑧	9 ⑧	10 ⑧	11 ⑩	12 ⑩	13	14	
	15 ⑨	16 ⑨	17 ⑨	18 ⑪	19 ⑪	20	21	
	22 ⑩	23 ⑩	24 ⑩	25 ⑫	26 ⑫	27	28	
	29 ⑪	30 ⑪						
7月			1 ⑪	2 ⑬	3 ⑬	4	5	7月5日 エコフェス
	6 ⑫	7 ⑫	8 ⑫	9 ⑭	10 ⑭	11	12	
	13 ⑬	14 ⑬	15 ⑬	16 ⑮	17 ⑮	18	19	7月20日 海の日(平常授業あり)
	20 ⑭	21 ⑭	22 ⑭	23 火 ⑮	24 水 ⑮	25	26	7月23日(木)は、5/5(火)の振替授業日 7月24日(金)は、4/29(水)の振替授業日
	27 ⑮	28	29	30	31			
8月						1	2	7月25日・28日～8月10日補講・試験日
	3	4	5	6	7	8	9	8月11日 山の日
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
9月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	9月21日 敬老の日・9月22日 振替休日
	21	22	23	24	25	26	27	9月23日 秋分の日
	28	29	30					9月24日 秋季学位記授与式

※授業日数は、各曜日とも15日(定期試験の日を除く)。

※二重線は振替授業日。

※防災リーダー教育プログラム専門科目は、原則土曜日開講。

■で表示。

なお、同一の科目を複数回開講する日もあり。また、前期は夏季集中講義による開講もあり。

※太字は補講・試験日。

※場合により、上記以外で休業日に授業を開講する場合もあり。

令和8年度学年暦

【後期】

	月	火	水	木	金	土	日	行事
10月				1 ①	2 ①	3	4	10月1日 後期の授業開始日
	5 ①	6 ①	7 ①	8 ②	9 ②	10	11	
	12 ②	13 ②	14 ②	15 ③	16 ③	17	18	10月12日 スポーツの日(平常授業あり)
	19 ③	20 ③	21 ③	22 ④	23 ④	24	25	
	26 ④	27 ④	28 ④	29 ⑤	30	31		10月30日～11月1日 工学祭(姫路工学キャンパス)
11月							1	
	2 ⑤	3	4 ⑤	5 ⑥	6 ⑤	7	8	11月3日 文化の日
	9 ⑥	10 ⑤	11 ⑥	12 ⑦	13 ⑥	14	15	11月4日～10日 履修取消期間
	16 ⑦	17 ⑥	18 ⑦	19 ⑧	20 ⑦	21	22	11月23日 勤労感謝の日(平常授業あり)
	23 ⑧	24 ⑦	25 ⑧	26 ⑨	27 ⑧	28	29	
	30 ⑨							
12月		1 ⑧	2 ⑨	3 ⑩	4 ⑨	5	6	
	7 ⑩	8 ⑨	9 ⑩	10 ⑪	11 ⑩	12	13	
	14 ⑪	15 ⑩	16 ⑪	17 ⑫	18 ⑪	19	20	
	21 ⑫	22 ⑪	23 ⑫	24 ⑬	25	26	27	12月25日～1月4日 冬季休業
	28	29	30	31				
令和9年1月					1	2	3	1月5日 授業再開・1月11日 成人の日
	4	5 ⑫	6 ⑬	7 ⑭	8 ⑫	9	10	1月15日 大学入学共通テスト準備
	11	12 ⑬	13 ⑭	14 ⑮	15	16	17	1月16日・17日 大学入学共通テスト
	18 ⑬	19 ⑭	20 ⑮	21 月 ⑭	22 ⑬	23	24	1/21(木)・1/27(水)・1/28(木)は、 1/11(月)・1/15(金)・1/16(土)の振替授業日
	25 ⑮	26 ⑮	27 金 ⑭	28 土	29 ⑮	30	31	
令和9年2月	1	2	3	4	5	6	7	2月1日～13日 補講・試験日
	8	9	10	11	12	13	14	2月11日 建国記念日(補講・試験あり)
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	2月23日 天皇誕生日
令和9年3月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	3月21日 春分の日・3月22日 振替休日
	22	23	24	25	26	27	28	3月26日 学位記授与式
	29	30	31					

※授業日数は、各曜日とも15日(定期試験の日を除く)。

※二重線は振替授業日。

※防災リーダー教育プログラム専門科目は、原則土曜日開講。

□で表示。

なお、同一の科目を複数回開講する日もあり。

※太字は補講・試験日。

※場合により、上記以外で休業日に授業を開講する場合もあり。